3-080-371-02 (1)

SONY

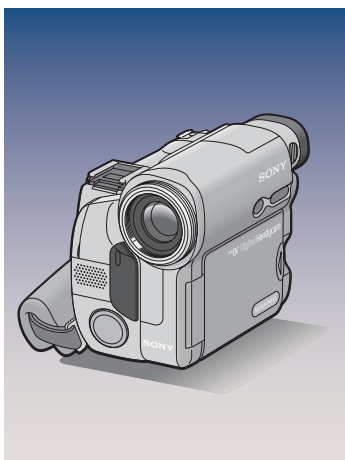
デジタルビデオカメラレコーダー

Mini DV Digital Video Cassette

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

別冊の「パソコンに画像を取り込んで楽しもう!」もご覧ください。

Digital Handycam

DCR-TRV33K

お使いになる前に必ずお読みください

CM カセットメモリー付きのミニDVカセットをおすすめします

本機はDV方式のビデオカメラレコーダーです。ミニDVカセットでのみご使用になれます。本機ではカセットメモリー付きのミニDVカセットを推奨しています。
カセットメモリー付きミニDVカセットにはCMマークが付いています。

ためし撮り

必ず事前にためし撮りをし、正常に録画・録音されていることを確認してください。

録画内容の補償はできません

万一、ビデオカメラレコーダーや記録メディアなどの不具合により記録や再生がされなかった場合、画像や音声などの記録内容の補償については、ご容赦ください。

他機との接続についてのご注意

USBケーブルやi.LINKケーブルなどで、本機と他のビデオ、または本機とパソコンを接続する場合、端子の向きを確認してつなげてください。
無理に押し込むと、端子部が破損することがあります。また、本機の故障の原因となります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

著作権について

あなたがビデオで録画・録音したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

液晶画面、ファインダー（搭載機種のみ）およびレンズについて

- 液晶画面やファインダーは有効画素99.99%以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現れたり、白や赤、青、緑の点が消えないことがあります。これは故障ではありません。これらの点は記録されませんのでご安心してお使いください。
- 液晶画面やファインダー、レンズを太陽に向けたままにすると故障の原因になります。窓際や屋外に置くときはご注意ください。
- 直接太陽を撮影しないでください。故障の原因になります。夕暮れ時の太陽など光量の少ない場合は撮影できます。

本書内の写真について

液晶画面やファインダーの映像を説明するのに、スチルカメラによる写真を使っています。実際に見えるものとは異なります。

カール ツァイスレンズ搭載

本機はカール ツァイスレンズを搭載し、繊細な映像表現を可能にしました。本機用に生産されたレンズは、ドイツ　カール ツァイスとソニーで共同開発した、MTF*測定システムを用いてその品質を管理され、カール ツァイスレンズとしての品質を維持しています。

* Modulation（モジュレーション） Transfer（トランスファー） Function（ファンクション）の略。
被写体のある部分の光を、画像の対応する位置にどれだけ集められるかを表す数値。

本書の使いかた

この取扱説明書は、大きく、お使いになる前に（12～20ページ）、基本操作編（21～39ページ）、応用操作編（40～134ページ）、その他の情報（135ページ～）に分かれています。

- **基本操作編**では、テープに撮影する方法、撮影した映像を見る方法を説明しています。
- **応用操作編**では、手動で設定を変えて撮影する方法、画像を見るときに使える機能、他機とつないでの操作方法、“メモリースティック”を使った操作の方法を説明しています。

応用操作編では、操作の一部を(ビデオ)などのマークで説明しています。

目次

応用操作編

使いこなす– 撮影

使いこなす– 再生

編集する– ダビングなど

目次（つづき）

“メモリースティック”を使う

パソコンと接続する

別冊の「パソコンに画像を取り込んで楽しもう!」もあわせてご覧ください。

設定を変える

その他の情報

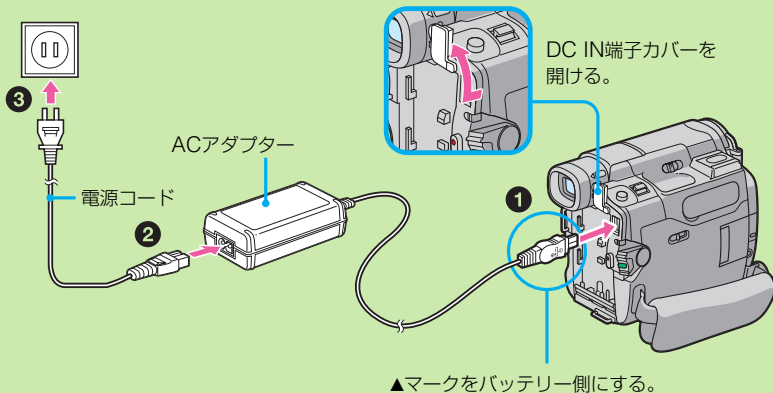
故障かな？と思ったら

その他

検索する

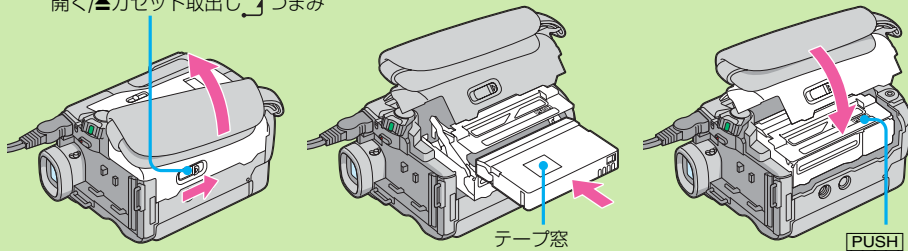
とにかく撮って見る –テープ編

1 電源をつなぐ

屋外ではバッテリーを使います。 → 12ページ

2 カセットを入れる

❶ **開く/▲カセット取出しつまみを矢印の方向へずらしてから、カセットぶたを開ける。**

❷ **カセットのテープ窓を上にして、背の中央部を押して入れる。**

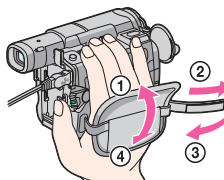
❸ **PUSH マークを押して、カセット入れを閉める。カセット入れが完全に引き込まれたら、カセットぶたを閉める。**

ご注意

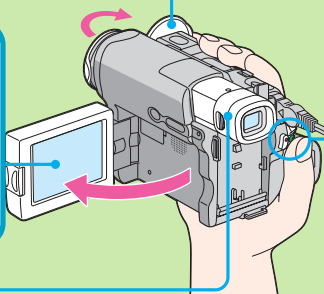
カセット入れを無理に押し込まないでください。故障の原因になります。

カセットを取り出すには

「カセットを入れる」の手順で操作し、手順❷で取り出す。

正しい持ちかた

グリップベルトのしめかた

グリップベルトはしっかりとしめてください。

3 撮影する（21ページ）

❶ レンズキャップを開く（21ページ）。

❷ 緑のボタンを押しながら「カメラ」にする。

❸ **OPENボタンを押しながら液晶画面を開ける。**
画像が液晶画面に映ります。

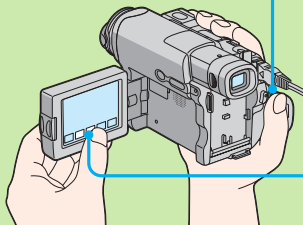
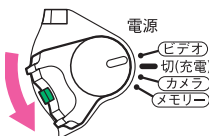
❹ **スタート/ストップボタンを押す。**
撮影が始まります。

もう一度押すと止まります。

ファインダー
液晶画面を閉じているときは、ここをのばしてから目を当てて画像を見ます。ご自分の視力に合わせて、視度を調整してください（26ページ）。

お買い上げ時には日付・時刻は設定されていません。
撮影する前に日付・時刻を合わせてください（16ページ）。

4 液晶画面で見る（34ページ）

❶ 緑のボタンを押しながら「ビデオ」にする。

❷ タッチパネルの ◀◀ （巻戻しボタン）を押してテープを巻き戻す。

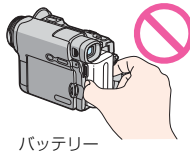
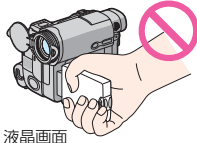
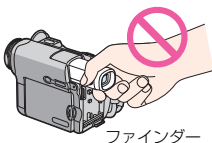
❸ ▶ II （再生ボタン）を押すとテープが再生される。

ご注意

タッチパネルを使うときは、液晶画面の裏側をささえながら指で軽く押してください。ペンなどの先の尖ったもので押さないでください。

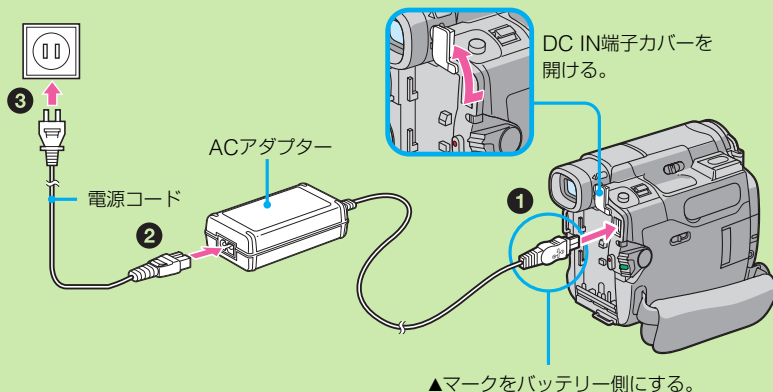
以下の部分をつかんで持ち上げないでください。

ファインダー

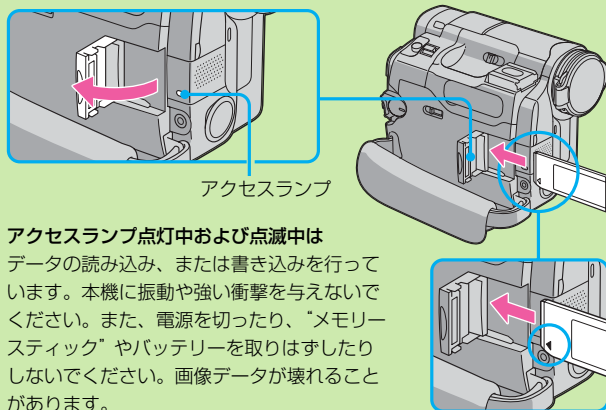
液晶画面

バッテリー

とにかく撮って見る —“メモリースティック”編

1 電源をつなぐ

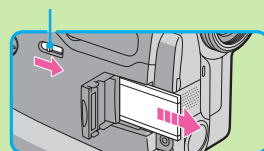
屋外ではバッテリーを使います → 12ページ

2 “メモリースティック”を入れる（92ページ）

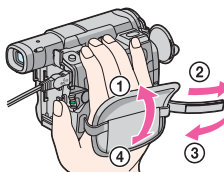
❶ “メモリースティック”スロットのふたを開ける。

❷ ◀マークを下図のようにして奥まで押しこむ。

❸ ふたを閉める。

アクセスランプ点灯中および点滅中は
データの読み込み、または書き込みを行っています。本機に振動や強い衝撃を与えないでください。また、電源を切ったり、“メモリースティック”やバッテリーを取りはずしたりしないでください。画像データが壊れることがあります。

取り出すときは
ふたを開け、メモリー取出しボタンを下図の矢印の方向へずらす。

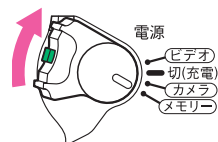
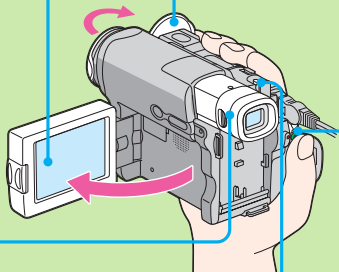
メモリー取出しボタン

正しい持ちかた

グリップベルトのしめかた

グリップベルトはしっかりとしめてください。

3 "メモリースティック" に静止画を撮る (96ページ)

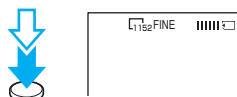
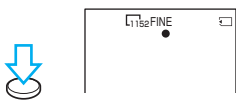
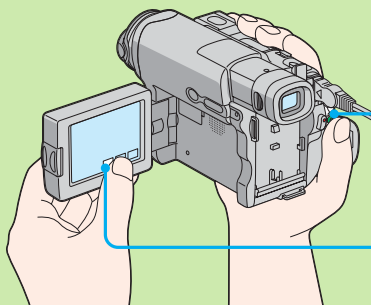
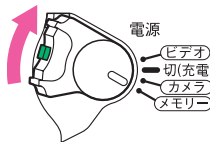
❶ **レンズキャップを開く(21ページ)。**

❷ **緑のボタンを押しながら「メモリー」にする。**
ロックつまみが右側になっているときは、左側 (解除) にします。

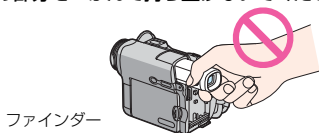
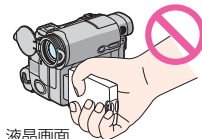
❸ **OPENボタンを押しながら液晶画面を開ける。**
画像が液晶画面に映ります。

ファインダー
液晶画面を閉じているときは、ここをのばしてから目を当てて画像を見ます。ご自分の視力に合わせて、視度を調整してください (26ページ)。

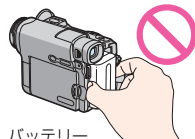
お買い上げ時には日付・時刻は設定されていません。撮影する前に日付・時刻を合わせてください (16ページ)。

❹ **フォトボタンを軽く押す。**
緑の●が点滅から点灯に変わり撮影可能となります。

❺ **フォトボタンを深く押す。**
ボタンを深く押したときの画像が "メモリースティック" に記録されます。

4 液晶画面で静止画を見る (110ページ)

❶ **緑のボタンを押しながら「メモリー」にする。**
ロックつまみが右側になっているときは、左側 (解除) にします。

❷ **「再生」を押す。**
最後に撮影した画像が表示されます。

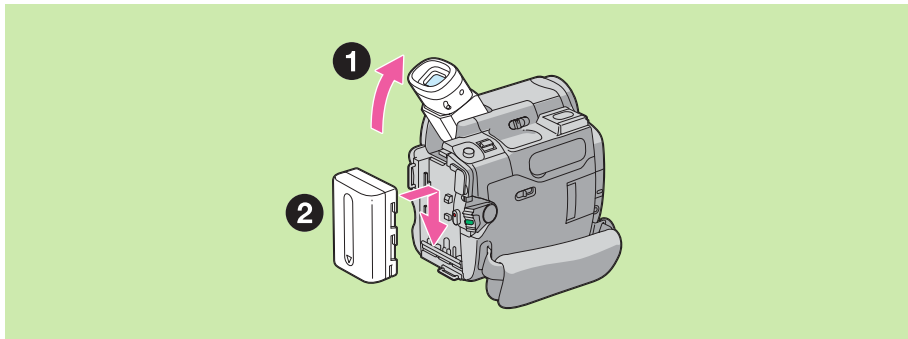
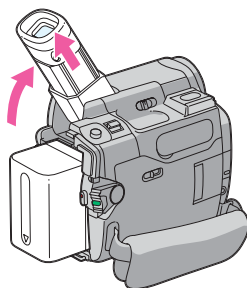
再生

以下の部分をつかんで持ち上げないでください。

ファインダー

液晶画面

バッテリー

準備1　電源を準備する

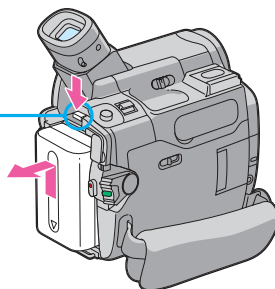
バッテリーを取り付ける/取りはずす

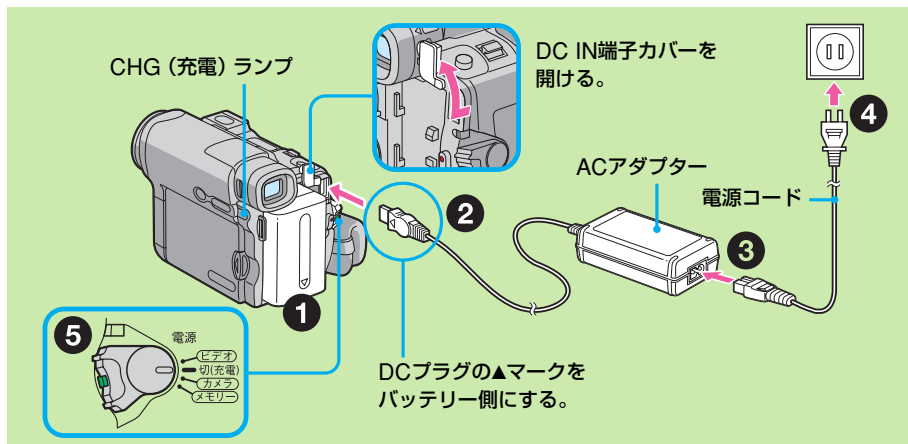
バッテリーの交換は、電源スイッチを「切（充電）」にしてから行ってください。

容量の大きいバッテリーを使ってファインダーを使用するときは
容量の大きいバッテリー（NP-FM70/QM70/QM71/QM71D/FM91/QM91/QM91D）をご使用のときは、ファインダーをのばしてから、上げて見やすい角度にしてください。

1 ファインダーを上げる。

2 バッテリーを押しながら、カチッとロックするまで矢印の方向へずらす。

本体から取りはずす

1 ファインダーを上げる。

2 BATT（バッテリー）取りはずしボタンを押しながら、バッテリーを上にずらして取りはずす。

バッテリーを充電する

バッテリーは充電してからお使いください。
本機の電源には、**“インフォリチウム” バッテリー（Mシリーズ）**を使用します。
それ以外のバッテリーはお使いになれません。
“インフォリチウム” バッテリーについて、詳しくは149ページをご覧ください。

ご注意

ACアダプターのDCプラグを金属類でショートさせないでください。故障の原因になります。

ACアダプターは
コンセントの近くでお使いください。
ACアダプターをご使用中に不具合が生じたときはすぐにコンセントからプラグを抜き、電源を遮断してください。

充電中のCHG（充電）ランプについて
以下の場合、点滅することがあります。
- バッテリーが正しく取り付けられていない。
- バッテリーが故障している。

1 本機にバッテリーを取り付ける。

2 ACアダプターを本機のDC IN端子につなぐ。
DC IN端子カバーを開け、DCプラグの▲マークをバッテリー側にしてつなぎます。

3 電源コードをACアダプターにつなぐ。

4 電源コードをコンセントにつなぐ。

5 本機の電源スイッチを「切（充電）」にする。
充電が始まると、CHG（充電）ランプが点灯し、終わるとランプは消えます**（満充電）**。

バッテリーの充電が終わったら

ACアダプターをDC IN端子から抜く。

次のページへつづく

バッテリー残量の表示時間が充分なのに電源がすぐに切れるときは
満充電をすると正しく表示されます。

海外でも充電できます
詳しくは152ページをご覧ください。

充電時間

バッテリー	満充電時間
NP-FM30（付属）	145
NP-FM50	150
NP-FM70/QM70	240
NP-QM71/QM71D	260
NP-FM91/QM91/QM91D	360

使い切ったバッテリーを25℃（10〜30℃推奨）で充電したときの時間（約　分）。

まわりの温度によりバッテリーの温度が極端に高いまたは低いと、充電時間が長くなることがあります。

ご注意

25℃で撮影、再生したときの時間の目安です。低温では使用時間が短くなります。

撮影時間

バッテリー	ファインダーで撮影		液晶画面で撮影	
	連続撮影時	実撮影時*	連続撮影時	実撮影時*
NP-FM30（付属）	90	50	70	35
NP-FM50	150	85	120	65
NP-FM70/QM70	310	175	250	140
NP-QM71/QM71D	365	205	290	165
NP-FM91/QM91/QM91D	550	310	445	250

満充電してからの時間（約　分）。

* 録画、スタンバイ、電源入/切、ズームなどを繰り返したときの撮影時間の目安。実際にはこれよりも短くなることがあります。

再生時間

バッテリー	液晶画面で再生	液晶画面を閉じて再生
NP-FM30（付属）	100	135
NP-FM50	160	220
NP-FM70/QM70	335	450
NP-QM71/QM71D	390	530
NP-FM91/QM91/QM91D	585	785

満充電してからの時間（約　分）。

ご注意

- 以下の場合、バッテリーインフォが表示されません。
  - バッテリーが取り付けられていない。
  - バッテリーが故障している。
- 以下の場合、バッテリーインフォが正しく表示されないことがあります。
  - バッテリーが消耗している。
- 電源スイッチが「切」のときにリモコンの画面表示ボタンを押しても、バッテリー残量は表示されません。

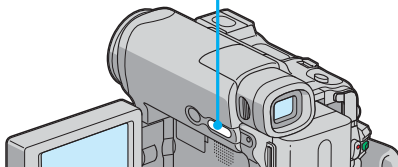
バッテリーインフォで表示される数値は

目安としてお使いください。

バッテリー残量を計算しているときは

「チェック中です」が表示されます。

バッテリーの使用状況を確認する ーバッテリーインフォ

画面表示/バッテリーインフォボタン

❶ 電源スイッチを「切（充電）」にする。

❷ OPENボタンを押しながら液晶画面を開ける。

❸ 画面表示/バッテリーインフォボタンを押す。

バッテリー残量が約7秒間表示されます。

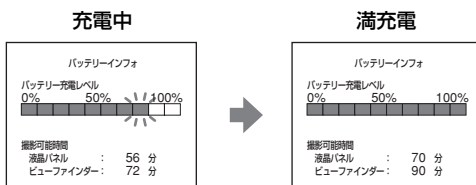
画面表示/バッテリーインフォボタンを押し続けると、約20秒間表示されます。

充電中

バッテリーインフォ

バッテリー充電レベル
0%　50%　100%

撮影可能時間
液晶パネル　：　56 分
ビューファインダー：　72 分

満充電

液晶画面を閉じたまま画面表示/バッテリーインフォボタンを押すと

ファインダー内にバッテリー残量が約7秒間表示されます。

コンセントにつないで使う

コンセントにつないで使うとき

- バッテリーをつけたままでもお使いいただけます。
- 電源供給はDC IN端子が優先されます。バッテリーで使用するとき、コンセントから電源コードを抜いても、DC IN端子にコードが差し込まれているとバッテリーから電源は供給されません。

バッテリー切れの心配なく使えます。

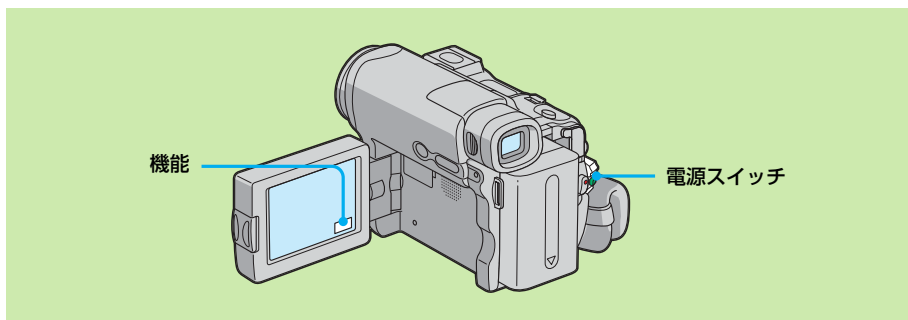
「バッテリーを充電する」（13ページ）と同じようにつなぎます。

準備2　日付・時刻を合わせる

本機をはじめて使うときは、日付・時刻を設定してください。設定しないと、電源スイッチを「カメラ」または「メモリー」にするたびにお知らせメッセージが出ます。

日時を設定しないと、テープと“メモリースティック”のデータコードには

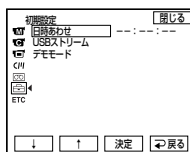
「–––– –– ––」と「––:––:––」が記録されます。

4か月近く使わなかったときなどに、内蔵の充電式ボタン電池が放電して日付・時刻の設定が解除されることがあります。その場合、充電式ボタン電池を充電してから合わせ直してください（154ページ）。

年→月→日→時→分の順で合わせます。

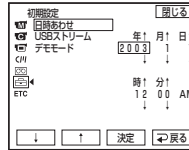
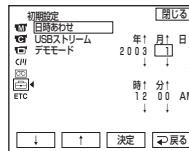
❶ 電源スイッチを「カメラ」または「メモリー」にする。

❷ OPENボタンを押しながら液晶画面を開く。

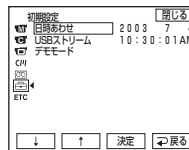
❸「機能」を押し、ページ1画面を出す（18ページ）。

❹「メニュー」を押して、メニュー画面を出す。

❺「↓」/「↑」を押して🧰を選び、「決定」を押す。

真夜中は12:00:00AM、正午は12:00:00PMと表示します。

❻ 「↓」/「↑」を押して「日時あわせ」を選び、「決定」を押す。

❼ 「↓」/「↑」を押して「年」を合わせ、「決定」を押す。

❽ 手順❼と同様に「月」、「日」、「時」を合わせる。

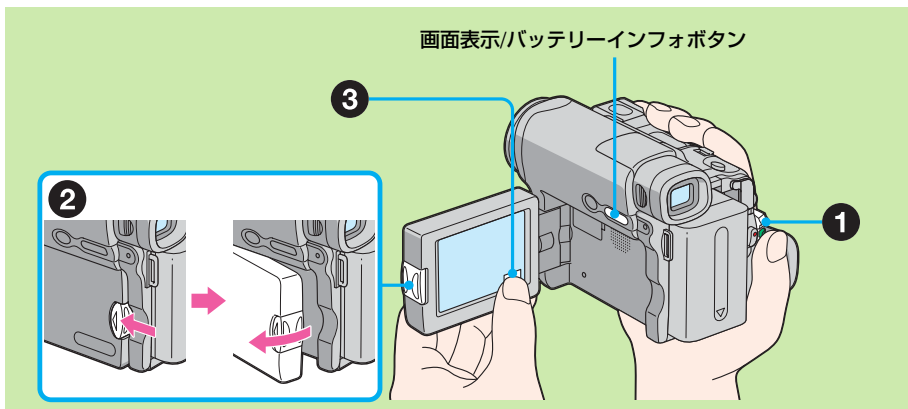
❾ 「↓」/「↑」を押して「分」を合わせ、時報と同時に「決定」を押す。

時計が動き始めます。

機能画面に戻すには

「閉じる」を押す。

準備3 タッチパネルの使いかた

本機では、操作に必要なボタンが液晶画面に表示されます。指で直接押して操作します（タッチパネル操作）。

ご注意

- タッチパネルを使うときは、液晶画面の裏側をささえながら親指で押すか、人差し指で軽く押してください。
- ペンなどの先の尖ったもので押さないでください。
- 液晶画面を必要以上に強く押さないでください。
- ぬれた手で液晶画面に触れないでください。

各々の項目が設定されているときは
緑色のバー表示が項目の上に表示されます。

選択できないボタンは
グレー表示になります。

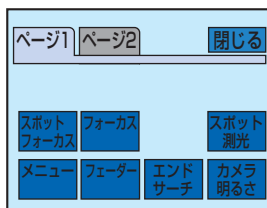
タッチパネルは
ファインダーを見ながら操作することもできます（57ページ）。

❶ 電源スイッチを「カメラ」（撮影時）、「ビデオ」（再生時）、または「メモリー」（“メモリースティック” 使用時）にする。

❷ OPENボタンを押しながら、液晶画面を開ける。

❸ 「機能」を押す。

ページ1画面の操作ボタンが表示されます。

「機能」が表示されていないときは、液晶画面を軽く押すと表示されます。液晶画面の表示は、本体の画面表示/バッテリーインフォボタンを押して、表示したり消したりすることができます。

電源スイッチが「カメラ」のとき

❹ 「ページ2」または「ページ3」を押してページを選ぶ。

ページ2画面またはページ3画面の操作ボタンが表示されます。

❺ 希望の項目を押す。

詳しくは各機能の説明をご覧ください。

機能画面に戻すには

「閉じる」を押す。

設定を決定するには

「⮐決定」を押す。

ページ1/ページ2/ページ3画面に戻ります。

設定を解除するには

「⮐切」を押す。

ページ1/ページ2/ページ3画面に戻ります。

タッチパネルの表示を消すには

画面表示/バッテリーインフォボタンを押す。

次のページへつづく

各画面の操作ボタン

電源スイッチを［カメラ］にしたとき

ページ1	スポットフォーカス、メニュー、フォーカス、フェーダー、エンドサーチ、スポット測光、カメラ明るさ
ページ2	デジタルエフェクト、セルフタイマー、パネル明るさ、SUPER NS、音量、COLOR SLW S、メモリーミックス

電源スイッチを［ビデオ］にしたとき

ページ1	メニュー、パネル明るさ、音量、エンドサーチ
ページ2	データコード、デジタルエフェクト、再生ズーム
ページ3	変速再生、アフレコそうさ、録画そうさ

電源スイッチを[メモリー]にしたとき

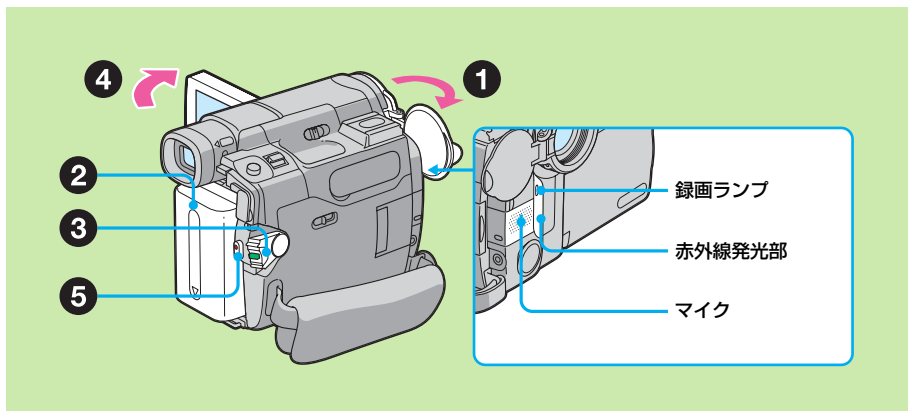
メモリー「カメラ」のとき

ページ1	スポットフォーカス、メニュー、フォーカス、再生、再生フォルダ、スポット測光、カメラ明るさ
ページ2	セルフタイマー、再生、メモリーミックス
ページ3	パネル明るさ、再生、音量

メモリー「再生」のとき

ページ1	メニュー、カメラ、再生フォルダ、消去
ページ2	再生ズーム、カメラ、リサイズ、データコード
ページ3	パネル明るさ、カメラ、音量

撮影する

あらかじめ「準備1~2」（12～17ページ）を行ってください。

長時間録画したいときは

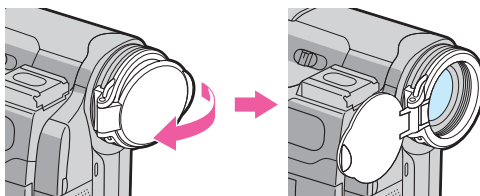
メニューの[ ]の「録画モード」を「LP」にします（132ページ）。録画時間がSP（標準）モードの1.5倍になります
本機のLPモードで録画したテープは本機で再生することをおすすめします。

きれいなつなぎ撮りのために

カセットを取り出さない限り、電源を切っても撮影した映像はきれいにつながります。その際、次の点にご注意ください。

- テープの途中で録画モード（SP/LP、132ページ）を変えない。
- バッテリーの交換は電源スイッチを「切（充電）」にしてから行う。

❶ レンズキャップを開く。

レンズキャップが、マイクや赤外線発光部にかからないようにご注意ください。

❷ バッテリーなどの電源を準備し（12ページ）、カセットを入れる（8ページ）。

撮る

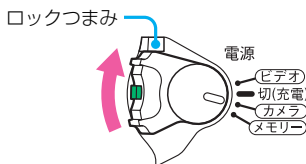
次のページへつづく

撮影スタンバイが5分以上続くと
自動的に電源が切れます。これはバッテリーの消耗を防ぎ、テープを保護するためです。再び撮影を始めるには電源スイッチを一度「切（充電）」にしてから、「カメラ」に戻して撮影スタンバイにしてください。ただし、カセットが入っていなければ、撮影スタンバイが5分以上続いても電源は切れません。

ご注意
マイクに手が触れないようにしてください。

次のようなときは
つなぎ撮りの部分で再生画像や音声が乱れたりタイムコードが正しくつながらないことがあります。
- テープの途中で録画モード（SP/LP）を変える。
- LPモードでつなぎ撮りをする。

❸ 緑のボタンを押しながら電源スイッチを「カメラ」にする。

撮影スタンバイになります。

撮影スタンバイ

ロックつまみについて
ロックつまみを右側（ロック）にすると、気付かないうちに電源スイッチが「メモリー」になるのを防ぎます。（お買い上げ時は左側（解除）になっています。）

❹ OPENボタンを押しながら、液晶画面を開ける。

液晶画面に画像が映ります。

❺ スタート/ストップボタンを押す。

撮影が始まり、「● 録画」が表示されます。録画ランプが点灯します。もう一度押すと止まります。

録画中

セルフタイマー撮影

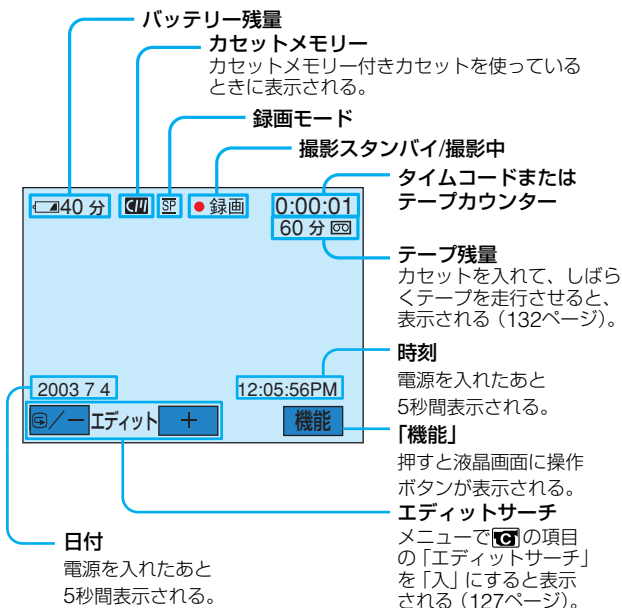
セルフタイマーを使用すると、約10秒後に自動的に撮影が始まります。リモコンも使えます。詳しくは41ページをご覧ください。

撮影中のバッテリー残量表示について
連続撮影時間の目安を表示します。使用状況や環境によっては、正しく表示されない場合があります。液晶画面を開閉したときは、正しい残量時間（分）を表示するのに約1分かかります。

タイムコードについて
テープ走行時間が撮影中のときには「0:00:00」（時:分:秒）、再生中のときには「0:00:00:00」（時:分:秒:フレーム）と表示されます。あとからこのタイムコードだけを書き直すことはできません。

日付データ/カメラデータは
画面には表示されません。自動でテープ上に記録され、再生時に「データコード」を押すと見ることができます。
リモコンも使えます（36ページ）。

撮影中の表示

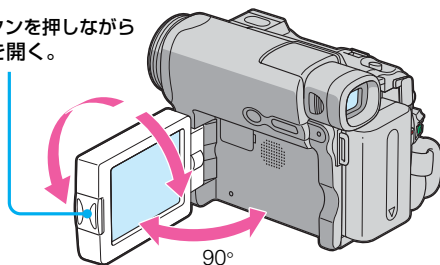
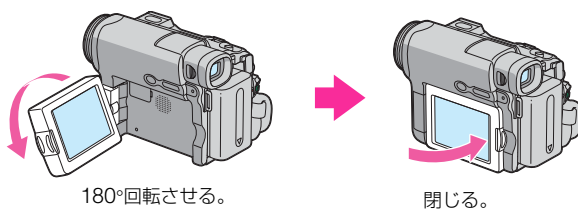
これらの表示はテープには記録されません。

撮影が終わったら

1. **レンズキャップを閉じる。**
2. **電源スイッチを「切（充電）」にする。**
3. **液晶画面を閉じる。**
4. **カセットを取り出す。**
5. **バッテリーなどの電源を取りはずす。**

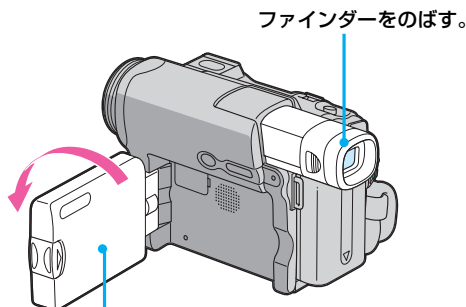
ご注意

- 対面撮影時を除いて、液晶画面を開いているときは、ファインダーには画像が映りません。
- 撮影時・撮影スタンバイ時に液晶画面を外側に向けて本体に閉じたときは、パネルバックライトは「明るさノーマル」に固定されます。

液晶画面を調整する

角度を調整する場合は必ず90°まで開いた状態で行ってください。

液晶画面を外側に向けて本体に閉じることもできます。

対面撮影では
液晶画面に映る画像は鏡のように左右が反転しますが、記録される画像は実際の被写体と同じになります。

対面撮影する

ファインダーと液晶画面で画像が確認できます。
被写体自身が画像を確認したいときなどに使用してください。

パネルバックライトの明るさは
バッテリーを取り付けている場合、メニューのの「パネルバックライト」で変えることができます（128ページ）。

「パネル明るさ」「パネルバックライト」は
調整してもテープ上に記録される画像に変化はありません。

以下のときはファインダーでの撮影をおすすめします
- 液晶画面で画像を確認しづらいとき
- バッテリーを長持ちさせたいとき

液晶画面の明るさを調整する

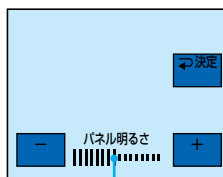
1 電源スイッチを「カメラ」にしたときは、「機能」を押し、「ページ2」を押してページ2画面を出す。

電源スイッチを「ビデオ」にしたときは、「機能」を押し、ページ1画面を出す。

電源スイッチを「メモリー」にしたときは、「機能」を押し、「ページ3」を押してページ3画面を出す。

2 「パネル明るさ」を押す。

パネル明るさ画面が表示されます。

撮る

次のページへつづく

❸ **「－」（暗くする）/「＋」（明るくする）を押して明るさを調整する。**

❹ **「⮐決定」を押す。**

手順❶の画面に戻ります。

機能画面に戻すには

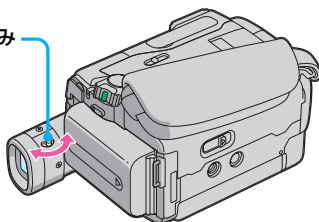
「閉じる」を押す。

ファインダーのバックライトの明るさは
バッテリーを取り付けている場合、メニューの[アイコン]の「VFバックライト」で明るさを変えることができます（128ページ）。

「VFバックライト」は
調整しても、テープ上に記録される画像に変化はありません。

ファインダーの視度を調整する

液晶画面を閉じて撮影するときは、ファインダーで画像を見ます。ご自分の視力に合わせてファインダー内の画像がはっきり見えるように調整してください。

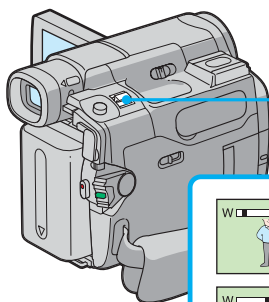
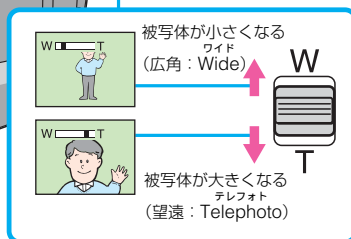
ファインダーをのばして、視度調整つまみを動かす。

近くのものにピントがうまく合わないときは
ズームレバーをW側に動かして広角にします。

電源スイッチを「メモリー」にすると
デジタルズームは使えません。

ズームする

ズームレバーを動かす。

軽く動かすとゆっくりズームし、さらに動かすと速くズームします。

使いすぎると見づらい作品になります。

10倍を超えるズームはデジタルズームになります。

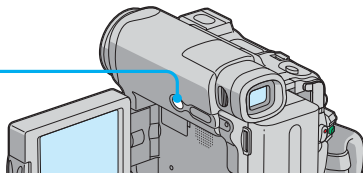
デジタルズームを使うには、メニューで[C]の項目の「デジタルズーム」の倍率を選択してください（127ページ）。ズーム倍率は20倍または120倍までになります。（お買い上げ時は「切」に設定されています。）画像をデジタル処理するため画質が低下します。

このラインよりT側がデジタルズームになります。メニューで「デジタルズーム」の倍率を選ぶと表示されます。

撮る

逆光補正をする

被写体のうしろに光源があり、被写体が暗く映るときなどに明るさの補正をします。

逆光補正中に
「カメラ明るさ」の「マニュアル」（50ページ）、または「スポット測光」（51ページ）を押すと、逆光補正は解除されます。

❶ 電源スイッチを「カメラ」または「メモリー」にする。

❷ 逆光補正ボタンを押す。

逆光補正表示が出ます。

解除するには

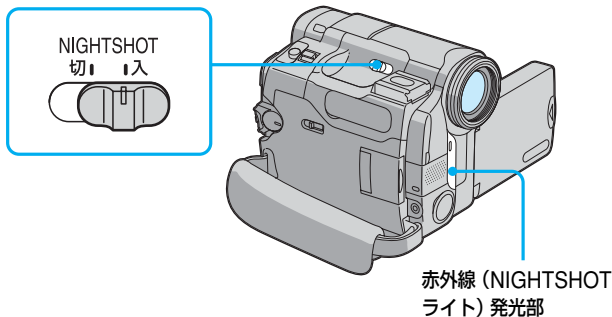
逆光補正ボタンをもう一度押す。

暗闇で撮る－NIGHTSHOT（ナイトショット）/ SUPER NIGHTSHOT（スーパーナイトショット）/ COLOR SLOW SHUTTER（カラースローシャッター）

ご注意

- 昼間の屋外の明るいところではお使いにならないでください。故障の原因になります。
- NIGHTSHOTで撮影中、ピントが合いにくいときは、手動で合わせてください。
- NIGHTSHOTで撮影中は、指やレンズキャップなどで赤外線発光部をかくさないでください。

NIGHTSHOT中は以下の操作ができません

－カメラ明るさ調整
－フレキシブルスポット測光
－プログラムAE
（表示が点滅します）
－ホワイトバランス

NIGHTSHOT（ナイトショット）を使う

夜間や暗い場所で撮影できます。

NIGHTSHOTで撮影中の画像は、正しい色が表現されません。

❶ **電源スイッチを「カメラ」または「メモリー」にする。**

❷ **NIGHTSHOTスイッチを「入」にする。**

◉と”NIGHTSHOT” 表示が点滅します。

NIGHTSHOTを解除するには

NIGHTSHOTスイッチを「切」にします。

SUPER NIGHTSHOT時のシャッタースピードは
明るさによって自動的に変わります。このとき画像の動きは遅くなります。

SUPER NIGHTSHOT中は以下の操作ができません
－フェーダー
－カメラ明るさ調整
－デジタルエフェクト
－プログラムAE
－ホワイトバランス
－フレキシブルスポット測光

電源スイッチを「メモリー」にすると
SUPER NIGHTSHOTは使えません。

SUPER NIGHTSHOT（スーパーナイトショット）を使う

NIGHTSHOTの最大16倍の感度で被写体を明るく撮影できます。

1. **電源スイッチを「カメラ」にする。**
2. **NIGHTSHOTスイッチを「入」にする。**
   ◙と"NIGHTSHOT"表示が点滅します。
3. **「機能」を押す。**
4. **「ページ2」を押す。**
5. **「SUPER NS」を押す。**
   S◙表示が点灯します。

機能画面に戻すには

「閉じる」を押す。

SUPER NIGHTSHOTを解除するには

もう一度「SUPER NS」を押して、S表示を消す。

NIGHTSHOTを解除するときは、NIGHTSHOTスイッチを「切」にします。

NIGHTSHOTライトを使う

NIGHTSHOTライトを使うと画像がよりはっきりします。

NIGHTSHOTライトは、赤外線のため、目には見えません。ライトの届く範囲は約3mです。

メニューで[C]の項目の「N.S.ライト」を「入」にする。（お買い上げ時は「入」に設定されています。）

COLOR SLOW SHUTTER（カラースローシャッター）を使う

薄暗い場所でも被写体を明るくカラーで撮影することができます。

全く光のない場所では、COLOR SLOW SHUTTERが正しく働かない場合があります。

❶ **電源スイッチを「カメラ」にする。**

❷ **NIGHTSHOTスイッチを「切」にする。**

❸ **「機能」を押す。**

❹ **「ページ2」を押す。**

❺ **「COLOR SLW S」を押す。**

表示が点灯します。

機能画面に戻すには

「閉じる」を押す。

COLOR SLOW SHUTTERを解除するには

もう一度「COLOR SLW S」を押して、表示を消す。

COLOR SLOW SHUTTER時のシャッタースピードは

明るさによって自動的に変わります。このとき画像の動きは遅くなります。

電源スイッチを「メモリー」にすると

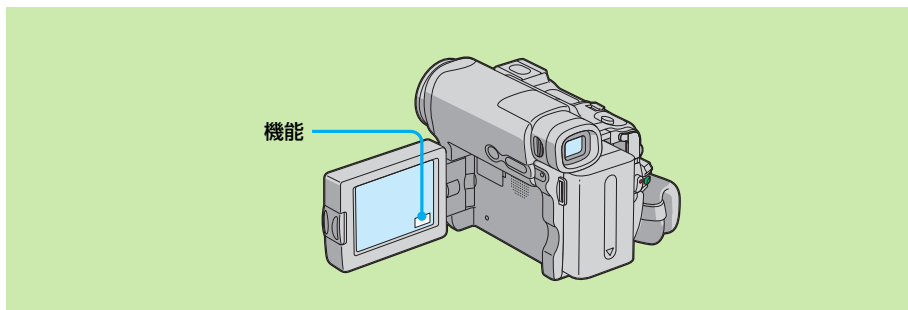
COLOR SLOW SHUTTERは使えません。

COLOR SLOW SHUTTER中は以下の操作ができません

ーフェーダー
ーカメラ明るさ調整
ーデジタルエフェクト
ープログラムAE
ーフレキシブルスポット測光

撮る

撮影開始点を探す
－エンドサーチ/エディットサーチ/レックレビュー－

撮影した画面が気になるときや、最後に撮影した画面からつなぎ撮りしたいときに使います。

エンドサーチは
カセットメモリーの付いていないカセットでは、一度取り出すと働きません。カセットメモリー付きのカセットを使えば、カセットを一度取り出してもエンドサーチは働きます。

テープの途中に無記録部分があると
エンドサーチが正しく働かない場合があります。

エンドサーチ

最後に撮影した終わりの部分に戻ります。

❶ 電源スイッチを「カメラ」にする。

❷ 「機能」を押し、ページ1画面を出す。

❸ 「エンドサーチ」を押す。
最後に撮影した終わりの約5秒間が再生され、撮影スタンバイに戻ります。

機能画面に戻すには

「閉じる」を押す。

エンドサーチを止めるには

もう一度「エンドサーチ」を押す。

エディットサーチ

次の撮影開始点を探します。（音は出ません。）

❶ 電源スイッチを「カメラ」にする。

❷ 「機能」を押し、ページ1画面を出す。

❸ 「メニュー」を押す。

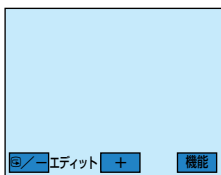
❹ [icon]を選び、「決定」を押す。

❺ 「エディットサーチ」を「入」にし、「閉じる」を押す。

❻ 「[icon]/－」/「＋」を押し続ける。

画像が再生されます。

＋：場面を進める

[icon]/－：場面を戻す

指を離したところが、次の撮影開始点になります。

レックレビュー

最後の場面を確認できます。

❶ 電源スイッチを「カメラ」にする。

❷ 「機能」を押し、ページ1画面を出す。

❸ 「メニュー」を押す。

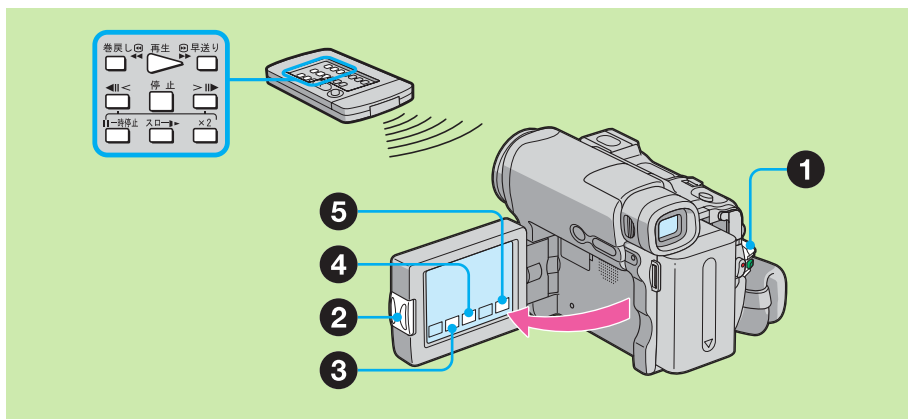
❹ [icon]を選び、「決定」を押す。

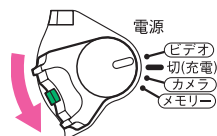
❺ 「エディットサーチ」を「入」にし、「閉じる」を押す。

❻ 「[icon]/－」をポンと1回押す。

最後にテープを停止させた部分が数秒間再生され、撮影スタンバイに戻ります。

再生する

撮影したテープなどを液晶画面で見ます。液晶画面を閉じるとファインダーでも見られます。
リモコンでも操作できます。

長時間電源を入れたままにしておくと
本体があたたかくなりますが故障ではありません。

❶ **緑のボタンを押しながら、電源スイッチを「ビデオ」にする。**

❷ **OPENボタンを押して、液晶画面を開ける。**

❸ **◀◀ (巻戻しボタン)を押す。**

巻き戻しが始まります。

❹ **▶ II (再生ボタン)を押す。**

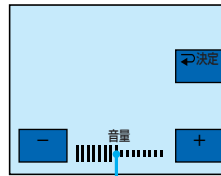
画像が映ります。

❺ **音量を調整する。**

1「機能」を押し、ページ1画面を出す。

2「音量」を押す。

音量画面が表示されます。

3 「−」(小さくする) /「+」(大きくする) を押して音量を調整する。

4 「決定」を押す。

ページ1画面に戻ります。

機能画面に戻すには

「閉じる」を押す。

再生を止めるには

■ (停止ボタン) を押す。

巻き戻すには

[停止中] に ◀◀ (巻戻しボタン) を押す。

早送りするには

[停止中] に ▶▶ (早送りボタン) を押す。

一時停止する (静止画を見る) には

[再生中] に ▶ II (一時停止ボタン) を押す。

もう一度押すとふつうの再生に戻ります。

一時停止が5分以上続くと、自動的に停止状態になります。

テープカウンター、日付データ/カメラデータなどの表示を出す－画面表示機能

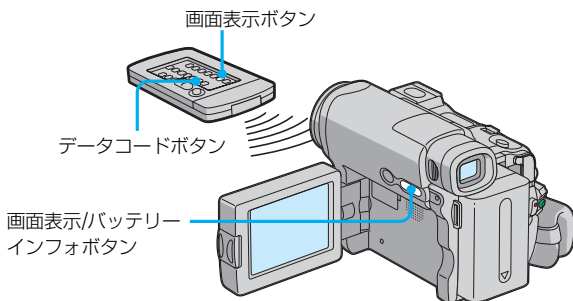
カメラデータとは
撮影したときのビデオカメラの設定の情報です。撮影中は表示されません。

次のときは、「-- -- --」が表示されます
- 無記録部分
- テープの傷やノイズなどでデータコードを読み取れない
- 日付・時刻を設定しないで撮影したテープ

データコードは
本機をテレビにつなぐ（39ページ）と、テレビ画面にも出ます。

ご注意
電源スイッチが「切」になっているときにリモコンの画面表示ボタンを押しても表示はされません。

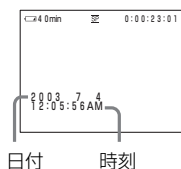
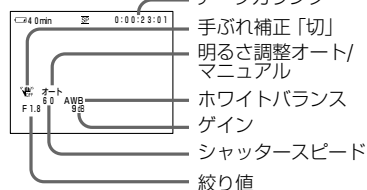
本機の画面表示/バッテリーインフォボタンまたはリモコンの画面表示ボタンを押す。

液晶画面の表示が消えます。
表示するときはもう一度押します。

日付データ/カメラデータについて

本機は撮影時の日付・時刻およびカメラデータを自動的に画像とは別にテープに記録しています（データコード機能）。
データコードを表示させるにはタッチパネルまたはリモコンを使って以下の操作を行います。

タッチパネルで操作するとき

① [再生中] に「機能」を押し、「ページ2」を押す（18ページ）。
② 「データコード」を押す。
③ 「カメラデータ」または「日付データ」を選び、「⮐決定」を押す。

日付データの表示

カメラデータの表示

④ 「閉じる」を押す。

リモコンで操作するとき

［再生中］にリモコンのデータコードボタンを押す。
押すたびに次のように表示が変わります。

「日付データの表示」→「カメラデータの表示」→（表示なし）

カメラデータを表示させないようにするには

メニューでETCの項目の「データコード」で「日付データ」を選ぶ（134ページ）。

リモコンのデータコードボタンを押すたびに次のように表示が変わります。

「日付データの表示」↔（表示なし）

再生する（つづき）

ボタンのマークについて
本体とリモコンではボタンのマークが異なります。

本体のマーク：

- ►II　再生/一時停止
- ■　停止
- ◄◄　巻戻し
- ►►　早送り
- I►　スロー
- II►>　コマ送り
- ◄II<　コマ送り（逆方向）
- ×2　倍速再生

リモコンのマーク：

- ►　再生
- II　一時停止
- ■　停止
- ◄◄　巻戻し
- ►►　早送り
- I►　スロー
- >II►　コマ送り
- ◄II<　コマ送り（逆方向）
- ×2　倍速再生

いろいろな再生

電源スイッチが「ビデオ」のときに操作します。変速再生中は音声は出ません。また前の映像がモザイク状に残ることがあります。

タッチパネルで操作するとき

① 「機能」を押し、「ページ3」を押してページ3画面を出す。

② 「変速再生」を押す。

逆方向に再生する

［再生中］に ◄II<（コマ送りボタン）を押す。**
画面の上下や、中央に横縞が入ることがありますが、故障ではありません。

画像を見ながら早送り/巻き戻しする（ピクチャーサーチ）

［再生中］に ►►（早送りボタン）または ◄◄（巻戻しボタン）を押し続ける。離すと、ふつうの再生に戻る。

早送り/巻き戻し中に画像を見る（高速アクセス）

［早送り中］に ►►（早送りボタン）または［巻き戻し中］に ◄◄（巻戻しボタン）を押し続ける。離すと、早送りまたは巻き戻しに戻る。

スロー画を見る（スロー再生）

［再生中］に I►（スローボタン）を押す。**
逆方向にスロー再生するときは、◄II<（コマ送りボタン）を押してから I►（スローボタン）を押す。**
ℹ DV端子から出力される画像は、なめらかに再生されません。

2倍速で見る（倍速再生）

［再生中］に ×2（倍速再生ボタン）を押す。**
逆方向に倍速再生するときは、◄II<（コマ送りボタン）を押してから ×2（倍速再生ボタン）を押す。**

コマ送りで見る

［再生一時停止中］に II►>（コマ送りボタン）を押す。*
逆方向にコマ送りするときは、◄II<（コマ送りボタン）を押す。*

最後に撮影した部分を探す（エンドサーチ）

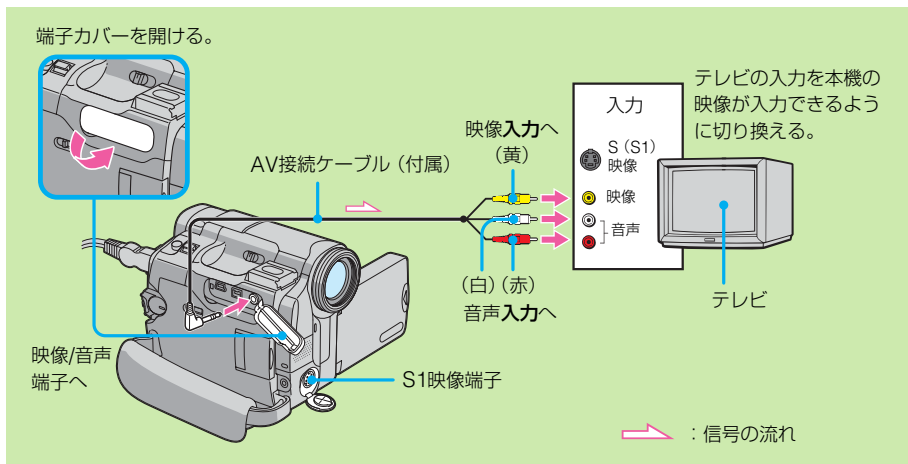
［停止中］に「エンドサーチ」（ページ1画面）を押す。
最後に撮影した終わりの部分を約5秒間再生して止まる。

---

* ►II（再生ボタン）を押すとふつうの再生に戻る。
** ►II（一時停止ボタン）を押して一時停止させ、►II（再生ボタン）を押すとふつうの再生に戻る。

テレビで見る

撮影したテープなどをテレビで見るときは、本機を付属のAV接続ケーブルでつなぎます。再生のしかたは液晶画面で見るときと同じです。

電源は付属のACアダプターを使って、コンセントからとることをおすすめします（13ページ）。接続する機器の取扱説明書もご覧ください。

別売りのS映像ケーブルを使うと

- 画像がより忠実に再現できます。接続する機器にS（S1）映像端子がついているときは、AV接続ケーブルの黄色いプラグ（映像）のかわりに別売りのS映像ケーブルで本機のS1映像端子と接続する機器のS（S1）映像端子を接続することをおすすめします。DV方式の高解像度を生かすためにはこの接続を行ってください。
- S映像ケーブルのみをつないだ場合、音声は出力されません。

テレビ画面にカウンターなどの表示を出すには

メニューのETCで「画面表示」を「ビデオ出力/パネル」にします（134ページ）。消すときは、画面表示/バッテリーインフォボタンを押します。

すでにテレビにビデオがつながっているとき

本機をビデオの外部入力端子につなぐ。

ビデオの入力切り換えスイッチは「外部入力（ライン）」にしてください。

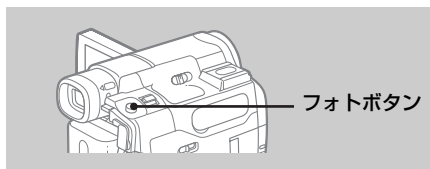
音声入力端子がひとつ（モノラル）のテレビにつなぐとき

AV接続ケーブル（付属）の黄色いプラグを映像入力へ、白いプラグか赤いプラグのどちらかを音声入力へつなぐ。

音声は、白いプラグをつなぐと左音声が、赤いプラグをつなぐと右音声が聞こえます。

モノラル音声でお聞きになりたいときは市販の接続ケーブルをお使いください。

撮影スタンバイ中・テープ撮影中に“メモリースティック”に静止画を撮る

あらかじめ、“メモリースティック”を入れておいてください。

撮影スタンバイ中

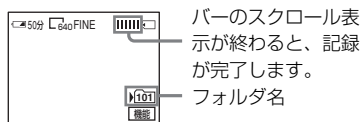
電源スイッチを（カメラ）に

❶ フォトボタンを軽く押したまま、画像を確認する。

画像が静止画になり、「キャプチャー」が表示されます。
このとき、録画はされません。

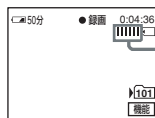
画像を選び直すときは、フォトボタンを離してからもう一度軽く押します。

リモコンのフォトボタンで撮影すると

押したときに映っている画像が記録されます。

❷ フォトボタンを深く押す。

ボタンを深く押したときに画面に映っている画像が“メモリースティック”の表示されているフォルダ（109ページ）に記録されます。

テープ撮影中

電源スイッチを（カメラ）に

フォトボタンを深く押す。

深く押したときに画面に映っている画像が“メモリースティック”に記録されます。
フォトボタンを軽く押して画像を確認することはできません。

デープ撮影は、“メモリースティック”への静止画記録中や記録終了後も続きます。

ご注意

以下の設定中や操作中は、“メモリースティック”に静止画を撮ることができません。（表示が点滅します。）
– ワイドTVモード
– バウンド中
– エンドサーチ
– メモリーミックス

“メモリースティック”について

詳しくは90ページをご覧ください。

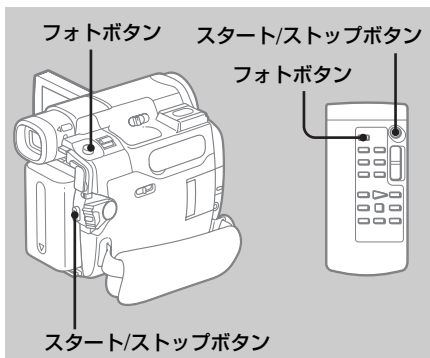
静止画について

- 画像サイズは「640×480」になります。
- 電源スイッチを「カメラ」にすると画質を変更することができません。画質は電源スイッチを「メモリー」にしたとき設定した画質で撮影されます。（お買い上げ時は「ファイン」に設定されています。）より高画質の撮影をするときは、「メモリーフォト撮影」をおすすめします（96ページ）。

タイトルは

記録できません。

セルフタイマー撮影

セルフタイマーを使用して、静止画や動画を記録できます。リモコンも使えます。

テープに撮影する

電源スイッチを(カメラ)に

タッチパネルで操作

❶ **[撮影スタンバイ中]に「機能」を押す。**

❷ **「ページ2」を押してページ2画面を出す。**

❸ **「セルフタイマー」を押す。**
(セルフタイマー)表示が出ます。

❹ **「閉じる」を押す。**
機能画面に戻ります。

❺ **スタート/ストップボタンを押す。**
セルフタイマーの秒読みが始まります。秒読み中はブザー音が鳴り、2秒前にブザー音が速くなります。ボタンを押してから約10秒後に、自動的に撮影が始まります。

撮影スタンバイ中に“メモリースティック”に静止画を記録する

電源スイッチを(カメラ)に

タッチパネルで操作

❶ **左記の手順❶～❹を行う。**

❷ **フォトボタンを深く押す。**
セルフタイマーの秒読みが始まります。秒読み中はブザー音が鳴り、2秒前にブザー音が速くなります。ボタンを押してから約10秒後に、自動的に撮影されます。

テープ撮影の秒読みを停止するには

スタート/ストップボタンを押します。再開するにはもう一度押します。

セルフタイマーを止めるには

[撮影スタンバイ中]にもう一度「セルフタイマー」を押して、(セルフタイマー)表示を消す。

リモコンを使ってセルフタイマーを中止することはできません。

ご注意

静止画記録の秒読みは停止できません。

セルフタイマー撮影を実行したあと
セルフタイマーは自動的に解除されます。

セルフタイマー撮影は
撮影スタンバイ中のみ操作できます。テープ撮影中はセルフタイマー撮影はできません。

電源スイッチが「メモリー」になっているときも
セルフタイマー撮影できます。105ページをご覧ください。

自然な色あいに調整する – ホワイトバランス

通常は、自動的に色あいの調整が行われています。

以下のときに使います。

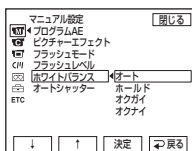
- パーティー会場など照明条件が変化する場所で撮るとき
- 夜景やネオンサインなどを屋外で撮るとき

タッチパネルで操作

1 「機能」を押し、ページ1画面を出す。

2 「メニュー」を押す。

3 Ⓜを選び、「決定」を押す。

4 「ホワイトバランス」を選び、「決定」を押す。

5 希望の効果を選び、「決定」を押す。

ホールド（HOLD）	単一色の被写体や背景を撮るとき
オクガイ（☀）	• 夜景やネオン、花火などを撮るとき • 日の出、日没などを撮るとき • 昼光色蛍光灯の下で撮るとき
オクナイ（💡）	• パーティー会場など照明条件が変化する場所 • スタジオなどビデオライトの下で撮るとき • ナトリウムランプや水銀灯の下で撮るとき

機能画面に戻すには

「閉じる」を押す。

自動調整に戻すには

「ホワイトバランス」を「オート」にする。

スタジオ照明やビデオライトで撮影する場合は
「オクナイ」に設定して撮影することをおすすめします。

蛍光灯照明下で撮影する場合は
ホワイトバランスを「オート」にするか、「ホールド」に設定して撮影することをおすすめします。
「オクナイ」に設定して撮影すると、ホワイトバランスが正しく調整されない場合があります。

ホワイトバランスを「オート」にしたままで
次のように撮影条件を変えたときは、電源スイッチを「カメラ」にしてから10秒間くらい白っぽい被写体に向けると、よりよい色あいに調整されます。

- バッテリーを交換したとき
- 画像の明るさを固定させたまま屋外と屋内を行き来したとき

ホワイトバランスを「ホールド」にしたままで
次のように撮影条件を変えたときは、ホワイトバランスを一度「オート」にしてしばらくしてから「ホールド」に戻してください。

- プログラムAEの効果を変えたとき
- 屋外と屋内を行き来したとき

横長の画面にする – ワイドTVモード

ワイドテレビでご覧になるときに、画面いっぱいに映るように撮影できます。ID-1/ID-2対応テレビに接続した場合、またはS（S1）映像入力端子に接続した場合、自動的にテレビのワイドモードに切り換わります。

接続するテレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。

ワイドTVモードで撮影

液晶画面/ファインダー

ワイドテレビで再生

テレビをフルモードに切り換える

通常のテレビで再生*

画像が縦長になります。

* 通常のテレビの4:3モードで再生した場合。ワイドモードで再生したときは、左図の「液晶画面/ファインダー」と同じように映ります。

電源スイッチを（カメラ）に

タッチパネルで操作

1 **［撮影スタンバイ中］に「機能」を押し、ページ1画面を出す。**

2 **「メニュー」を押す。**

3 **を選び、「決定」を押す。**

4 **「ワイドTV」を選び、「決定」を押す。**

5 **「入」を選び、「決定」を押す。**

機能画面に戻すには

「閉じる」を押す。

ワイドTVモードを解除するには

「ワイドTV」で「切」を選ぶ。

ご注意

- ワイドTVモードで撮影されたテープの画像は、通常のサイズに戻すことはできません。
- ワイドTVモード中は以下の操作はできません。

– オールドムービー
– バウンド
– [テープ撮影中]・[撮影スタンバイ中]の"メモリースティック"記録

ワイドTVモード中は

ズーム位置がワイド側では、ワイドTV「切」のときより画角が少し広くなります。

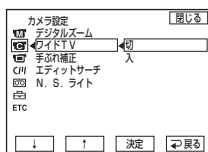
ID-1方式とは

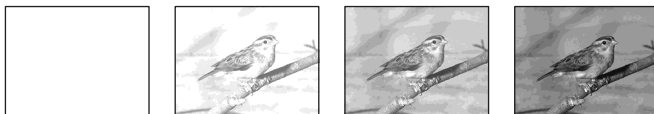
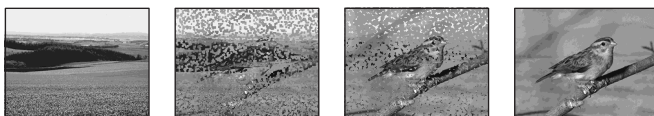
ビデオ信号のすきまに信号を加算することにより、画面の縦横比（16:9、4:3またはレターボックス）の情報を通信するシステムです。

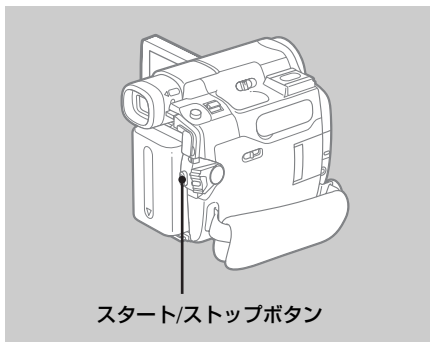
ID-2方式とは

ID-1方式に加え著作権保護のための信号をアナログ接続において行うためのシステムです。

S1映像信号とは

通常のS映像信号にワイドモード自動選択用の信号が加算されています。

効果的な場面転換をする – フェーダー

余韻を残して場面を変えたり徐々に画像と音を出したり（フェードイン）、逆に徐々に消したり（フェードアウト）して効果的な場面転換を演出できます。

モノトーンフェーダー　フェードインは白黒からカラーに、フェードアウトはカラーから白黒になります。

1）メニューの[C]で「デジタルズーム」が「切」になっているときのみ使えます。
2）フェードインのみ使えます。

電源スイッチを (カメラ) に

タッチパネルで操作

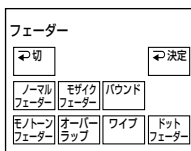
❶ フェードイン：
[撮影スタンバイ中] に「機能」を押し、ページ1画面を出す。

フェードアウト：
[撮影中] に「機能」を押し、ページ1画面を出す。

❷ 「フェーダー」を押す。

フェーダー画面が出ます。

❸ 希望の効果を押す。

❹ 「⮐決定」を押し、ページ1画面に戻す。

❺ 「閉じる」を押し、機能画面に戻す。

フェーダー表示が点滅します。

❻ スタート/ストップボタンを押す。

フェーダー表示が点滅から点灯に変わり、フェード終了後に消えます。

終了後、自動的に解除されます。

フェードイン・フェードアウトを解除するには

スタート/ストップボタンを押す前に、フェーダー画面で「⮐切」を押す。

ページ1画面に戻ります。

「閉じる」を押すと、機能画面に戻ります。

ご注意

フェード中には以下の操作ができません。また以下の操作中にはフェードイン・フェードアウトはできません。
– デジタルエフェクト
– SUPER NIGHTSHOT
– COLOR SLOW SHUTTER
– インターバル録画
– コマ撮り

「オーバーラップ」、「ワイプ」または「ドットフェーダー」を選ぶと
本機が自動的に動作し、テープ上の画像を記憶します。記憶中は画面が消えます。

バウンド動作中には以下の操作ができません
- カメラ明るさ調整
- フレキシブルスポット測光
- 手動ピント合わせ
- ズーム
- ピクチャーエフェクト
- ワイドTVモード
- プログラムAE
- "メモリースティック"への静止画記録

以下の操作中にはバウンドが選択できません
- メニューでデジタルズームの「20×」または「120×」を選択しているとき
- ワイドTVモード
- ピクチャーエフェクト
- プログラムAE

画像に特殊効果を加える – ピクチャーエフェクト

ネガアート
→写真のネガフィルムのように

ソラリ
→明暗をはっきりさせたイラストのように

パステル
→淡い色のパステル画のように

モザイク
→タイルを組み合わせたように

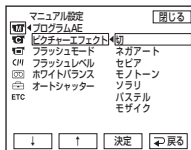
セピア→古い写真のような色合いに
モノトーン→白黒に

タッチパネルで操作

1 「機能」を押し、ページ1画面を出す。

2 「メニュー」を押す。

3 [M]を選び、「決定」を押す。

4 「ピクチャーエフェクト」を選び、「決定」を押す。

5 希望の効果を選び、「決定」を押す。

機能画面に戻すには

「閉じる」を押す。

ピクチャーエフェクトを解除するには

「ピクチャーエフェクト」を「切」にする。

ご注意

ピクチャーエフェクト中は以下の操作はできません。
– オールドムービー
– バウンド

特殊な演出を加えて撮る – デジタルエフェクト

スチル
あらかじめ取りこんだ静止画に、動画を重ねて撮影する。

フラッシュ（フラッシュモーション）
コマ送り撮影をする。

ルミキー（ルミナンスキー）
あらかじめ取りこんだ静止画の明るい部分に、動画をはめ込む。

トレイル
被写体の動きが、尾を引くように撮影する。

スローシャッター
シャッタースピードを落とす。暗いところで撮影しやすい。

オールドムービー
画面を横長、画像をセピア、シャッタースピードを遅くして、昔の映画のように撮影する。

（スチル）

静止画　　動画

（ルミキー）

静止画　　動画

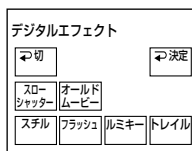
電源スイッチを（カメラ）に

タッチパネルで操作

1 **「機能」を押す。**

2 **「ページ2」を押してページ2画面を出す。**

3 **「デジタルエフェクト」を押す。**

デジタルエフェクト画面が表示されます。

4 **希望の効果を押す。**

スチルとルミキーでは、押したときの画像が静止画として記憶されます。

5 **「–」（効果を小さくする）/「+」（効果を大きくする）を押して、効果を調整する。**

バー表示：スチル、フラッシュ、ルミキー、トレイルのときに表示されます。

調整する内容は以下の通りです。

スチル	撮影中の動画の背景にある静止画の映り具合。
フラッシュ	フラッシュの間隔。
ルミキー	静止画の、動画を取りこむ部分の明るさの度合い。
トレイル	残像が残る時間。
スローシャッター *	シャッタースピード。数字を大きくするほど遅くなる。
オールドムービー	調整は必要ない。

* 自動でピントが合いにくくなることがあります。三脚などに固定して、手動でピントを合わせてください。

次のページへつづく

❻ 「⮐決定」を押す。

ページ2画面に戻ります。

機能画面に戻すには

「閉じる」を押す。

デジタルエフェクトを解除するには

デジタルエフェクト画面で「⮐切」を押す。

ページ2画面に戻ります。

スローシャッターのシャッタースピードは

表示	シャッタースピード
スローシャッター1	1/30
スローシャッター2	1/15
スローシャッター3	1/8
スローシャッター4	1/4

ご注意

- デジタルエフェクト操作中は以下の操作ができません。
  – フェーダー
  – SUPER NIGHTSHOT
  – COLOR SLOW SHUTTER
- スローシャッターを選ぶとプログラムAEは使えません。
- オールドムービーを選ぶと以下の操作ができません。
  – ワイドTVモード
  – ピクチャーエフェクト
  – プログラムAE

撮影状況に合わせて撮る – プログラムAE

スポットライト*
結婚式や舞台など、強い光が当たっている被写体を撮影するときに人物の顔などが白く飛んでしまうのを防ぎます。

ソフトポートレート
人物、花などを撮影するときに背景をぼかして被写体を引き立てると同時に、ソフトな印象の映像になるようにします。

スポーツレッスン*
ゴルフ、テニスなどの速い動きを撮影するときに被写体のぶれを少なくします。

ビーチ&スキー*
真夏の砂浜や、冬山（スキー場）などの照り返しが強い場所で撮影するときに、人物の顔などが暗くなるのを防ぎます。

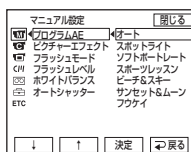
サンセット&ムーン**
夕焼け、夜景、花火、ネオンサインを撮影するときに、雰囲気を損なわずに撮影することができます。

フウケイ**
山などの遠くの景色を撮影するときに景色をはっきりさせます。風景を窓ガラスや金網越しに撮影する場合、手前のガラスや金網にピントが合うのを防ぎます。

* 近くのものにピントが合わないようになります。
** 遠景のみにピントが合うようになります。

電源スイッチを (カメラ) か (メモリー) に

タッチパネルで操作

1. 「機能」を押し、ページ1画面を出す。
2. 「メニュー」を押す。
3. [M] を選び、「決定」を押す。
4. 「プログラムAE」を選び、「決定」を押す。

5. 希望の効果を選び、「決定」を押す。

機能画面に戻すには

「閉じる」を押す。

プログラムAEを解除するには

「プログラムAE」を「オート」にする。

ご注意

- プログラムAE中は以下の操作ができません。
  – COLOR SLOW SHUTTER
  – スローシャッター
  – オールドムービー
  – バウンド
  – スポットフォーカス
- 次の場合、プログラムAEは使えません。
  （表示が点滅します。）
  – NIGHTSHOTを「入」にする。
  – “メモリースティック”にメモリーミックスする。
- 電源スイッチを「メモリー」にしたとき、スポーツレッスンの操作ができません。
  （表示が点滅します。）

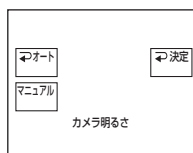
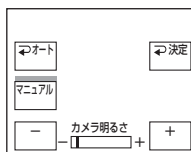
手動で画像の明るさを調整する

以下のときに使います。

- 逆光補正を細かく行いたいとき
- 背景に比べて、被写体が明るすぎるとき
- 夜景を撮りたいとき

1 「機能」を押し、ページ1画面を出す。

2 「カメラ明るさ」を押す。

カメラ明るさ画面が表示されます。

3 「マニュアル」を押す。

4 「−」(暗くする) /「+」(明るくする) を押して、明るさを調整する。

5 「⮐決定」を押す。

ページ1画面に戻ります。

機能画面に戻すには

「閉じる」を押す。

自動調整に戻すには

カメラ明るさ画面で「⮐オート」を押す。
ページ1画面に戻ります。

ご注意

「カメラ明るさ」調整中は以下の操作ができません。
– COLOR SLOW SHUTTER
– 逆光補正

撮りたいポイントの明るさを最適にする
– フレキシブルスポット測光

撮りたいポイントを基準にして自動的に画像の明るさを調整し、固定することができます。

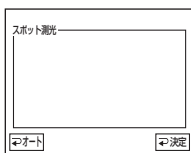
以下のときに使います。

- 逆光のとき
- スポットライトで照明されたステージなど、被写体と背景のコントラストが強いとき

タッチパネルで操作

1 「機能」を押し、ページ1画面を出す。

2 「スポット測光」を押す。

スポット測光画面が表示されます。

3 画面上の枠内の撮りたいポイントを押す。

「スポット測光」表示が点滅し、押したポイントの明るさが調整されます。

4 「決定」を押す。

ページ1画面に戻ります。

機能画面に戻すには

「閉じる」を押す。

自動調整に戻すには

スポット測光画面で「オート」を押す。
ページ1画面に戻ります。

ご注意

フレキシブルスポット測光中は以下の操作ができません。
– COLOR SLOW SHUTTER
– 逆光補正
– スポットフォーカス

手動でピントを合わせる

通常は自動的にピントの調整が行われています。

以下のときに使います。

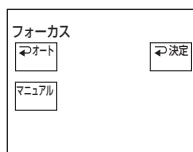
- 自動ではピントが合いにくいとき
  - 被写体が水滴のついた窓ごしにあるとき
  - 被写体が横縞だけのもののとき
  - 被写体と背景とのコントラストが弱いとき
- 手前の被写体から後方の被写体へと、意図的にピントの合う位置を変えたいとき

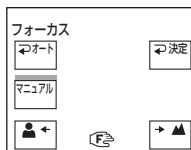
- 三脚を使い、静止した被写体をピントを固定して撮るとき

タッチパネルで操作

❶ 「機能」を押し、ページ1画面を出す。

❷ 「フォーカス」を押す。

フォーカス画面が表示されます。

❸ 「マニュアル」を押す。

手動ピント合わせ表示が表示されます。

❹ 「←」(近くに)/「→」(遠くに)を押して、ピントを合わせる。

❺ 「決定」を押す。

ページ1画面に戻ります。

機能画面に戻すには

「閉じる」を押す。

自動調整に戻すには

フォーカス画面で「オート」を押す。

ページ1画面に戻ります。

正確にピントを合わせるには

ズームをT側(望遠)でピントを合わせたあと、なるべくW側(広角)で撮るようにズームを調整するとピントが合いやすくなります。

近づいて大きく撮るとき

ズームをW側(広角)いっぱいにしてピントを合わせます。

手動でピント合わせをするとき、が次のようなマークに変わります

無限遠にあるとき

それ以上近くにピント合わせをすることができないとき

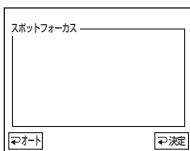
撮りたいポイントにピントを合わせる
– スポットフォーカス

電源スイッチを（カメラ）か（メモリー）に

タッチパネルで操作

❶ 「機能」を押し、ページ1画面を出す。

❷ 「スポットフォーカス」を押す。

スポットフォーカス画面が表示されます。

❸ 画面上の枠内の撮りたいポイントを押す。

スポットフォーカスの表示が点滅し、押したポイントのピントが調整されます。

❹ 「決定」を押す。

ページ1画面に戻ります。

機能画面に戻すには

「閉じる」を押す。

自動調整に戻すには

スポットフォーカス画面で「オート」を押す。

ページ1画面に戻ります。

ご注意

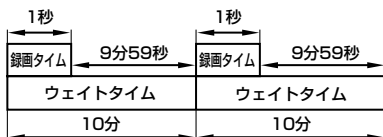
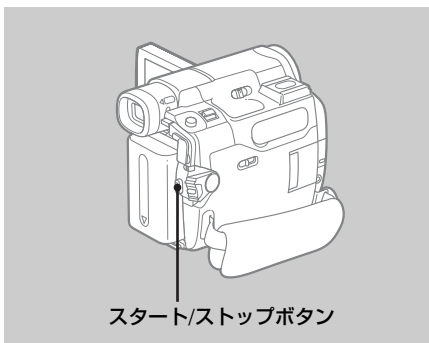
- プログラムAE中はスポットフォーカスできません。
- スポットフォーカス中は逆光補正操作ができません。

使いこなす―撮影―

一定時間おきに撮る – インターバル録画

あらかじめ設定した時間ごとに、花の開花や昆虫の羽化などの場面の撮影と撮影停止を交互に行うことができます。

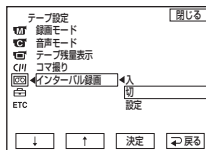
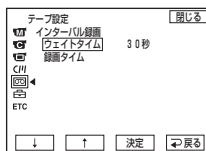
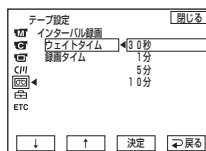
例

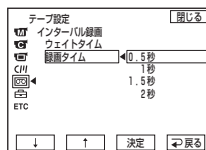
「ウェイトタイム」10分、「録画タイム」1秒を選んだ場合（約10分ごとに、約1秒録画されます。）

録画タイムは最大±6フレーム程度の誤差が出ることがあります。

タッチパネルで操作

1 「機能」を押し、ページ1画面を出す。

2 「メニュー」を押す。

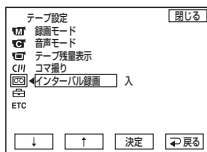
3 📼を選び、「決定」を押す。

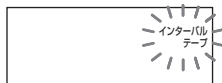
4 「インターバル録画」を選び、「決定」を押す。

5 「設定」を選び、「決定」を押す。

6 「ウェイトタイム」を選び、「決定」を押す。

7 希望のウェイトタイムを選び、「決定」を押す。

8 「録画タイム」を選び、「決定」を押す。

9 希望の録画タイムを選び、「決定」を押す。

10 「↩戻る」を押す。

⓫ 「インターバル録画」を「入」にして、「決定」を押す。

⓬ 「閉じる」を押して、機能画面に戻す。

「インターバル　テープ」表示が点滅します。

⓭ スタート/ストップボタンを押す。

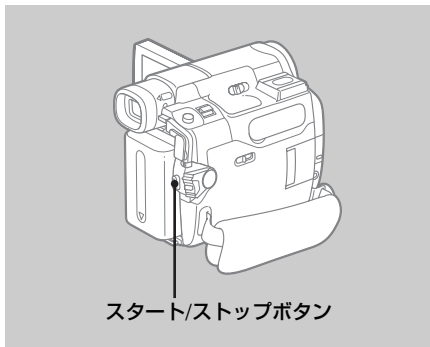
インターバル録画が始まります。

インターバル録画中は、「インターバル　テープ」表示が点灯します。

インターバル録画を解除するには

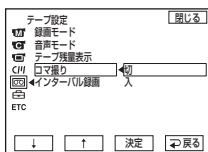
「インターバル録画」を「切」にする。

コマ撮りする

人形やおもちゃなどを少しずつ動かしながらコマ撮りをすると、アニメーションのような効果を出せます。

タッチパネルで操作

❶ 「機能」を押し、ページ1画面を出す。

❷ 「メニュー」を押す。

❸ ▣を選び、「決定」を押す。

❹ 「コマ撮り」を選び、「決定」を押す。

❺ 「入」を選び、「決定」を押す。

❻ 「閉じる」を押して、機能画面に戻す。

カメラコマ撮り表示が点灯します。

❼ 本体を固定し、スタート/ストップボタンを押す。

1コマ（約6フレーム）分の撮影が行われ、[撮影スタンバイ]に戻ります。

手ぶれを防ぐため、リモコンで操作することをおすすめします。

❽ 被写体を動かし、手順❼を繰り返す。

コマ撮りを解除するには

「コマ撮り」を「切」にする。

ご注意

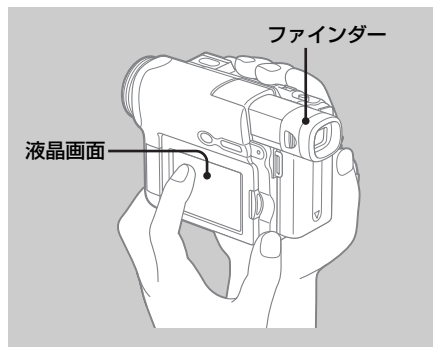
コマ撮りを連続して行うと、テープ残量表示は正しく表示されません。

コマ撮りをすると

最終カットは通常の1コマよりも長くなります。

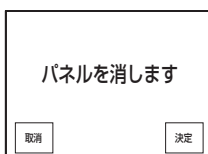
ファインダーを見ながら操作する

液晶画面を外側に向けて本体に閉じると、ファインダーを見ながら液晶画面を押して画面上のボタンを操作することができます。

ファインダーで見ながら、「カメラ明るさ」と「フェーダー」をタッチパネルで操作するときに便利です。

タッチパネルで操作

1 **ファインダーをのばし、液晶画面を外側に向けて本体に閉じる。**

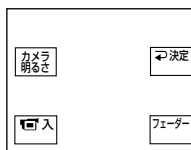
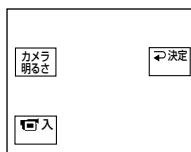
2 **「切」を押す。**

「パネルを消します」が表示されます。

3 **「決定」を押す。**

液晶画面の表示が消えます。

4 **ファインダーを見ながら液晶画面を押す。**

「カメラ明るさ」、「決定」、「入」、「フェーダー」（電源スイッチが「カメラ」のときのみ）のボタンが表示されます。

電源スイッチが「カメラ」のとき

電源スイッチが「メモリー」のとき

5 **液晶画面を押して希望の項目を選び、「決定」を押す。**

カメラ明るさ：「＋」「－」で調整する。

フェーダー　：「フェーダー」を押すごとに次の順で効果が変わる。

入：液晶画面が点灯する。

使いこなす—撮影—

画面上のボタンを消すには

「⮐決定」を押す。

ご注意

電源スイッチを「ビデオ」にしたとき、またはメモリー再生中は操作できません。

ファインダーに表示されない項目を操作したいときは
ファインダーと液晶画面を元の位置に戻し、液晶画面を見ながら操作してください。

撮影可能時間は
ファインダーで撮影したときの時間になります（14ページ）。

再生画像にピクチャーエフェクトを加えて見る

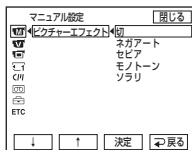
電源スイッチを
(ビデオ) に

タッチパネルで操作

❶ ［再生中］または［再生一時停止中］に、「機能」を押し、ページ1画面を出す。

❷ 「メニュー」を押す。

❸ [M]を選び、「決定」を押す。

❹ 「ピクチャーエフェクト」を選び、「決定」を押す。

❺ 希望の効果を選び、「決定」を押す。

ピクチャーエフェクトのうち、ネガアート、セピア、モノトーン、ソラリが使えます。

各効果について詳しくは46ページをご覧ください。

機能画面に戻すには

「閉じる」を押す。

ピクチャーエフェクトを解除するには

「ピクチャーエフェクト」を「切」にする。

ご注意

- 外部入力している画像にピクチャーエフェクトを加えて見ることはできません。
- ピクチャーエフェクトを加えた画像は本機のテープに録画できません。
  “メモリースティック”に取りこむか（99、106ページ）、本機を再生機とし他のビデオへ録画してください。

ピクチャーエフェクトを加えた画像は

i DV端子からは出力されません。

使いこなす―再生―

再生画像にデジタルエフェクトを加えて見る

電源スイッチを
(ビデオ) に

タッチパネルで操作

❶ [再生中] または [再生一時停止中] に、「機能」を押し、「ページ2」を押してページ2画面を出す。

❷ 「デジタルエフェクト」を押す。

デジタルエフェクト画面が表示されます。

❸ 希望の効果を押す。

スチル、フラッシュ、ルミキー、トレイルが使えます。
スチルとルミキーでは、押したときの画像が静止画として記憶されます。
各効果について詳しくは47ページをご覧ください。

❹ 「−」/「+」を押して、効果を調整する。

❺ 「決定」を押す。

ページ2画面に戻ります。

機能画面に戻すには

「閉じる」を押す。

デジタルエフェクトを解除するには

「切」を押す。

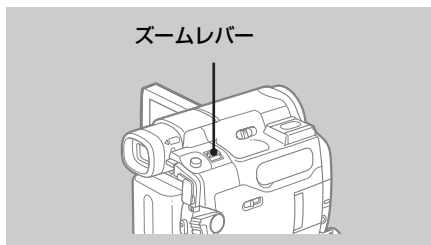
ページ2画面に戻ります。

ご注意

- 外部入力している画像にデジタルエフェクトを加えて見ることはできません。
- デジタルエフェクトを加えた画像は本機のテープに録画できません。
  “メモリースティック”に取りこむか（99、106ページ）、本機を再生機とし他のビデオへ録画してください。

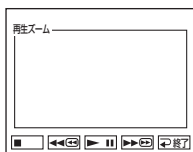
デジタルエフェクトを加えた画像は
i DV端子からは出力されません。

撮影した画像を拡大する – テープ再生ズーム

“メモリースティック”に記録した静止画も拡大できます（115ページ）。

タッチパネルで操作

1 **［再生中］または［再生一時停止中］に、「機能」を押し、「ページ2」を押してページ2画面を出す。**

2 **「再生ズーム」を押す。**

再生ズーム画面が表示されます。

3 **枠内の拡大したい部分を押す。**

押した部分を中心に約2倍に拡大された画像が再生されます。さらに枠内の別の場所を押すと、押した部分を画面の中心に移動することができます。

4 **ズームレバーで倍率を変える。**

ズームは約1.1倍から5倍までの間で選べます。

W：倍率を低くする。

T：倍率を高くする。

再生ズームを解除するには

「⮐終了」を押す。

ご注意

- 外部入力している画像に再生ズームを加えて見ることはできません。
- 再生ズームを加えた画像は本機のテープに録画できません。本機を再生機とし他のビデオへ録画してください。
- 再生ズームを加えた画像は本機の“メモリースティック”に動画として取り込むことはできません。

再生ズームを加えた画像は

i DV端子からは出力されません。

再生ズーム中に

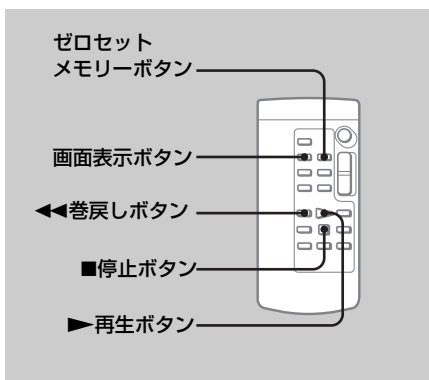
- 画面表示/バッテリーインフォボタンを押すと、表示枠が消えます。このとき押した部分を画面の中心に移動することはできません。
- フォトボタンを深く押すと、静止画として“メモリースティック”へ記録することができます。

画像の周辺部分は

拡大することはできますが、画面の中心には移動しません。

見たい場面にすばやく戻す – ゼロセットメモリー

再生中に、あとからもう一度見たいと思う場面があったとき、テープカウンター値が「0:00:00」の地点まで巻き戻しや早送りをして、自動的に停止するようにできます。

リモコンを使います。

電源スイッチを
(ビデオ) に

❶ **[再生中] に、あとから見たい場面でゼロセットメモリーボタンを押す。**

テープカウンター値が「0:00:00」になり、カウントを始めます。

ゼロセットメモリー表示が点滅します。

表示が出ていないときは、画面表示ボタンを押します。

❷ **再生し終わったら■停止ボタンを押す。**

❸ **◀◀巻戻しボタンを押す。**

テープカウンター値が「0:00:00」の付近で自動的に停止します。

❹ **▶再生ボタンを押す。**

テープカウンターを「0:00:00」に設定した場面からもう一度再生が始まります。

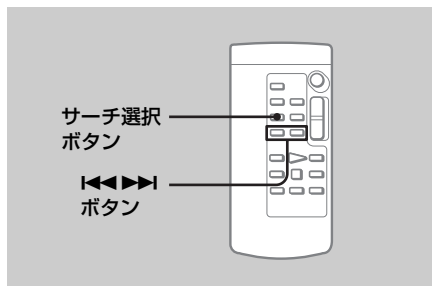
ご注意

- 巻き戻す前にゼロセットメモリーボタンをもう一度押すと、ゼロセットメモリーが解除されます。
- タイムコードとテープカウンターに多少誤差が出ることがあります。
- ゼロセットメモリー表示は、「機能」を押すと表示されません。

テープの途中に無記録部分があると

ゼロセットメモリー機能が正しく働かない場合があります。

タイトル場面を頭出しする – タイトルサーチ

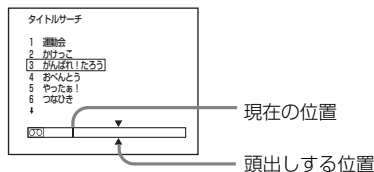
カセットメモリー付きカセットでのみ使えます。リモコンを使います。

メニューの[CM]で「Cメモリーサーチ」を「入」にしてください。（お買い上げ時は「入」に設定されています。）

電源スイッチを (ビデオ) に

❶ リモコンのサーチ選択ボタンを繰り返し押して、「タイトルサーチ」を選ぶ。

タイトルサーチ画面が表示されます。
次の順で変わります。
タイトルサーチ → 日付サーチ → （表示なし） → タイトルサーチ

❷ リモコンの⏮または⏭ボタンを押して、頭出ししたいタイトルを選ぶ。

選んだタイトルの場面で自動的に再生が始まります。

サーチを止めるには

リモコンの■停止ボタンを押す。

テープの途中に無記録部分があると
タイトルサーチが正しく働かないことがあります。

タイトルを入れるには
84ページをご覧ください。

撮影日で頭出しする – 日付サーチ

カセットメモリーを使った日付サーチは、画面で撮影日を選んで頭出しします。

カセットメモリーを使わない日付サーチは、撮影した日付の変わり目を頭出しします。

リモコンを使います。

カセットメモリーを使って頭出しする

電源スイッチを (ビデオ) に

- カセットメモリー付きカセットでのみできます。
- メニューので「Cメモリーサーチ」を「入」にしてください。（お買い上げ時は「入」に設定されています。）

❶ リモコンのサーチ選択ボタンを繰り返し押して、「日付サーチ」を選ぶ。

日付サーチ画面が表示されます。

次の順で変わります。

タイトルサーチ → 日付サーチ → （表示なし） → タイトルサーチ

❷ リモコンの⏮または⏭ボタンを押して、頭出ししたい日付を選ぶ。

選んだ日付の場面から自動的に再生が始まります。

サーチを止めるには

リモコンの■停止ボタンを押す。

カセットメモリーを使わずに頭出しする

❶ 「機能」を押し、ページ1画面を出す。

❷ 「メニュー」を押す。

❸ を選び、「決定」を押す。

❹ 「Cメモリーサーチ」を選び、「決定」を押す。

❺ 「切」を選び、「決定」を押す。

❻ リモコンのサーチ選択ボタンを押して、「日付サーチ」を選ぶ。

❼ リモコンの⏮または⏭ボタンを押す。

日付を戻すときは⏮ボタンを、日付を進めるときは⏭ボタンを押します。日付の変わり目で、自動的に再生が始まります。

ボタンを押した回数だけ場面が頭出しされます。

サーチを止めるには

リモコンの■または本体の［■］（停止ボタン）を押す。

ご注意

日付の変更点の間隔は2分以上必要です。間隔が短いと正しく検出されない場合があります。

テープの途中に無記録部分があると
日付サーチが正しく働かないことがあります。

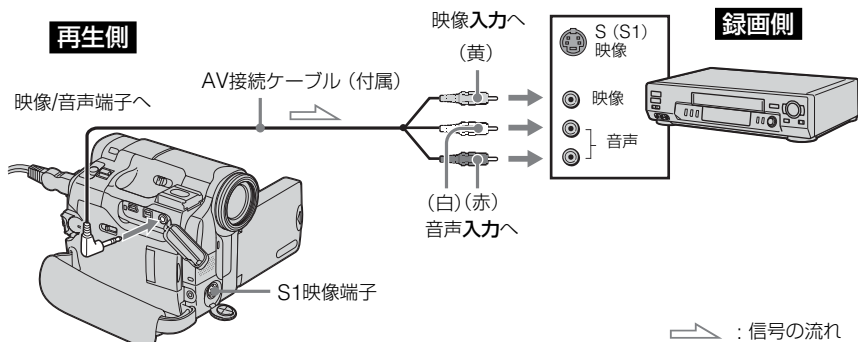
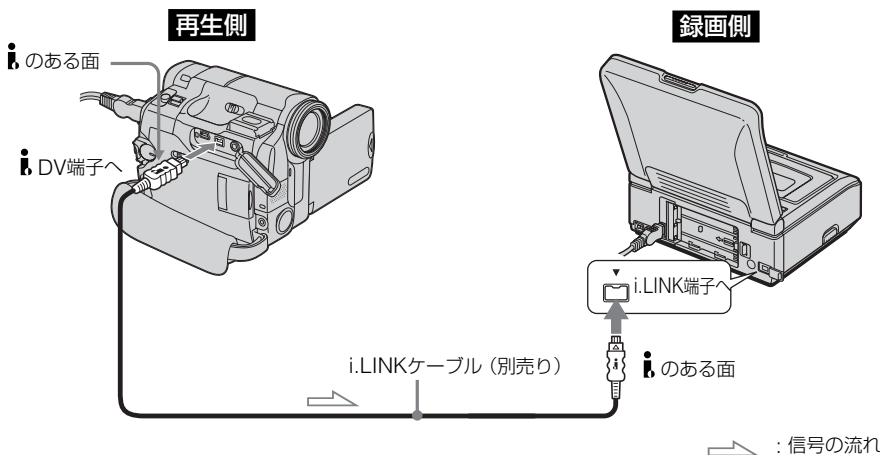
1つのカセットのカセットメモリーに入る日付データは
6つまでです。日付データが7つ以上あるときは、「カセットメモリーを使わずに頭出しする」（64ページ）の手順で検索してください。

他のビデオへダビングする

本機を再生機として使い、接続したビデオで録画・編集できます。

AV接続ケーブル（付属）またはi.LINKケーブル（別売り）でつなぎます。i.LINKケーブルでつなぐと、デジタルで信号のやりとりをするので、画質、音質の劣化がほとんどありません。

ビデオを接続する

AV接続ケーブルでつなぐ

i.LINKケーブルでつなぐ

録画機はどの方式のビデオでも使えます。

（例）

8、Hi8、VHS、VHSC、SVHS、SVHSC、β、EDBeta、MiniDV、DV、D8、MICROMV

AV接続について

録画機の音声入力がひとつ(モノラル)の場合

AV接続ケーブルの黄色のプラグを映像入力へ、白いプラグか赤いプラグのどちらかを音声入力へつなぎます。音声は、白いプラグをつなぐと左音声が、赤いプラグをつなぐと右音声が記録されます。

S映像ケーブルについては

39ページをご覧ください。

i.LINK接続について

詳しくは151ページをご覧ください。

「ピクチャーエフェクト」、「デジタルエフェクト」、「再生ズーム」を加えた画像は

i DV端子からは出力されません。

再生一時停止している画像は

- i DV端子を使ってダビングすると粗い画像になります。
- 他機で再生したとき画像がぶれることがあります。

ダビングする

AV接続のときは

- メニューのETCで「画面表示」を「パネル」にしてください。（お買い上げ時は「パネル」に設定されています。）
- サーチ表示が表示されているときは、リモコンのサーチボタンを押して表示を消してください。
- データコードをダビングしたいときは、データコードを表示させてください。
- タイトルをダビングしたいときは、メニューのCMで「タイトル表示」を「入」にしてください。（お買い上げ時は「入」に設定されています。

i.LINK接続のときは

- タイトル、画面表示、カセットメモリーの内容、“メモリースティック”のインデックス画面の文字はダビングできません。

電源スイッチを（ビデオ）に

1 カセットを準備する。

本機：撮影済みのカセットを入れます。

録画機：録画用カセットを入れます。

2 録画機の準備をする。

入力切り換えスイッチを「外部入力（ライン）」にします。

詳しくは、録画機の取扱説明書をご覧ください。

3 本機で再生する。

4 録画機で録画を始める。

詳しくは、録画機の取扱説明書をご覧ください。

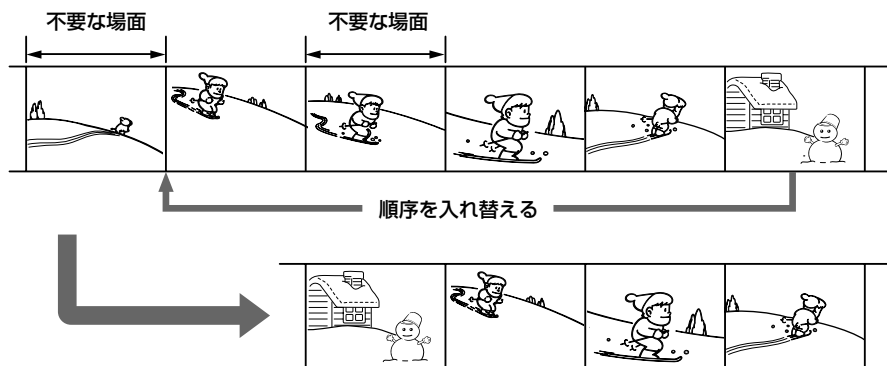
ダビングが終わったら

録画機の録画を停止し、本機での再生を停止する。

必要な場面を選びダビングする
– デジタルプログラムエディット（他機のテープへ）

録画済みのテープから必要な場面（プログラム）を選び、お好みの順番でつなぎ合わせ、録画機を操作せずに別のテープに簡単にダビングできます。

場面はフレーム単位で選べます。
最大20プログラムまで設定できます。

本機の"メモリースティック"にもダビングできます。詳しくは107ページをご覧ください。

他機のテープへのデジタルプログラムエディットの準備

準備1： 録画機をつなぐ（66ページ）。

準備2： 録画機を操作するための設定をする（69ページ）。

準備3： 録画機のタイミングを補正する（72ページ）。

上記の準備を一度行った録画機を使用する場合は、準備2、3は不要です。

操作の手順

操作1： プログラムを作る（73ページ）。

操作2： プログラムを実行する（ダビングする）（75ページ）。

ご注意

他機のテープへのデジタルプログラムエディットの操作信号は、LANC端子では送信できません。

準備1 録画機をつなぐ

AV接続ケーブル、i.LINKケーブルのどちらでも接続できます（66ページ）。

準備2 録画機を操作するための設定をする

AV接続ケーブルで接続したときは、本機の赤外線発光部から録画機のリモコン受光部に録画機を操作するための信号を送ります。

タッチパネルで操作

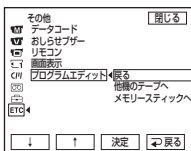
❶ 録画機の電源を入れ、入力切換を選ぶ。

録画機に入力切り換えスイッチがある場合は、入力にする。

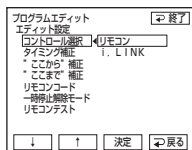
❷ 「機能」を押し、ページ1画面を出す。

❸ 「メニュー」を押す。

❹ ETCを選び、「決定」を押す。

❺ 「プログラムエディット」を選び、「決定」を押す。

❻ 「他機のテープへ」を選び、「決定」を押す。

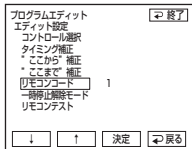
❼ 「エディット設定」を押す。

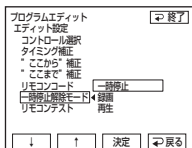
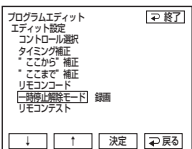
❽ 「コントロール選択」を選び、「決定」を押す。

❾ AV接続ケーブルでつないだときは、「リモコン」を選び、「決定」を押す。

i.LINKケーブルでつないだときは、「i.LINK」を選び、「決定」を押す。

i.LINK接続の場合は準備3（72ページ）にすすみます。

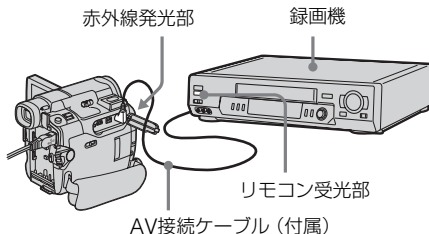
❿ 「リモコンコード」を選び、「決定」を押す。

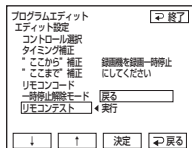
⓫ 録画機のリモコンコード（番号）を選び、「決定」を押す。

「リモコンコードについて」を参照してください（71ページ）。

⓬ 「一時停止解除モード」を選び、「決定」を押す。

⓭ 録画機の録画一時停止解除モードを選び、「決定」を押す。

一時停止解除モードはお使いの録画機により異なります。

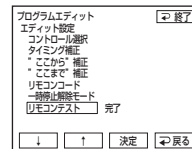
詳しくは、録画機の取扱説明書をご覧ください。

⓮ 本機の赤外線発光部と録画機のリモコン受光部を向かい合わせる。

機器の距離は約30cm離し、間に障害物などがない状態にします。

⓯ 録画機にカセットを入れ、録画一時停止にする。

⓰ 「リモコンテスト」を選び、「決定」を押す。

⓱ 「実行」を選び、「決定」を押す。

録画機が録画を開始すれば、正しく設定されています。

終了すると本機の表示は「完了」に変わります。

録画機が正しく動作しないとき

- 「リモコンコードについて」のコードをご覧の上、「リモコンコード」または「録画一時停止解除モード」を設定し直してください。
- 本機と録画機を約30cmまで離してください。
- 録画機の取扱説明書をご確認ください。

ご注意

i.LINKケーブルで接続したとき、録画機の機種により正しく操作できない場合があります。その場合は、手順❾で本機の「コントロール選択」を「リモコン」に設定して、手順❿〜⓱を行い、リモコンで操作してください。

リモコンコードについて

本機には、下記のリモコンコードが記憶されています。お使いの録画機のリモコンコードを設定してください。お買い上げ時、本機は「3」に設定されています。

メーカー	リモコンコード
ソニー	1、2、3、4、5、6
アイワ	47、54、55、57、60、64
キヤノン	97
コルディナ	34
富士通	34
フナイ	61、80
ゴールドスター	47
日立	43、47、56、75
ビクター	12、13、14、21
マルマン	26
三菱	22、27、28、29
NEC	35、65、66、67
オリオン	69、72
松下	16、18、19、78、79、96
フィリップス	83
パイオニア	31
三洋	36、38、46
シャープ	88、89、90、98
東芝	39、40、68
ユピテル	47

リモコンコードが対応していない機種は、デジタルプログラムエディットはできません。

次のページへつづく

準備3 録画機のタイミングを補正する

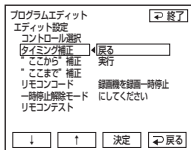
筆記具をご用意ください。
本機の動作と録画機の動作のタイミングの誤差を補正します。
本機のテープを取り出しておいてください。

電源スイッチを（ビデオ）に

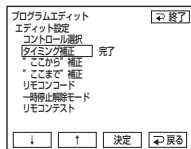
タッチパネルで操作

1 録画機にカセットを入れ、録画一時停止にする。

「コントロール選択」で「i.LINK」を選んだときは、録画一時停止にする必要はありません。

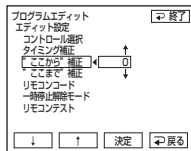
2 「タイミング補正」を選び、「決定」を押す。

3 「実行」を選び、「決定」を押す。

録画機にタイミング補正用のカウンターが5回分入った画像が録画されます。

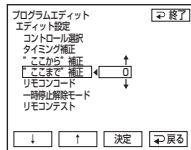
終了すると本機の表示は「実行中」の点滅から「完了」の点灯に変わります。

4 録画機のカセットを巻き戻し、スロー再生する。

5回分の「ここから」のカウンター数値と「ここまで」のカウンター数値が表示されます。これらのカウンター数値の中から、各回ごとに「ここから」の最初に表示される数値と「ここまで」の最後に表示される数値をメモします。

5 「ここから」の5回分の数値と「ここまで」の5回分の数値それぞれの平均値を計算する。

6 「"ここから" 補正」を選び、「決定」を押す。

7 「ここから」の平均値の数値を選び、「決定」を押す。

録画開始のタイミングが補正されます。

8 「"ここまで" 補正」を選び、「決定」を押す。

9 「ここまで」の平均値の数値を選び、「決定」を押す。

録画停止のタイミングが補正されます。

10 「⮐戻る」を押して決定する。

機能画面に戻すには

「⮐終了」を押してページ1画面に戻り、「閉じる」を押す。

ご注意

- タイミング補正用の画像が約50秒間録画されます。
- テープの頭から記録すると、はじめの部分が切れることがあります。10秒ほどテープを送ってから記録してください。
- i.LINKケーブル接続で録画機の操作がうまく行えないときは、接続はそのままで、AV接続ケーブルでの設定を行ってください。映像/音声はデジタル信号で送られます。

操作1 プログラムを作る

電源スイッチを（ビデオ）に

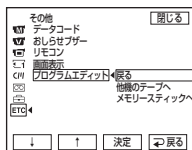
タッチパネルで操作

1 本機に再生するカセットを入れ、録画機に録画するカセットを入れる。

2 「機能」を押し、ページ1画面を出す。

3 「メニュー」を押す。

4 ETCを選び、「決定」を押す。

5 「プログラムエディット」を選び、「決定」を押す。

6 「他機のテープへ」を選び、「決定」を押す。

7 本機で、録画したい部分の始めを探し、再生一時停止にする。

◀II＜/II▶＞（コマ送りボタン）で微調整できます。

編集する－ダビングなど－

次のページへつづく

❽ 「マークここから」を押す。

最初のプログラムの「ここから」が設定され、最初のプログラムマークの上側が水色に変わります。

❾ 本機で、録画したい部分の終わりを探し、再生一時停止にする。

◀II＜/II▶＞（コマ送りボタン）で微調整できます。

❿ 「マークここまで」を押す。

最初のプログラムの「ここまで」が設定され、最初のプログラムマークの下側が水色に変わります。

⓫ 手順❼～❿を繰り返し、プログラムを設定する。

プログラムが設定されると、プログラムマークが水色に変わります。

最大20プログラムまで設定できます。

ご注意

デジタルプログラムエディット操作中は録画できません。

テープの無記録部分には
「ここから」と「ここまで」の設定はできません。

「ここから」と「ここまで」の間に無記録部分があると
トータルタイムが正しく表示されません。

プログラム設定を終了するには

「↩終了」を押す。

設定したプログラムはテープを取り出さないかぎり記憶されます。

一度設定したプログラムを消去するには

最後に設定したプログラムの「ここまで」、「ここから」の順で消去していきます。

❶ 73ページの手順❷～❻を行う。

❷ 「マークとりけし」を押す。

❸ 「1マーク消去」を押す。

最後に設定したプログラムマークが点滅し、「消去しますか？」が表示されます。

❹ 「実行」を押す。

最後に設定したプログラムが取り消されます。

消去を中止するには

手順❹で「中止」を押す。

プログラムを全消去するには

❶ 73ページの手順❷～❻を行う。

❷ 「マークとりけし」を押し、「決定」を押す。

❸ 「全消去」を押す。

設定したプログラムマークがすべて点滅し、「消去しますか？」が表示されます。

❹ 「実行」を押す。

設定したすべてのプログラムが取り消されます。

全消去を中止するには

手順❹で「中止」を押す。

操作2 プログラムを実行する（ダビングする）

電源スイッチを（ビデオ）に

タッチパネルで操作

❶ 録画機がビデオカメラレコーダーのときは、録画機の電源スイッチを「ビデオ」にする。

❷ 録画機が録画一時停止状態であることを確認する。（i.LINKケーブルでの接続のときは不要です。）

❸ 「機能」を押し、ページ1画面を表示する。

❹ 「メニュー」を押す。

❺ ETCを選び、「決定」を押す。

❻ 「プログラムエディット」を選び、「決定」を押す。

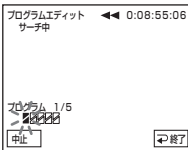
❼ 「他機のテープへ」を選び、「決定」を押す。

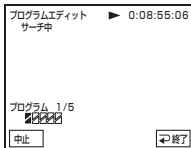
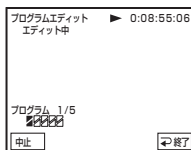
❽ 「スタート」を押す。

プログラムが未設定のときは「スタート」を押すことができません。

次のページへつづく

❾ 「実行」を押す。

最初のプログラムの始まりをサーチし、ダビングを開始します。このとき、実行中のプログラムマークが点滅します。

本機には、サーチ中は「サーチ中」、録画中は「エディット中」が表示されます。

サーチ中

エディット中

ダビングが終わると本機も録画機も自動的に停止します。

エディット中にダビングを中止するには

「中止」を押す。

デジタルプログラムエディットを終了するには

ダビングが終了すると本機は停止し、画面は「プログラムエディット」の設定画面に戻ります。

「⮐終了」を押し、表示を消す。

プログラムが未設定のときは、「スタート」を押すことができません。

次の場合、録画機で録画できません

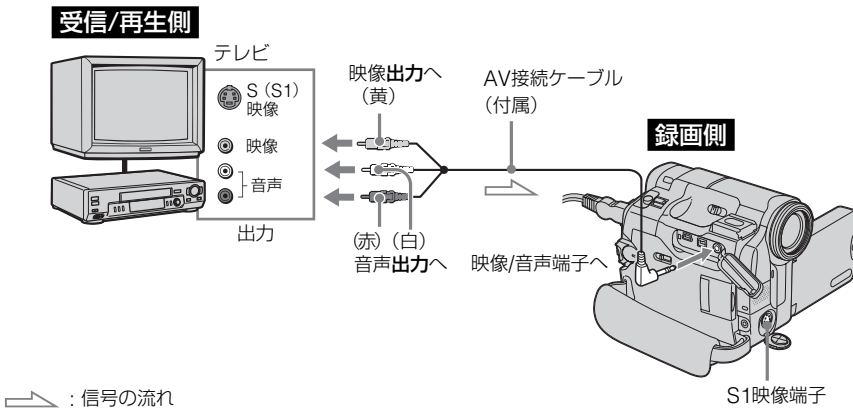
表示	原因
表示なし	• テープが誤消去防止状態になっている。 • リモコンコードが合っていない。（「リモコン」に設定したとき） • 録画一時停止解除モードがまちがっている。（「リモコン」に設定したとき）
「“i. LINK” ケーブルと録画機を確認してください」	• i.LINKケーブルを接続していない。（「i.LINK」に設定したとき） • 接続している録画機の電源が入っていない。（「i.LINK」に設定したとき）

ビデオやテレビから録画する

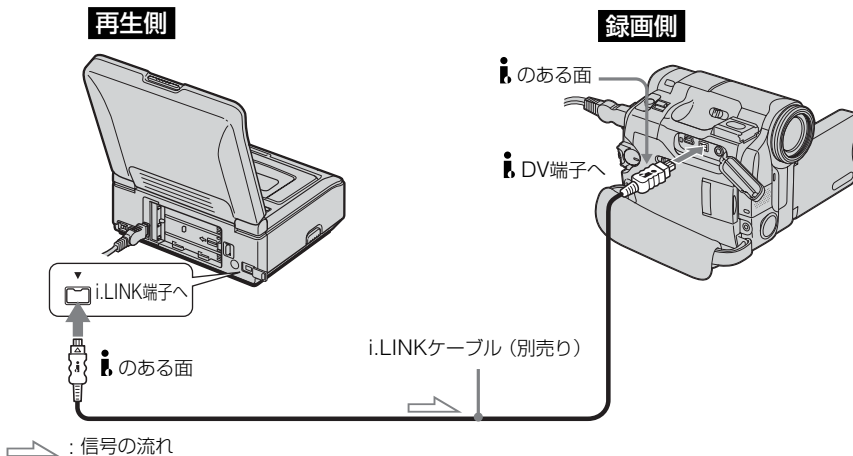
本機を録画機として使い、再生側のビデオの画像やテレビ番組を録画・編集できます。

AV接続ケーブル（付属）またはi.LINKケーブル（別売り）でつなぎます。i.LINKケーブルでつなぐと、デジタルで信号のやりとりをするので、画質、音質の劣化がほとんどありません。

ビデオやテレビを接続する

AV接続ケーブルでつなぐ

i.LINKケーブルでつなぐ

編集する―ダビングなど―

次のページへつづく

相手側のビデオはどの方式のビデオでも使えます。

（例）

8、Hi8、VHS、VHSC、SVHS、SVHSC、β、EDBeta、MiniDV、DV、D8、MICROMV

AV接続について

再生側ビデオの音声出力端子がひとつ(モノラル)の場合

AV接続ケーブルの黄色のプラグを映像出力へ、白いプラグか赤いプラグのどちらかを音声出力へつなぎます。音声は、白いプラグをつなぐと左音声が、赤いプラグをつなぐと右音声が記録されます。

S映像ケーブルについては

39ページをご覧ください。

i.LINK接続について

詳しくは151ページをご覧ください。

録画する

タッチパネルで操作

❶ カセットを準備する。

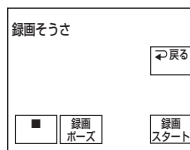
本機：録画用カセットを入れます。

再生機：ビデオから録画するときは、録画済みのカセットを入れます。

❷ 本機を録画一時停止にする。

1 「機能」を押し、「ページ3」を押す。

2 「録画そうさ」を押す。

3 「録画ポーズ」を押す。

❸ 再生側のビデオを再生する。または、録画したいテレビ番組を受信する。

つないだ機器の画像が液晶画面またはファインダーに映ります。

❹ 録画したい場面で「録画スタート」を押して録画を始める。

ダビングが終わったら

本機での録画を停止し、再生機での再生を停止する。

撮影したテープに新しく画像を挿入する

撮影、録画済みテープの指定した部分に、他のビデオからの映像・音声を挿入（インサート編集）できます。

77ページの接続と準備をし、挿入したい部分の入ったテープを他機に入れておきます。

リモコンを使います。

(a)

テープの走行方向

挿入したい部分

挿入したい部分の入ったテープ（他機）

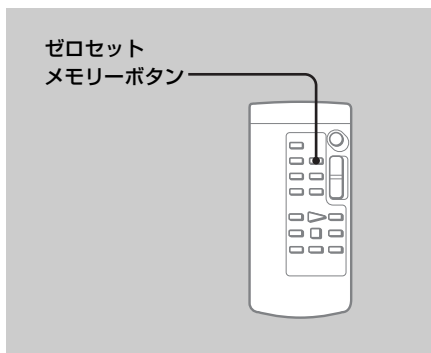
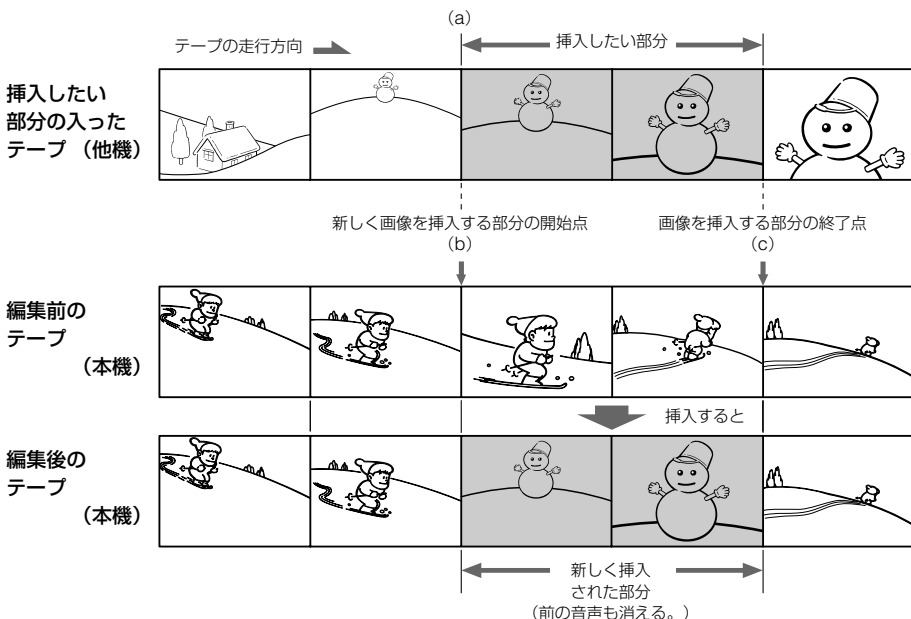
新しく画像を挿入する部分の開始点 (b)

画像を挿入する部分の終了点 (c)

編集前のテープ（本機）

挿入すると

編集後のテープ（本機）

新しく挿入された部分（前の音声も消える。）

❶ 他機（再生側）で、挿入したい部分の少し前（上図のa）で、再生一時停止状態にする。

終了点を設定せずに録画するときは、手順❷、❸をとばします。

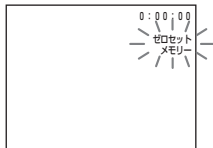
終了したいところで■/■（停止ボタン）を押します。

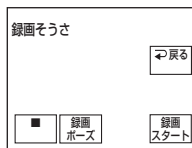
❷ 本機で、挿入部分の終了点（c）を探し、再生一時停止状態にする。

編集するーダビングなどー

次のページへつづく

❸ リモコンのゼロセットメモリーボタンを押す。

「ゼロセットメモリー」表示が点滅し、挿入部分の終了点が記憶され、テープカウンター値が「0:00:00」になります。

❹ 本機で、挿入部分の開始点（b）を探し、録画一時停止状態にする。

1 「機能」を押し、「ページ3」を押す。
2 「録画そうさ」を押す。
3 「録画ポーズ」を押す。

終了点の位置を変えるには

ゼロセットメモリーボタンをもう一度押し、「ゼロセットメモリー」表示を消して、手順❷からやり直す。

❺ 他機（再生側）のII一時停止ボタンを先に押し、数秒後に本体の「録画スタート」を押す。

本機の挿入部分に、新たに他機（再生側）の映像と音声が記録され始めます。
テープカウンター値が「0:00:00」の付近で、本機は自動的に停止になり、ゼロセットメモリーが解除されます。

記録済みテープに音声を追加する – アフレコ

12BITの音声モードで記録されたテープの指定した部分に、音声を追加できます。撮影時の音声は消えません。

準備する

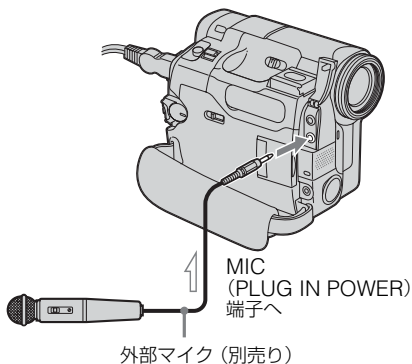
追加する音声は、以下の順番で優先されて録音されます。

- MIC（PLUG IN POWER）端子
- インテリジェントアクセサリーシュー
- 映像/音声端子
- 内蔵マイク

内蔵マイクを使う

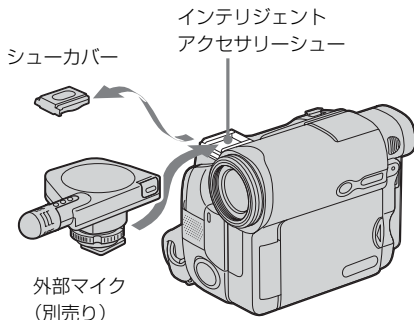
接続は不要です。

（以下の接続をしていないときは内蔵マイクになります。）

別売りの外部マイクをMIC端子につなぐ

：信号の流れ

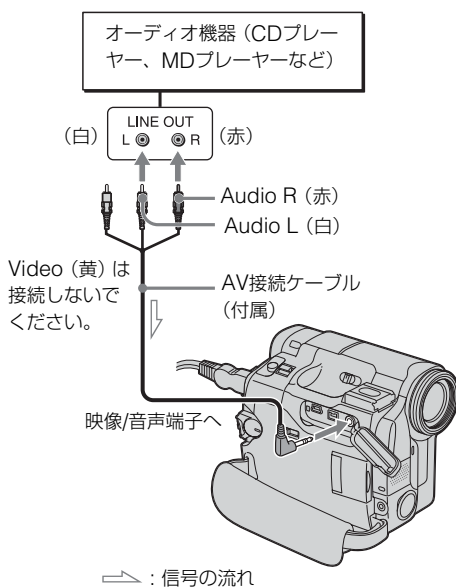
AV接続ケーブルでテレビなどとつないで画像と音声を確認することができます。アフレコする音声はスピーカーから出力されません。ヘッドホンかテレビで確認してください。

別売りの外部マイクをインテリジェントアクセサリーシューにつなぐ

シューカバーをはずしてから、取り付けてください。

映像/音声端子にオーディオ機器などをつなぐ

：信号の流れ

編集する－ダビングなど－

次のページへつづく

ご注意

映像/音声端子または内蔵マイクでアフレコするときは、S1映像端子や映像/音声端子から映像は出力されません。映像は液晶画面またはファインダーで確認してください。アフレコする音声はヘッドホンで確認してください。

アフレコする

81ページのいずれかの接続をして、次の操作をします。

電源スイッチを（ビデオ）に

タッチパネルで操作

❶ 本機に録画済みカセットを入れる。

❷ アフレコの開始点を決める。

▶II（再生/一時停止ボタン）を押して再生します。アフレコを始めたいところでもう一度押し、一時停止にします。
◀II</II▶（コマ送りボタン）で微調整できます。

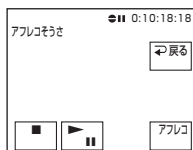
❸「機能」を押し、「ページ3」を押す。

❹「アフレコそうさ」を押す。

アフレコそうさ画面が表示されます。

❺「アフレコ」を押す。

緑色の⊖IIマークが表示されます。

⊖II 0:10:18:18
アフレコそうさ
戻る
■ ▶II アフレコ

❻ ▶II（再生/一時停止ボタン）を押すと同時に、オーディオ機器またはマイクで追加する音声を出す。

画像を再生しながら、ステレオ2に追加する音声を記録します。
アフレコ中は画面上に赤色の⊖マークが表示されます。

❼ アフレコを終了したいところで■（停止ボタン）を押す。

以下はアフレコできません

- 16BITモードで記録されたテープ
- LPモードで記録されたテープ
- i.LINKケーブルが接続されている
- テープの無記録部分
- 誤消去防止状態のカセット（誤消去防止つまみを元に戻してください。）

より正確にアフレコするには

再生中にアフレコを終了したいところで、あらかじめリモコンのゼロセットメモリーボタンを押しておきます。そのあと手順❷からの操作をすると、アフレコの終了点で自動的に録音が止まります。

本機で録画されたテープに

アフレコすることをおすすめします。他のビデオ（本機以外のDCR-TRV33Kを含む）で録画したテープにアフレコすると音質が劣化することがあります。

アフレコした音声を聞く

電源スイッチを（ビデオ）に

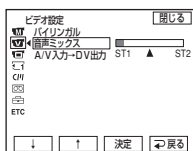
タッチパネルで操作

❶ **アフレコしたテープを再生する。**

❷ **「機能」を押し、ページ1画面を出す。**

❸ **「メニュー」を押す。**

❹ **[V]を選び、「決定」を押す。**

❺ **「音声ミックス」を選び、「決定」を押す。**

❻ **「↓」/「↑」で撮影時の音声（ステレオ1）とアフレコした音声（ステレオ2）の音声バランスを調整し、「決定」を押す。**

お買い上げ時はステレオ1のみの音声が出るように設定されています。メニューでバランスを調整しても、電源をはずして5分たつとバランスはステレオ1のみの音声が出る設定に戻ります。

カセットメモリー付きカセットにタイトルを入れる

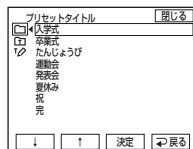
1つのカセットに記憶できるタイトルは、平均5文字で20タイトルです。ただし、カセットメモリーに日付データ/カセットラベルデータが容量いっぱいに入っているときは、平均5文字で11タイトルです。1つのカセットのカセットメモリーに入る各データの容量は次の通りです。

- 日付データ　6つ
- カセットラベル　1つ

電源スイッチを（カメラ）か（ビデオ）に

タッチパネルで操作

❶ 本機にカセットメモリー付きカセットを入れる。

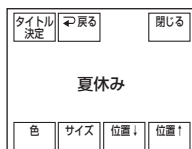
❷ [撮影中]・[撮影スタンバイ中]・[再生中] または [再生一時停止中] のときに、「機能」を押し、ページ1画面を出す。

❸ 「メニュー」を押す。

❹ ⓒⅢを選び、「決定」を押す。

❺ 「タイトル」を選び、「決定」を押す。

❻ 🗀を選び、「決定」を押す。

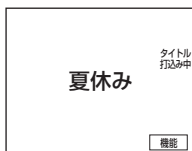
❼ 入れたいタイトルを選び「決定」を押す。

タイトルが表示されます。

❽ 「色」または「サイズ」、「位置↓」/「位置↑」を押して、希望の色、サイズ、位置を選ぶ。

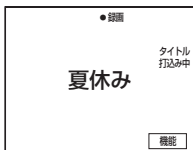
❾ 「タイトル決定」を押す。

❿ 「タイトル打込み」を押す。

[再生中]・[再生一時停止中] または [撮影中] のとき

「打込み中」の表示が出ます。約5秒後に表示が消え、タイトルが記憶されます。

[撮影スタンバイ中] のとき

「打込みよやく」の表示が出ます。スタート/ストップボタンを押して撮影を始めると同時に「打込み中」の表示

になり、約5秒後に表示が消え、タイトルが記憶されます。

以下の場合はタイトルが入りません

- 誤消去防止状態のカセット（誤消去防止ツマミを元に戻してください）
- テープの無記録部分

オリジナルタイトルを入れるときは

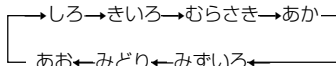
手順❻で[T]を選びます。

本機で入れたタイトルは

- インデックスタイトラー機能付きのMini DVビデオでのみ見られます。
- 他機で頭出ししたとき、インデックスデータとして誤検出されることがあります。

再生中にタイトルを出したくないとき

メニューの[CM]で「タイトル表示」を「切」にします。

設定表示と表示順

- 「色」
  →しろ→きいろ→むらさき→あか→あお→みどり→みずいろ→（しろへ戻る）
- 「サイズ」
  ちいさい↔おおきい
  13文字以上のタイトルには「おおきい」サイズの設定はできません。
- 「位置」
  ちいさいサイズは9段階、おおきいサイズは8段階から選べます。

タイトルを消す

電源スイッチを（カメラ）か（ビデオ）に

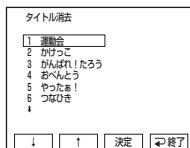
タッチパネルで操作

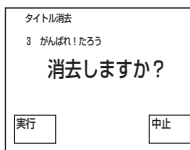
❶ **「機能」を押し、ページ1画面を出す。**

❷ **「メニュー」を押す。**

❸ **[CM]を選び、「決定」を押す。**

❹ **「タイトル消去」を選び、「決定」を押す。**

タイトル消去画面が表示されます。

❺ **消したいタイトルを選び、「決定」を押す。**

「消去しますか？」が表示されます。

❻ **消去するタイトルを確認し、「実行」を押す。**

「消去中」の表示が点滅します。

消去されると「完了」と表示されます。

機能画面に戻すには

「閉じる」を押す。

タイトルの消去を中止するには

手順❻で「中止」を押す。

オリジナルタイトルを作る

20文字以内のタイトルを自分で作って、2種類まで本機に記憶できます。

漢字変換機能はありません。

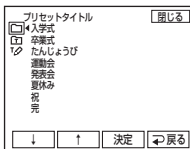
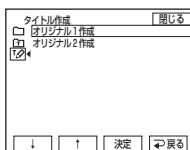
「きごう」にある漢字以外をタイトルに使うことはできません。カタカナは使えません。

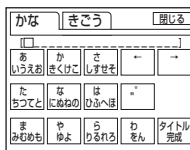
タッチパネルで操作

1 「機能」を押し、ページ1画面を出す。

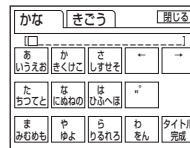
2 「メニュー」を押す。

3 を選び、「決定」を押す。

4 「タイトル」を選び、「決定」を押す。

5 を選び、「決定」を押す。

6 「オリジナル1作成」または「オリジナル2作成」を選び、「決定」を押す。

7 入力する文字の種類を選ぶ。

「かな」：ひらがなを入力するとき
「きごう」：アルファベット、数字や特定の文字を入力するとき

「かな」を選んだとき

「きごう」を選んだとき

8 希望の文字列を選び、ボタンを繰り返し押して希望の文字を入力する。

1つのボタンに複数の文字が割り当てられており、ボタンを押す回数によって文字が切り換わります。

空白を入れたいとき
「➔」を押します。

小さい「っ」などの文字を選ぶとき
ボタンを繰り返し押してください。

文字を消すとき
「←」を押すと、いちばん後ろの文字が消えます。

❾ 「→」を押して■を右に移動し、次の文字を入力する。

❿ 手順❽と❾を繰り返して、タイトルを入力する。

⓫ 「タイトル完成」を押す。

タイトルが記憶されます。

機能画面に戻すには

「閉じる」を押す。

作成したタイトルを変更するには

手順❻で変更したいオリジナルタイトルを選び、「決定」を押して、文字を選び直す。

撮影スタンバイ状態で、カセットを入れてタイトルを作成中に5分以上たつと自動的に電源が切れます
作成中のタイトルは残っています。一度電源スイッチを「切（充電）」にして、手順❶からやり直してください。
5分以上かかりそうなときは、電源スイッチを「ビデオ」にしておくかカセットを取り出しておけば、電源は切れません。

カセットメモリー付きカセットに名前を付ける – カセットラベル

10文字までの名前を付けることができます。

名前を付けたカセットを入れ、電源スイッチを「カメラ」または「ビデオ」にしたとき、付けた名前が自動的に約5秒間表示されます。

漢字変換機能はありません。

「きごう」にある漢字以外をタイトルに使うことはできません。カタカナは使えません。

タッチパネルで操作

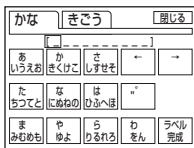
❶ **名前を付けたいカセットを入れる。**

❷ **「機能」を押し、ページ1画面を出す。**

❸ **「メニュー」を押す。**

❹ **CMを選び、「決定」を押す。**

❺ **「カセットラベル作成」を選び、「決定」を押す。**

カセットラベル作成画面が表示されます。

❻ **86〜87ページの手順❼〜❾を行い、文字を入力する。**

❼ **「ラベル完成」を押す。**

カセットラベルが記憶されます。

機能画面に戻すには

「閉じる」を押す。

作成したカセットラベルを消すには

86ページの手順❽で「←」を押して文字を消し、「ラベル完成」を押す。

作成したカセットラベルを変更するには

カセットラベルを変更したいカセットを入れ、カセットラベルを作るときと同じ手順で作り直す。

タイトルが入れてあると

カセットの名前が表示されるときに、カセットに記憶されているタイトルが4つまで画面に表示されます。

カセットメモリーのデータをすべて消去する

カセットメモリーに保存されている、下記の全てのデータを一度に消去することができます。

ー日付データ

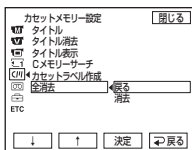
ータイトルデータ

ーカセットラベル

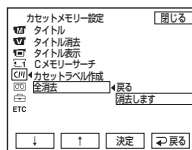
タッチパネルで操作

❶ **「機能」を押し、ページ1画面を出す。**

❷ **「メニュー」を押す。**

❸ **C/M を選び、「決定」を押す。**

❹ **「全消去」を選び、「決定」を押す。**

❺ **「消去」を選び、「決定」を押す。**

「消去」が「消去します」の表示に変わります。

❻ **「消去します」を選び、「決定」を押す。**

「消去中」の表示が点滅します。
消去されると「完了」と表示されます。

機能画面に戻すには

「閉じる」を押す。

消去を中止するには

手順❻で「戻る」を選び、「決定」を押す。

“メモリースティック”について

“メモリースティック”（“Memory Stick”）は小さくて軽く、しかもフロッピーディスクより容量が大きい新世代のIC記録メディアです。“メモリースティック”対応機器間でデータをやりとりするのにお使いいただけるだけでなく、着脱可能な外部記録メディアの1つとしてデータの保存にもお使いいただけます。
“メモリースティック”には、一般の“メモリースティック”と著作権保護技術（マジックゲート[1]）を搭載したタイプの“メモリースティック”があります。
本機ではマジックゲート搭載の“メモリースティック”と一般の“メモリースティック”のどちらもご使用いただけます。ただし、本機はマジックゲート規格に対応していないため、本機で記録したデータは著作権の保護の対象にはなりません。
また、本機では“メモリースティック　デュオ”、“メモリースティック　PRO”もご使用いただけます。

“メモリースティック”の種類	記録／再生
メモリースティック （メモリースティック　デュオ）	○
マジックゲート　メモリースティック （マジックゲート　メモリースティック　デュオ）	○ [2]
メモリースティック　PRO	○ [2]

[1] “マジックゲート”とは暗号化技術を使って著作権を保護する技術です。
[2] マジックゲート機能が必要なデータの記録／再生はできません。
すべてのメモリースティック・メディアの動作を保証するものではありません。

静止画のファイルフォーマット：Exif* Ver. 2.2
* （社）電子情報技術産業協会（JEITA）にて制定された、撮影情報などの付帯情報を追加することができる静止画用のファイルフォーマットです。

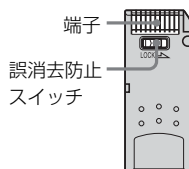
静止画の圧縮形式（JPEG）
本機は、撮影した静止画データをJPEG（Joint Photographic Experts Group）方式で圧縮/記録しています。ファイル拡張子は「.JPG」です。

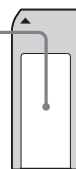
動画の圧縮形式（MPEG）
本機は、撮影した動画データをMPEG（Moving Picture Experts Group）方式で圧縮/記録しています。ファイル拡張子は「.MPG」です。

画像のデータファイル名
静止画の場合
– 本機の画面表示：101-0001
– パソコンの画面表示：DSC00001.JPG
動画の場合
– 本機の画面表示：MOV00001
– パソコンの画面表示：MOV00001.MPG

記録されている画像データを誤って消さないためには

誤消去防止スイッチをスライドさせて、「LOCK」にする。
誤消去防止スイッチの位置や形状は、お使いの“メモリースティック”によって異なる場合があります。

“メモリースティック”裏

“メモリースティック”についてのご注意

ラベル貼り付け部
- 専用ラベルをはみ出さないように貼ってください。
- 専用ラベル以外は貼らないでください。

以下の場合、画像のファイルが破壊されることがあります。破壊された場合、内容の補償については、ご容赦ください。
– “メモリースティック”にデータを書き込み中または画像ファイルを読み込み中（アクセスランプが点滅中または点灯中）に、“メモリースティック”を取り出したり、本機の電源を切ったりした場合
– 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使った場合

大切なデータは、パソコンのハードディスクなどへバックアップを取っておくことをおすすめします。

取り扱いについて

- 持ち運びや保管の際は、“メモリースティック”に付属の収納ケースに入れてください。
- 端子部に触れたり、金属を接触させたりしないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水にぬらさないでください。

使用場所について

以下の場所での使用や保管は避けてください。

– 高温になった車の中や炎天下など気温の高い場所
– 直射日光のあたる場所
– 湿気の多い場所や腐食性のものがある場所

“メモリースティック デュオ”(別売り)使用上のご注意

- “メモリースティック デュオ”を本機でお使いの場合は、必ず“メモリースティック デュオ”を“メモリースティック デュオ”アダプターに入れてからお使いください。
- “メモリースティック デュオ”を“メモリースティック デュオ”アダプターに入れるときは正しい挿入方向をご確認ください。
- “メモリースティック デュオ”を“メモリースティック デュオ”アダプターに装着して本機でご使用になるときは、正しい挿入方向をご確認の上ご使用ください。間違ったご使用は機器の破損の原因となりますのでご注意ください。
- “メモリースティック デュオ”アダプターに“メモリースティック デュオ”が装着されていない状態で、“メモリースティック デュオ”対応機器に挿入しないでください。このような使いかたをすると、機器に不具合が生じることがあります。

“メモリースティック PRO”(別売り)使用上のご注意

本機で動作確認されている“メモリースティック PRO”は1GBまでです。

パソコンでフォーマット(初期化)した“メモリースティック”

パソコン(Windows OS/Macintosh OS)でフォーマットした“メモリースティック”は、本機での動作を保証致しません。

“マジックゲートメモリースティック”について

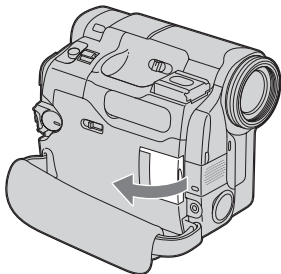
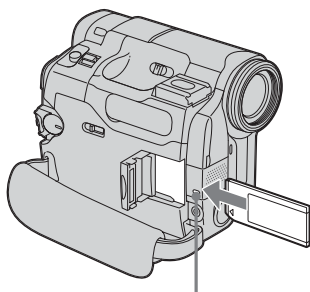
“マジックゲートメモリースティック”は、画像の記録用としてハンディカムで使うことができます。ただし、著作権で保護された音楽の記録・再生などの機能をハンディカムで使うことはできません。

画像の互換性について

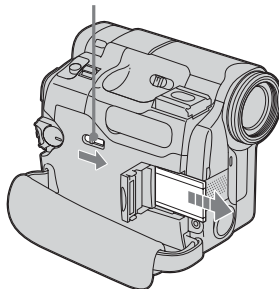
- 本機は(社)電子情報技術産業協会にて制定された統一規格“DCF(Design rule for Camera File systems)”に対応しています。
  統一規格に対応していない機器(DCR-TRV900, DSC-D700/D770)で記録された静止画像は本機では再生できません。
- 他機で使用した“メモリースティック”が本機で使えないときは、130ページの手順にしたがい本機でフォーマット(初期化)をしてください。フォーマットすると“メモリースティック”に記録してあるデータは全て消去されますので、ご注意ください。
- 本機で撮影した画像は、再生する機種によっては再生できないことがあります。
- 次の場合、正しく画像再生できないことがあります。
  – パソコンで加工した画像データ
  – 他機で撮影した画像データ

“メモリースティック”を入れる/取り出す

“メモリースティック”を入れる

1 “メモリースティック”スロットのふたを開ける。

2 “メモリースティック”の◀マークを下の図のようにして奥まで押しこむ。

3 ふたを閉める。

“メモリースティック”を取り出す

“メモリースティック”スロットのふたを開け、メモリー取出しボタンを矢印の方向へずらす。

アクセスランプ点灯中および点滅中は
データの読み込み、または書き込みを行っています。本機に振動や強い衝撃を与えないでください。また、電源を切ったり、“メモリースティック”やバッテリーを取りはずしたりしないでください。画像データが壊れることがあります。

「メモリースティックエラー」と表示されたときは
“メモリースティック”を2、3度入れ直してください。それでも表示が出るときは、“メモリースティック”が壊れていることがあります。“メモリースティック”を交換してください。

ご注意

- 逆向きに無理に入れると、“メモリースティック”スロットが破損することがあります。
- 故障の原因となりますので、“メモリースティック”スロットには“メモリースティック”以外の異物を入れないでください。

画質・画像サイズを選ぶ

静止画の画質を選ぶ

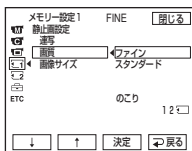
お買い上げ時は「ファイン」に設定されています。

タッチパネルで操作

1 「機能」を押し、ページ1画面を出す。

2 「メニュー」を押す。

3 を選び、「決定」を押す。

4 「静止画設定」を選び、「決定」を押す。

5 「画質」を選び、「決定」を押す。

6 希望の画質を選び、「決定」を押す。

設定	意味
ファイン（FINE）	画質を優先するときに使います。約1/4に圧縮されます。
スタンダード（STD）	標準の画質です。約1/10に圧縮されます。

機能画面に戻すには

「閉じる」を押す。

画像サイズを選ぶ－静止画

「1152×864」または「640×480」の画像サイズが選べます。
（電源スイッチを「カメラ」または「ビデオ」にしたときは、「640×480」のみになります。）
お買い上げ時は「1152×864」に設定されています。

タッチパネルで操作

1 「機能」を押し、ページ1画面を出す。

2 「メニュー」を押す。

3 を選び、「決定」を押す。

4 「静止画設定」を選び、「決定」を押す。

5 「画像サイズ」を選び、「決定」を押す。

”メモリースティック“を使う

次のページへつづく

❻ **希望の画像サイズを選び、「決定」を押す。**

表示は次のように変わります。

静止画のメモリー容量
画像はJPEG方式で圧縮処理をしてから記録されます。記録されるときに割り当てられるメモリー容量は、画質と画像サイズにより、次のようになります。

<画像サイズが1152×864のとき>

画質	メモリー容量
ファイン	約500Kバイト
スタンダード	約200Kバイト

<画像サイズが640×480のとき>

画質	メモリー容量
ファイン	約150Kバイト
スタンダード	約60Kバイト

画像サイズを選ぶ－動画

「320×240」または「160×112」の画像サイズが選べます。
お買い上げ時は「320×240」に設定されています。

❶ **「機能」を押し、ページ1画面を出す。**

❷ **「メニュー」を押す。**

❸ **を選び、「決定」を押す。**

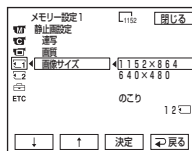
❹ **「ムービー設定」を選び、「決定」を押す。**

❺ **「画像サイズ」を選び、「決定」を押す。**

❻ **希望の画像サイズを選び、「決定」を押す。**

表示は次のように変わります。

機能画面に戻すには

「閉じる」を押す。

1枚の“メモリースティック”に記録できる枚数・撮影時間の目安

画質・画像サイズの設定、被写体の状況、フォルダ数およびプリントマークで記録枚数、撮影時間が異なります。

静止画

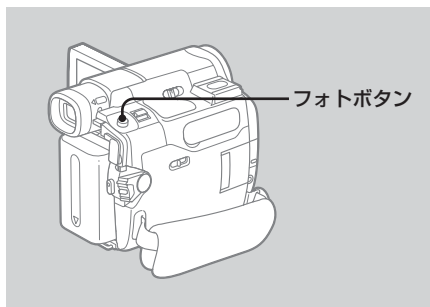
“メモリースティック”容量	ファイン		スタンダード	
	1152×864 1152	640×480 640	1152×864 1152	640×480 640
8MB（付属）	15	50	37	120
16MB	30	96	74	240
32MB	61	190	150	485
64MB	120	390	300	980
128MB	245	780	600	1 970
256MB (MSX-256)	460	1 450	1 050	3 650
512MB (MSX-512)	900	2 900	2 050	7 200
1 GB (MSX-1G)	1 850	5 900	4 200	14 500

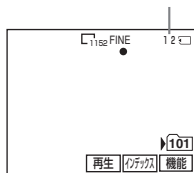
記録枚数（約　枚）

動画

“メモリースティック”容量	画像サイズ	
	320×240 320	160×112 160
8MB（付属）	約1分20秒	約5分20秒
16MB	約2分40秒	約10分40秒
32MB	約5分20秒	約21分20秒
64MB	約10分40秒	約42分40秒
128MB	約21分20秒	約1時間25分20秒
256MB (MSX-256)	約42分40秒	約2時間50分40秒
512MB (MSX-512)	約1時間25分20秒	約5時間41分20秒
1 GB (MSX-1G)	約2時間50分40秒	約11時間22分40秒

本機でフォーマットした“メモリースティック”に記録できる静止画の撮影枚数と動画の記録時間です。

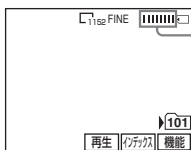
“メモリースティック”に静止画を撮る – メモリーフォト撮影

1 **フォトボタンを軽く押したまま、画像を確認する。**

緑の●が点滅から点灯に変わり、撮影可能になります。

画像の明るさとフォーカスが固定されます。撮影するとき、明るさとフォーカスは画面の中央部分の被写体に合わせて調整されます。

フォトボタンを軽く押すと画像が瞬間的にまたたきますが、異常ではありません。

リモコンのフォトボタンを押すと押したときに映っている画像が記録されます。

2 **フォトボタンを深く押す。**

「カシャ」とシャッター音がして、画像が静止画になります。

ボタンを深く押したときに画面に映っている画像が“メモリースティック”に記録されます。

記録可能な枚数の表示は、画質の設定や被写体の状況によって異なってきます。このため、撮影後も記録可能な枚数の表示が変わらないことがあります。9999枚より多いときは、>9999と表示されます。

[テープ撮影中]または[撮影スタンバイ中]でも“メモリースティック”に静止画を撮ることができます

詳しくは40ページをご覧ください。

電源スイッチを「メモリー」にすると

以下の機能が使えません。

- ワイドTV
- デジタルズーム
- 手ぶれ補正
- SUPER NIGHTSHOT
- COLOR SLOW SHUTTER
- フェーダー
- ピクチャーエフェクト
- デジタルエフェクト
- タイトル
- プログラムAEのスポーツレッスン（表示が点滅します）

静止画を記録中は

電源を切ったりフォトボタンを押したりすることはできません。

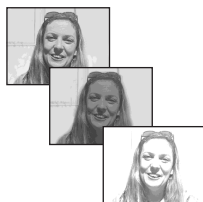
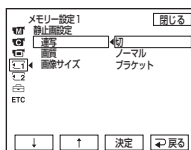
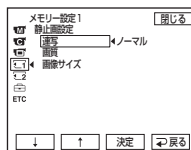
日付データ/カメラデータは
画面には出ません。自動で“メモリースティック”上に記録され、再生時に「データコード」を押すと見ることができます。リモコンも使えます。

電源スイッチを「メモリー」にして撮影すると
電源スイッチを「カメラ」にして撮影しているときにくらべて画角が少し広くなります。

連続して撮る（連写）

あらかじめメニューで連写の設定をしてメモリーフォト撮影をすると、以下の連写ができます。

ノーマル
約0.5秒間隔で1152×864で4枚、640×480で13枚までの静止画を連続して撮影します。

BRK ブラケット
約0.5秒間隔で自動で露出を変えて3枚の画像を連続して撮影します。

1. 「機能」を押し、ページ1画面を出す。
2. 「メニュー」を押す。
3. を選び、「決定」を押す。
4. 「静止画設定」を選び、「決定」を押す。
5. 「連写」を選び、「決定」を押す。

6. 「ノーマル」または「ブラケット」を選び、「決定」を押す。

7. 「閉じる」を押してメニュー画面を消す。
8. フォトボタンを深く押す。
「ノーマル」では、フォトボタンを深く押している間、最大枚数まで連続して撮影します。

次のページへつづく

連写の枚数は
画像サイズと“メモリースティック”の残量によって変わることがあります。

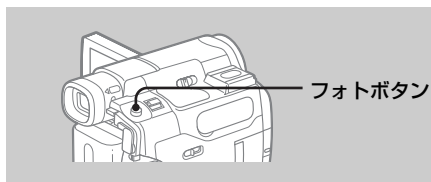
連写をしているときは
フラッシュ（別売り）は発光しません。

セルフタイマーまたはリモコンを使って撮影したときは
自動的に最大枚数まで連続して撮影します。

“メモリースティック”の残量が3枚より少ないと
ブラケット撮影はできません。ブラケット撮影を設定して、フォトボタンを押すと「メモリースティックのメモリーがいっぱいです」と表示されます。

ブラケット撮影の効果
液晶画面上では違いがわかりにくい場合があります。テレビモニターやパソコン画面などで効果を確認することをおすすめします。

テープの画像を静止画として取り込む

静止画の画像サイズは「640×480」になります。

録画済みのテープと“メモリースティック”を入れておいてください。

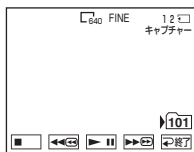
電源スイッチを(ビデオ)に

タッチパネルで操作

1 **(再生ボタン)を押す。**

テープの画像が映ります。

2 **画像を取り込みたい部分でフォトボタンを軽く押したまま、画像を確認する。**

テープの画像が一時停止し、「キャプチャー」が表示されます。(まだ記録はされません。)

画像を選び直すときは、フォトボタンを離してからもう一度軽く押します。
リモコンのフォトボタンを押すと、押したときに映っている画像が記録されます。

3 **フォトボタンを深く押す。**

バーのスクロール表示が終わると、記録が完了します。

ボタンを深く押したときに画面に映っている画像が“メモリースティック”に記録されます。テープの画像は再生に戻ります。

テープに記録された音声は
記録できません。

タイトルは
記録できません。

テープに記録されたデータコードは
“メモリースティック”には記録できません。
“メモリースティック”に取りこんだときの日時を記録します。カメラデータは記録できません。

他機をつないで静止画を取り込む

接続する

77ページを参照して接続してください。

メニューのETCで「画面表示」を「パネル」にしてください。(お買い上げ時は、「パネル」に設定されています。)

電源スイッチを(ビデオ)に

タッチパネルで操作

1 **再生側のビデオなどで再生を始める。または録画したいテレビ番組を受信する。**

2 **画像を取り込みたい部分で左記の手順2〜3を行う。**

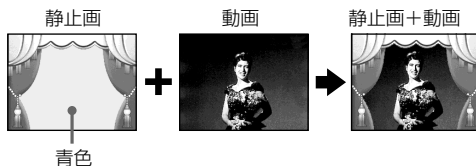
ご注意

ダビングを繰り返したなどで記録状態の悪いテープからは、画像を取り込めなかったり、乱れた画像を記録することがあります。

静止画を重ねて撮る – メモリーミックス

“メモリースティック”に記録してある静止画を、カメラで撮影している動画に重ねることができます（撮影後のテープ画像には重ねることはできません）。重ねた画像はテープまたは“メモリースティック”に記録できます。（“メモリースティック”には静止画のみ記録できます。）

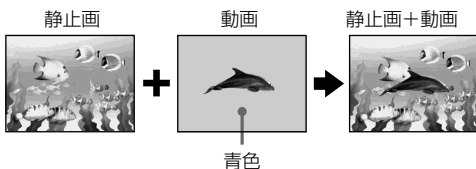
メモリークロマキー

イラストや枠などの静止画を使い、静止画の青色の部分のみを抜いて動画と重ねる。

メモリールミキー

手書きイラストやタイトルなどの静止画を使い、静止画の明るい部分を抜いて動画に重ねる。旅行やイベントの前にあらかじめタイトルを“メモリースティック”に入れておくと便利です。

カメラクロマキー

背景などの静止画に動きのある被写体を重ねる。(青色を背景に被写体を撮影し、青色の部分のみを抜く。)

静止画　動画

メモリーオーバーラップ

オーバーラップフェーダーと同様に、“メモリースティック”に記録してある静止画から、本機で撮影している動画にフェードインをする。電源スイッチが「カメラ」になっているときのみ、使えます。

付属の“メモリースティック”には

サンプルとして20枚の画像が記録されています。

- メモリークロマキー用 18枚（枠など）
  101－0001～101－0018
- カメラクロマキー用 2枚（背景になる絵など）
  101－0019～101－0020

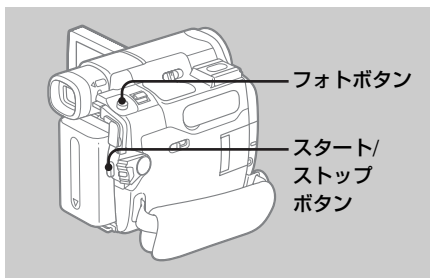
サンプル画像は

プロテクトされています（117ページ）。

ご注意

- MPEGムービー撮影した動画にメモリーミックスすることはできません。
- 重ねる静止画に白い部分が多いと、小画面で表示したときにはっきりと見えないことがあります。
- 対面撮影（25ページ）のとき、液晶画面に映る画像は左右が反転しません。

パソコンで加工した画像データや他機で撮影した画像データは

本機で再生できないことがあります。

重ねた画像をテープに記録する

記録用のテープと静止画が記録された“メモリースティック”を入れておいてください。

電源スイッチを(カメラ)に

タッチパネルで操作

❶ **「機能」を押し、「ページ2」を押す。**

❷ **「メモリーミックス」を押す。**

最後に“メモリースティック”に記録した画像が画面の右下の小画面に表示されます。

❸ **画面右側の「−」（前の画像）/「＋」（次の画像）を押して、重ねたい静止画を選ぶ。**

❹ **希望の効果を選ぶ。**

静止画が[撮影スタンバイ中]の動画と重なります。

効果を選び直すことはできません。一度「切」を押し、ページ2画面まで戻ってください。

❺ **画面左側の「−」/「＋」を押して効果を調整し、「決定」を押す。**

ページ2画面に戻ります。

調整する内容は以下の通りです。

メモリークロマキー	静止画の、青色の部分のみの抜き具合。
メモリールミキー	静止画の、明るい部分の抜き具合。
カメラクロマキー	動画の、青色の部分のみの抜き具合。
メモリーオーバーラップ(カメラのときのみ)	調整の必要はありません。

❻ **「閉じる」を押して、機能画面に戻る。**

❼ **スタート/ストップボタンを押して撮影を始める。**

静止画を選び直すには

手順❺の前で画面右側の「−」/「＋」を押す。

メモリーミックスを解除するには

「切」を押す。

ページ2画面に戻ります。

ご注意

撮影中は効果を選び直すことはできません。

静止画をそのままテープに記録するには

メモリールミキーモードで、画面左側の「−」/「+」を押してバー表示を右側いっぱいまで増やします。

メモリーオーバーラップを選ぶと

静止画を選び直せません。一度「⮐切」を押し、メモリーオーバーラップを解除してから選び直してください。

重ねた画像を"メモリースティック"に記録するとき

あらかじめ静止画が記録された"メモリースティック"を入れておいてください。

静止画の画像サイズは「640×480」になります。

タッチパネルで操作

❶ **101ページの❶～❻を行う。**

❷ **フォトボタンを深く押して撮影する。**

画面右上バーのスクロール表示が終わると、記録が完了します。

ボタンを深く押したときに画面に映っている画像が"メモリースティック"に記録されます。

メモリーミックスを解除するには

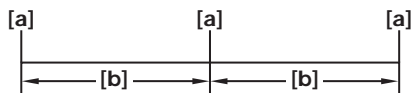
「⮐切」を押す。

ページ2画面に戻ります。

一定時間おきに撮る – インターバル静止画記録

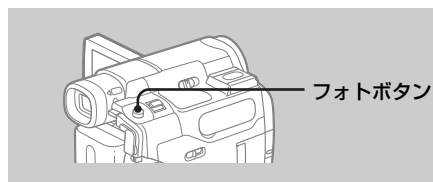
設定した時間ごとに記録することができます。

例

「ウェイトタイム」10分を選んだ場合

[a] フォト記録
[b] ウエイトタイム10分

❶ 「機能」を押し、ページ1画面を出す。

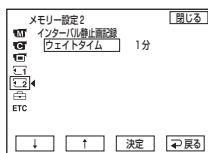
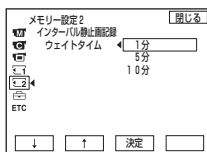
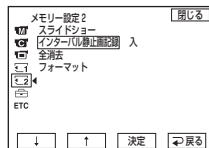
❷ 「メニュー」を押す。

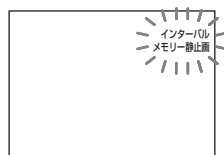
❸ ⊡2を選び、「決定」を押す。

❹ 「インターバル静止画記録」を選び、「決定」を押す。

❺ 「設定」を選び、「決定」を押す。

❻ 「ウェイトタイム」を選び、「決定」を押す。

❼ 希望のウェイトタイムを選び、「決定」を押す。

❽ 「⮐戻る」を押す。

❾ 「インターバル静止画記録」を「入」にして、「決定」を押す。

❿ 「閉じる」を押して、機能画面に戻す。

「インターバル　メモリー静止画」表示が点滅します。

⓫ フォトボタンを押す。

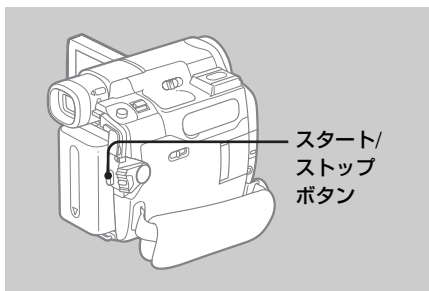
インターバル静止画記録が始まります。

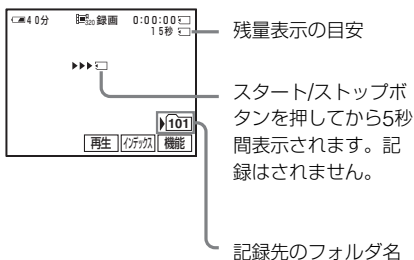
インターバル静止画記録中は、「インターバル　メモリー静止画」表示が点灯します。

インターバル静止画記録を解除するには

「インターバル静止画記録」を「切」にする。

“メモリースティック”に動画を撮る – MPEGムービー撮影

“メモリースティック”に、音声つきで動画を記録することができます（MPEGムービーEX）。

スタート/ストップボタンを押す。

撮影が始まり、録画ランプが点灯します。“メモリースティック”に画像と音声を記録します。記録時間について詳しくは95ページの表を参照してください。

撮影を中止するには

スタート/ストップボタンを押す。

ご注意

音声はモノラルで記録されます。

電源スイッチを「メモリー」にすると
以下の機能が使えません。
- ワイドTVモード
- デジタルズーム
- 手ぶれ補正
- SUPER NIGHTSHOT
- COLOR SLOW SHUTTER
- フェーダー
- ピクチャーエフェクト
- デジタルエフェクト
- タイトル
- プログラムAEのスポーツレッスン
  （表示が点滅します）

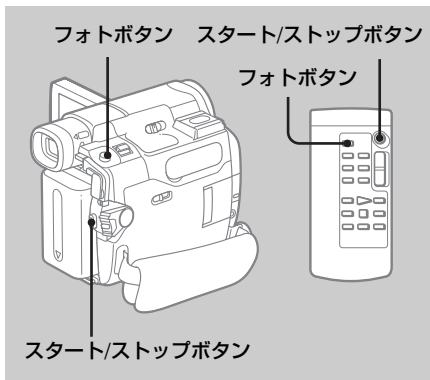
別売りのフラッシュを接続しているとき
MPEGムービー撮影をするときは、フラッシュの電源を「切」にしてください。フラッシュへの充電音が記録されることがあります。

日付データは
画面には出ません。自動で“メモリースティック”上に記録され、再生時に「データコード」を押すと見ることができます。カメラデータは記録できません。

セルフタイマー撮影

セルフタイマーを使って“メモリースティック”に動画を記録できます（105ページ）。

セルフタイマー撮影

セルフタイマーを使って“メモリースティック”に静止画や動画を記録できます。リモコンも使えます。

タッチパネルで操作

動画を記録する

❶ 「機能」を押し、「ページ2」を押す。

❷ 「セルフタイマー」を押す。

(セルフタイマー)が表示されます。

❸ 「閉じる」を押す。

❹ スタート/ストップボタンを押す。

セルフタイマーの秒読みが始まります。秒読み中はブザー音が鳴り、2秒前にブザー音が速くなります。ボタンを押してから約10秒後に、自動的に撮影が始まります。

静止画を記録する

❶ 左記の手順❶〜❸を行う。

❷ フォトボタンを深く押す。

セルフタイマーの秒読みが始まります。秒読み中はブザー音が鳴り、2秒前にブザー音が速くなります。ボタンを押してから約10秒後に、自動的に撮影されます。

動画撮影の秒読みを停止するには

スタート/ストップボタンを押す。再開するにはもう一度押す。

セルフタイマーを止めるときは

[撮影スタンバイ中]にもう一度「セルフタイマー」を押し、(セルフタイマー)表示を消す。

リモコンを使ってセルフタイマーを中止することはできません。

ご注意

静止画記録の秒読みは停止できません。

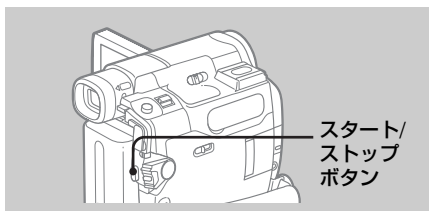
セルフタイマー撮影を実行したあと

セルフタイマーは自動的に解除されます。

電源スイッチが「カメラ」になっているときも

セルフタイマー撮影できます。41ページをご覧ください。

テープの画像を動画として取り込む

テープに記録された画像を、“メモリースティック”に動画として記録できます。

録画済みのテープと“メモリースティック”を入れておいてください。

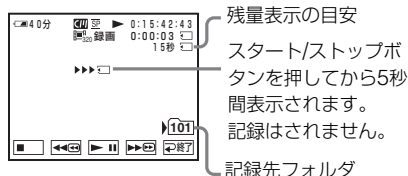
1 **(再生/一時停止ボタン)を押す。**

テープの画像が映ります。

2 **画像を取り込みたい部分の開始点で、(再生/一時停止ボタン)を押す。**

再生一時停止状態になります。

3 **スタート/ストップボタンを押す。**

“メモリースティック”に、画像と音声を記録します。記録時間について詳しくは95ページの表を参照してください。

取り込みを終了するには

スタート/ストップボタンを押す。

ご注意

- テープの音声が48kHzでも、32kHzに変換されて記録されます。
- ステレオで記録された音声はモノラルに変換されて記録されます。

タイトルは

記録できません。

「メモリースティック音声エラー」と表示されたときは

本機では取りこめない音声で記録されています。他機を再生機として、AV接続ケーブルを使って外部入力してください(77ページ)。

テープに記録されたデータコードは

“メモリースティック”には記録できません。“メモリースティック”に取り込んだ時の撮影日時が記録されます。カメラデータは記録できません。

他機をつないで動画を取り込む

接続する

77ページを参照して接続してください。

メニューのETCで「画面表示」を「パネル」にしてください。(お買い上げ時は、「パネル」に設定されています。)

1 **再生側のビデオなどで再生を始める。または録画したいテレビ番組を受信する。**

他機の画像が液晶画面またはファインダーに映ります。

2 **画像を取り込みたい部分の開始点でスタート/ストップボタンを押す。**

ご注意

以下の場合、記録が途中で終了したり、乱れた画像を記録することがあります。

- テープに無記録部分があるとき
- ダビングを繰り返したなどで記録状態の悪いテープから画像を取り込もうとしたとき
- 入力信号が途切れたとき

テープの画像を編集して取り込む
– デジタルプログラムエディット（“メモリースティック”へ）

録画済みのテープから必要な場面（プログラム）を選び、お好みの順番でつなぎ合わせ、“メモリースティック”に取り込むことができます。

プログラムを作る

電源スイッチを（ビデオ）に

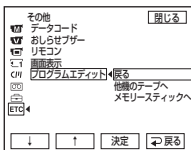
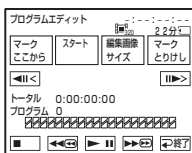
タッチパネルで操作

❶ 本機に再生するカセットと録画する“メモリースティック”を入れる。

❷「機能」を押し、ページ1画面を出す。

❸「メニュー」を押す。

❹ ETCを選び、「決定」を押す。

❺「プログラムエディット」を選び、「決定」を押す。

❻「メモリースティックへ」を選び、「決定」を押す。

❼「編集画像サイズ」を押す。
希望の画像サイズを選びます。
押すたびに画像サイズが換わります。

❽ 73～74ページの手順❼～⓫を行う。

一度設定したプログラムを消去するには

❶ 左記の手順❷～❻を行う。

❷ 74ページの手順❷～❹を行う。

プログラムを全消去するには

❶ 左記の手順❷～❻を行う。

❷ 75ページの手順❷～❹を行う。

ご注意

- タイトル、画面表示、カセットメモリーの内容はダビングできません。
- デジタルプログラムエディット操作中は録画することはできません。

テープの無記録部分には
「ここから」と「ここまで」の設定はできません。

「ここから」と「ここまで」の間に無記録部分があると
トータルタイムが正しく表示されません。

プログラム作成中に
カセットを取り出すと、「実行できません」と表示され、プログラムは消去されます。

プログラムを実行する（“メモリースティック” へダビングする）

電源スイッチを（ビデオ）に

タッチパネルで操作

1 「機能」を押し、ページ1画面を出す。

2 「メニュー」を押す。

3 ETCを選び、「決定」を押す。

4 「プログラムエディット」を選び、「決定」を押す。

5 「メモリースティックへ」を選び、「決定」を押す。

6 「スタート」を押す。

プログラムが未設定のときは「スタート」を押すことができません。

7 「実行」を押す。

最初のプログラムの始まりをサーチし、ダビングを開始します。このとき、実行中のプログラムマークが点滅します。

本機には、サーチ中は「サーチ中」、本機に記憶中は「エディット中」、“メモリースティック” にダビング中は「記録中」が表示されます。

ダビングが終わると自動的に停止します。

ダビングを中止するには

「中止」を押す。

押したところまで “メモリースティック” に記録されます。

デジタルプログラムエディットを終了するには

ダビングが終了すると本機は停止し、画面は「プログラムエディット」の設定画面に戻ります。

「⮐終了」を押し、表示を消す。

ご注意

次の場合、記録が途中で終了したり、乱れた画像を記録することがあります。
- テープに無記録部分があるとき
- ダビングを繰り返したなどで記録状態の悪いテープから画像を取り込もうとしたとき

以下の場合には、「実行できません」と表示され、ダビングできません
- プログラムが未設定
- “メモリースティック” が入っていない
- “メモリースティック” の誤消去防止スイッチがLOCKになっている

“メモリースティック” の残量がたりないときは
「メモリースティックのメモリーがたりません」と表示されます。ただし、残量表示されている秒数までは、記録できます。

記録先フォルダを変更する

“メモリースティック”の中に複数のフォルダを作成できます。

撮影した画像が多くなったときなど、フォルダで分類すると便利です。お買い上げ時は「101MSDCF」フォルダが記録先のフォルダとして設定されています。フォルダは「999MSDCF」まで作成できます。

新しいフォルダを作る

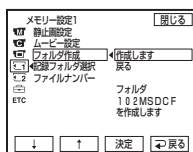
タッチパネルで操作

❶ **「機能」を押し、ページ1画面を出す。**

❷ **「メニュー」を押す。**

❸ **[メモリー設定アイコン]を選び、「決定」を押す。**

❹ **「フォルダ作成」を選び、「決定」を押す。**

作成されるフォルダ番号が表示されます。

❺ **「作成します」を選び、「決定」を押す。**

フォルダが作成されます。フォルダ番号は今までの最大番号+1になります。作成されたフォルダは自動的に記録先フォルダに設定されます。

機能画面に戻すには

「閉じる」を押す。

フォルダ作成を中止するには

手順❺で「戻る」を選ぶ。

記録先フォルダを選ぶ

電源スイッチを
メモリー に

タッチパネルで操作

❶ **「機能」を押し、ページ1画面を出す。**

❷ **「メニュー」を押す。**

❸ **[メモリー設定アイコン]を選び、「決定」を押す。**

❹ **「記録フォルダ選択」を選び、「決定」を押す。**

❺ **フォルダを選び、「決定」を押す。**

フォルダが選ばれます。

機能画面に戻すには

「閉じる」を押す。

ご注意

- 1つのフォルダに記録できるのは9999枚です。フォルダの容量がいっぱいになると、自動的に新しいフォルダが作成されます。
- 一度作成したフォルダを本機で削除することはできません。
- フォルダの数が増えると、“メモリースティック”の撮影可能枚数は減少します。

静止画を見る – メモリーフォト再生

“メモリースティック”に記録してある静止画を見ることができます。
また、インデックス表示をすると、データファイル順に動画も含めた画像を6枚ずつ表示できます（111ページ）。

1 「再生」を押す。

最後に撮影した画像が表示されます。

2 「－」（前の画像）/「＋」（次の画像）を押して、静止画を選ぶ。

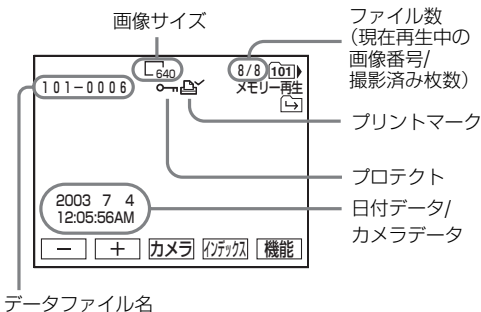
メモリーフォト再生を止めるには

「カメラ」を押す。

フォルダの中に画像が1枚もないときは

「このフォルダにはファイルがありません」と表示されます。

静止画再生中の画面表示

画面表示を消すには、画面表示/バッテリーインフォボタンを押す。

“メモリースティック”に複数のフォルダがあるときは

フォルダの中の最初／最後の画像が表示されると、画面に下記のマークが表示されます。

- ：前のフォルダに移動できます。
- ：次のフォルダに移動できます。
- ：前のフォルダにも、次のフォルダにも移動できます。

データファイル名について

- フォルダ構造がDCF規格に準拠していないと、フォルダ番号は表示されず、ファイル名のみ表示される場合があります。
- データファイル名が点滅したときは、ファイルが壊れているか、本機で扱えないファイル形式です（91ページ）。

日付データ/カメラデータは

「データコード」を押すと見ることができます。
リモコンも使えます（36ページ）。

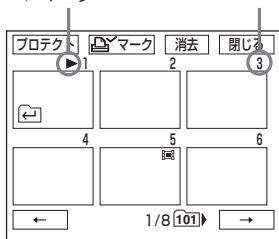
画像を6枚ずつ表示する（インデックス表示）

画像を検索するときなどに便利です。

「インデックス」を押す。

インデックス表示をする前に映っていた画像に赤色の▶マークが表示されます。

▶マーク　“メモリースティック”の記録順

プロテクト　マーク　消去　閉じる
1　2　3
4　5　6
←　1/8 101　→

←：前の6枚を見るとき

→：次の6枚を見るとき

機能画面に戻すには

「閉じる」を押す。

1枚の表示（シングル表示）に戻すには

表示したい画像を押す。

動画を見る – MPEGムービー再生

“メモリースティック”に記録した動画を見ることができます。

電源スイッチを
 に

 タッチパネルで操作

❶ 「再生」を押す。

最後に撮影した画像が表示されます。

❷ 「－」（前の画像）/「＋」（次の画像）を押して、動画を選ぶ。

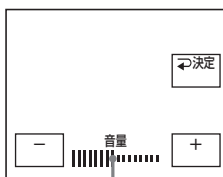
❸ 「MPEG▶❚❚」を押して、再生を始める。

❹ 音量を調整する。

1 「機能」を押し、「ページ3」を押す。

2 「音量」を押す。

音量画面が表示されます。

3 「－」/「＋」を押して音量を調整する。

4 「↩決定」を押し、「ページ3」画面に戻る。

機能画面に戻るには

「閉じる」を押す。

MPEGムービー再生を止めるには

「MPEG▶❚❚」を押す。

フォルダの中に画像が1枚もないときは

「このフォルダにはファイルがありません」と表示されます。

見たい場面から再生する

撮影した動画を分割して見たい場面から再生できます。最大で60分割されます。

撮影時間により分割数は変わります。撮影時間が極端に短い場合は分割されません。

電源スイッチを
（メモリー）に

 タッチパネルで操作

❶ 左記の手順❶～❷を行う。

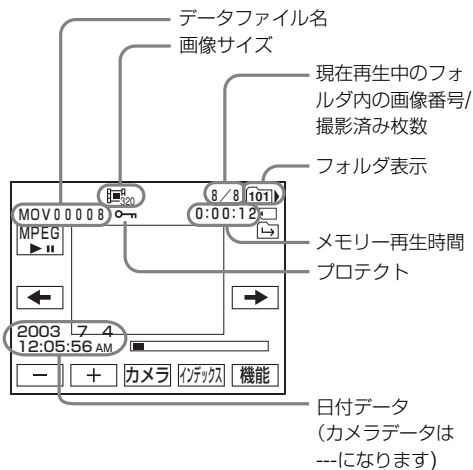
❷ 「⬅」（前の場面）/「➡」（次の場面）を押して、頭出ししたい場面を選ぶ。

❸ 左記の手順❸～❹を行う。

MPEGムービー再生を止めるには

「MPEG▶❚❚」を押す。

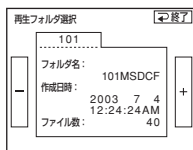
動画再生中の画面表示

画面表示を出したり消したりするには、画面表示/バッテリーインフォボタンを押します。

日付データは
「データコード」を押すと、見ることができます（36ページ）。

再生フォルダを選ぶ

再生するフォルダを変更するときに使います。現在選ばれているフォルダは、画面右上に表示されています。

❶ **「機能」を押し、ページ1画面を出す。**

❷ **「再生フォルダ」を押す。**

❸ **＋／ーを押して再生したいフォルダを選び、「終了」を押す。**

フォルダが選ばれ、ページ1画面に戻ります。

機能画面に戻るには

「閉じる」を押す。

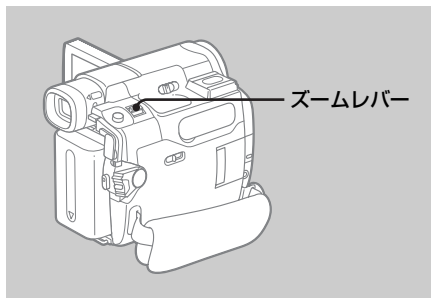
ご注意

パソコンで作成したフォルダや、名前を変更したフォルダは本機で認識されません。

現在選ばれている再生フォルダに
次に撮影した画像が記録されます。
撮影時に別のフォルダを選ぶと、再生フォルダは選ばれたフォルダに変わります。

“メモリースティック” に撮った静止画を拡大する – メモリー再生ズーム

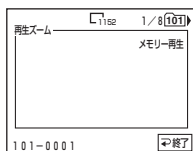
静止画を拡大して見ることができます。拡大した画像を“メモリースティック”に保存することもできます。

画像サイズは640×480になります。

タッチパネルで操作

❶ 再生ズームする画像を再生する。

❷「機能」を押し、「ページ2」を押す。

❸「再生ズーム」を押す。

再生ズーム画面が表示されます。

❹ 枠内の拡大したい部分を押す。

押した部分を中心に約2倍に拡大された画像が再生されます。

さらに枠内の別の場所を押すと、押した部分を画面の中心に移動できます。

❺ ズームレバーで倍率を変える。

ズームは 約1.1倍から5倍までの間で選べます。

W：倍率を低くする

T： 倍率を高くする

メモリー再生ズームを解除するには

「⮐終了」を押す。

再生ズーム中に

画面表示/バッテリーインフォボタンを押すと表示枠が消えます。この時押した部分を画面の中心に移動することはできません。

画像の周辺部分は

拡大することはできますが、画面の中心には移動しません。

MPEGムービー撮影した画像は

再生ズームはできません。

メモリー再生ズームした画像を“メモリースティック”に保存するには

フォトボタンを押すと表示中の画像を保存することができます。画像サイズは640×480になります。

画像を順番に自動再生する – スライドショー

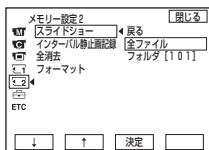
“メモリースティック”に記録されているすべての画像、あるいは1つのフォルダ内の画像のみをスライドショーで再生できます。

電源スイッチを（メモリー）に

タッチパネルで操作

❶ 「機能」を押し、ページ1画面を出す。

❷ 「メニュー」を押す。

❸ を選び、「決定」を押す。

❹ 「スライドショー」を選び、「決定」を押す。

❺ 「全ファイル」または「フォルダ[□□□*]」を選び、「決定」を押す。

全ファイル：“メモリースティック”内の画像をすべて再生します。

フォルダ[□□□]：「再生フォルダ」で選んだフォルダ内の画像を再生します。

* □□□にはフォルダ名が表示されます。

お好みの画像からスライドショーを始めるには

「–」/「+」で最初の画像を選んでおいてください。

❻ 「スタート」を押す。

“メモリースティック”の画像が順番に再生されます。

すべて再生すると、自動的に止まり、最初の画像に戻ります。

スライドショーを中止するには

「終了」を押す。

スライドショーを一時停止するには

「ポーズ」を押す。

機能画面に戻すには

「終了」を押して、ページ1画面に戻ってから「閉じる」を押す。

画像を保護する – プロテクト

大事な画像を誤って消さないために、撮影した画像を選んで誤消去防止（プロテクト）指定ができます。

電源スイッチを（メモリー）に

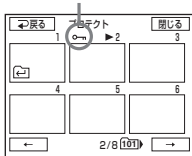
タッチパネルで操作

❶ 「インデックス」を押し、インデックスを表示する。

❷ 「プロテクト」を押す。

プロテクト画面になります。

❸ プロテクトしたい画像を押す。

プロテクトされた画像に「⊶」マークが表示されます。

機能画面に戻すには

「閉じる」を押す。

プロテクトを解除するには

手順❸でプロテクトを解除する画像をもう一度押す。

解除された画像からは「⊶」マークが消えます。

ご注意

画像にプロテクトがかかっていても“メモリースティック”をフォーマットすると“メモリースティック”の内容はすべて失われます。フォーマットする前に内容を確認してください。

“メモリースティック”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっていると

「⊶」マークを付けたり消したりできません。

画像を消す – 消去

撮影したすべての画像を消去したり、画像を選んで消去したりできます。

シングル画面表示のとき

電源スイッチを（メモリー）に

タッチパネルで操作

❶ 消去したい画像を再生する。

❷ 「機能」を押し、ページ1画面を出す。

❸ 「消去」を押す。

「消去しますか？」が表示されます。

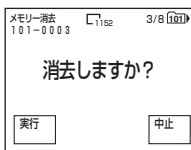
❹ 「実行」を押す。

画像が消去されます。

機能画面に戻すには

「閉じる」を押す。

画像の消去を中止するには

手順❹で「中止」を押す。

ご注意

- プロテクトされている画像を消去したいときは、あらかじめプロテクトを解除してください。
- 一度消去した画像は元に戻せません。消去する前に内容を確認してください。

“メモリースティック”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっていると

消去は実行できません。

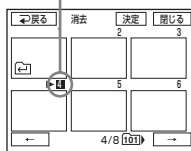
インデックス表示のとき

電源スイッチを（メモリー）に

タッチパネルで操作

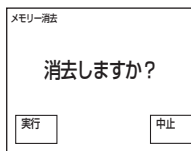
❶ 「インデックス」を押し、インデックスを表示する。

❷ 「消去」を押し、消去したい画像を押す。

消去する画像の番号が反転します。

画像は100件まで指定して、一括で消去することができます。

❸ 「決定」を押す。

「消去しますか？」が表示されます。

❹ 「実行」を押す。

画像が消去されます。

機能画面に戻すには

「閉じる」を押す。

画像の消去を中止するには

手順❹で「中止」を押す。

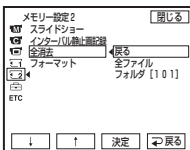
すべての画像を消去する

プロテクトのかかっていない画像ファイルをすべて消去します。

タッチパネルで操作

❶ 「機能」を押し、ページ1画面を出す。

❷ 「メニュー」を押す。

❸ 🄲2を選び、「決定」を押す。

❹ 「全消去」を選び、「決定」を押す。

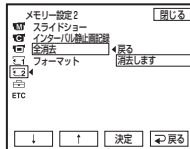
❺ 「全ファイル」または「フォルダ[□□□*]」を選び、「決定」を押す。

全ファイル：“メモリースティック”内の画像をすべて消去します。

フォルダ[□□□]：「再生フォルダ」で選んだフォルダ内の画像を消去します。

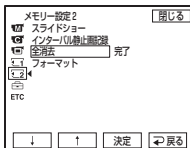
* □□□にはフォルダ名が表示されます。

❻ 「消去」を選び、「決定」を押す。

「消去」が「消去します」の表示に変わります。

❼ 「消去します」を選び、「決定」を押す。

「消去中」の表示が点滅します。

「消去中」と表示されているときは、電源スイッチを切り換えたり、ボタン操作を行わないでください。

プロテクトのかかっていないすべての画像が消去されると、「完了」と表示されます。

機能画面に戻すには

「閉じる」を押す。

全消去を中止するには

手順❼で「戻る」を選び、「決定」を押す。

全消去しても
フォルダは消去されません。

プリントマークを付ける – プリントマーク

あとでプリントするときに便利です。（プリントする枚数を指定することはできません。）

本機はプリントしたい画像を選択できるDPOF（Digital Print Order Format）規格に対応しています。

電源スイッチを メモリー に

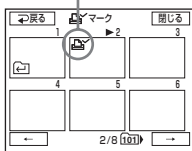
タッチパネルで操作

❶ 「インデックス」を押し、インデックスを表示する。

❷ 「マーク」を押す。

プリントマーク画面になります。

❸ プリントマークを付ける画像を押す。

「」マークが表示されます。

機能画面に戻すには

「閉じる」を押す。

プリントマークを解除するには

手順❸でプリントマークを解除する画像をもう一度押す。解除された画像からは「」マークが消えます。

“メモリースティック”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっていると

プリントマークを付けたり消したりできません。

動画には

プリントマークを付けることができません。

画像のサイズを変える – リサイズ

撮影した静止画の画像サイズを640×480または、320×240に変えられます。リサイズした後も元の画像はそのまま残ります。

電源スイッチを（メモリー）に

タッチパネルで操作

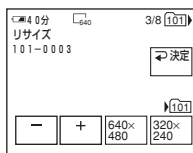
❶ サイズを変えたい画像を再生する。

❷ 「機能」を押し、「ページ2」を押す。

❸ 「リサイズ」を押す。

リサイズ画面になります。

画像を選び直すには

「−」/「＋」で選ぶ。

❹ 「640×480」または「320×240」を押す。

選択している記録フォルダに、一番新しいファイルとして記録されます。

機能画面に戻すには

「⮐終了」を押して「ページ2」に戻り、「閉じる」を押す。

ご注意

- MPEGムービー撮影で記録した画像はリサイズすることはできません。
- 他機で撮影した画像データは本機でリサイズできないことがあります。
- リサイズするときは、ファイン・スタンダードの選択はできません。

リサイズしたときのメモリー容量

画像サイズ	メモリー容量
640 × 480	約150KB
320 × 240	約16KB

画像をパソコンで見る

テープまたは“メモリースティック”の画像をパソコンでご覧になるには、接続方法が異なります。目的に合わせて下記の接続をしてください。

詳しくは、別冊の「パソコンに画像を取り込んで楽しもう!」をご覧ください。

※メモリースティックスロットを装備したパソコンでご覧になるときは、“メモリースティック”を本機から取り出して、パソコンのメモリースティックスロットに入れてご使用ください。

	本機の接続端子	**接続ケーブル**	**パソコンに必要な環境**
テープの画像	USB端子	USBケーブル（付属）	USB端子、編集ソフト
	DV端子	i.LINKケーブル（別売り）	DV端子、編集ソフト
“メモリースティック”の画像	USB端子	USBケーブル（付属）	USB端子、編集ソフト

USB端子でパソコンに接続する場合、本機とパソコンはUSBドライバのインストールが完了してから接続してください。先に接続すると、USBドライバが正しくインストールできません。

お持ちのパソコンの各端子、編集ソフトについては、パソコンメーカーにお問い合わせください。

本機に付属のImageMixer Ver.1.5 for Sonyを編集ソフトとしてお使いいただけます。

USB端子を搭載していないパソコンのとき

別売りのメモリースティック用フロッピーディスクアダプター、メモリースティック用PCカードアダプターをご使用ください。
アクセサリーご購入の際は、アクセサリーの推奨使用環境をカタログでご確認の上ご購入ください。

パソコンを使用するときのご注意

“メモリースティック”

- パソコンでフォーマットした“メモリースティック”を本機で使用した場合や、USB接続時に本機内の“メモリースティック”をパソコンからフォーマットした場合は本機での動作保証はいたしません。
- “メモリースティック”内のデータを圧縮しないでください。圧縮されたデータは本機で使用できなくなります。

ソフトウェア

- アプリケーションソフトによっては、静止画ファイルを開くとファイルサイズが大きくなる場合があります。
- レタッチソフトなどを使って加工した画像をパソコンから本機に取り込む場合、または本機の画像を直接加工した場合、画像形式が異なるためファイルエラー表示が出たりファイルを開くことができない場合があります。

パソコンとの通信

パソコンがサスペンド・レジューム機能、またはスリープ機能から復帰しても、通信状態が復帰できないことがあります。

ソニーパーソナルコンピューターVAIOシリーズをお使いの場合

MPEGデータを再生すると再生時間が極端に短くなることがあります。その際は下記のホームページで最新ドライバをダウンロードしてください。

http://www.vaio.sony.co.jp

［サポート］から入って、［ダウンロード］から適当なアップデートプログラムを選びダウンロードしてください。

アナログ機器とパソコンをつなげて使う
– デジタル変換機能

アナログ機器に録画した映像音声を本機を通じて、i.LINK端子を持つパソコンに接続して取り込めます。

メニューのETCで「画面表示」を「パネル」にしてください。（お買い上げ時は「パネル」に設定されています。）

❶ 「機能」を押し、ページ1画面を出す。

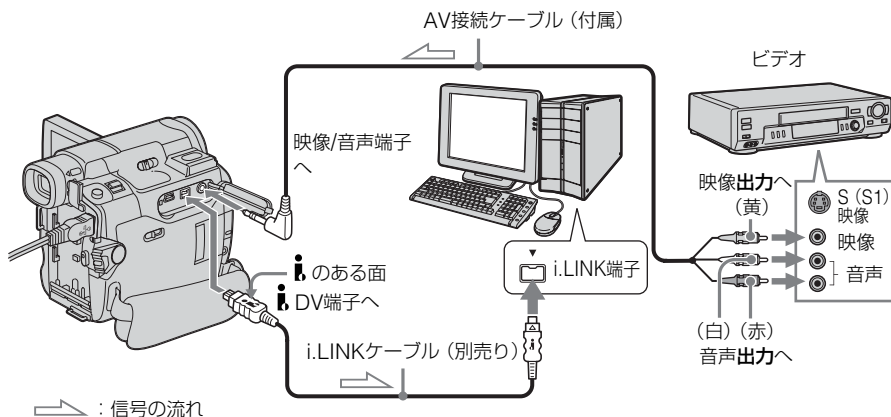
❷ 「メニュー」を押す。

❸ を選び、「決定」を押す。

❹ 「A/V入力→DV出力」を選び、「決定」を押す。

❺ 「入」を選び、「決定」を押す。

❻ アナログビデオ機器で再生を始める。

❼ パソコンで取り込みを始める。

取り込む操作は、お使いになるパソコンのソフトウェアによって異なります。詳しくは、お使いになるソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

取り込みが終わったら

パソコンで取り込み動作を停止し、アナログビデオ機器の再生を停止する。

ご注意

- ビデオ信号の取り込みができるソフトウェアがパソコン側にインストールされている必要があります。
- 本機に入力される映像信号の状態によっては、本機からのDV出力をパソコンに入力した場合、正しい映像を出力することができないことがあります。
- 著作権保護のための信号（ID-2方式など）が記録されているソフトを再生して本機に入力し、本機から出力された信号を録画したり、パソコンで取り込むことはできません。

S映像ケーブルについては
39ページをご覧ください。

USB端子があるパソコンでは
USBケーブルを使って接続することができますが、映像がなめらかに映らないことがあります。

メニューでお買い上げ時の設定を変える

画面上のメニュー項目を、「↓」/「↑」で選択し、本機のお買い上げ時の設定を一部変更することができます。次の順で選択します。
メニュー画面→アイコン（絵文字）→項目→設定内容

メニュー項目は以下のアイコン（絵文字）で区別されています。

- マニュアル設定
- カメラ設定
- ビデオ設定
- パネル/VF設定
- メモリー設定1
- メモリー設定2
- カセットメモリー設定
- テープ設定
- 初期設定
- ETC その他

タッチパネルで操作

❶ 「機能」を押し、ページ1画面を出す。

❷ 「メニュー」を押す。

「ビデオ」のとき

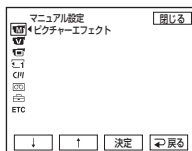
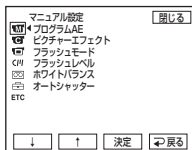
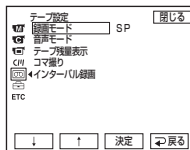
「カメラ」のとき

「メモリー」のとき

❸ 「↓」/「↑」を押して希望のアイコンを選び、「決定」を押す。

❹ 「↓」/「↑」を押して希望の項目を選び、「決定」を押す。

❺ 「↓」/「↑」を押して設定を変更して、「決定」を押す。

❻ 必要なだけ手順❸～❺を繰り返す。

手順❸に戻るには、「戻る」を押します。

詳しくは「メニューの各項目の説明」（126ページ）をご覧ください。

機能画面に戻すには

「閉じる」を押す。

設定を変える

メニューの各項目の説明

お買い上げ時は、下表の●印側に設定されています。

電源スイッチの位置によって、操作できる項目に違いがあります。本機の画面には、その時使える項目のみ表示されます。

(マニュアル設定)

項目	設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
プログラムAE	—	被写体や撮影状況により適した調整を自動的に行う（49ページ）。	カメラ メモリー
ピクチャーエフェクト	—	画像にテレビや映画のような特殊効果を加える（46、59ページ）。	カメラ ビデオ
フラッシュモード *1) *2)	●入	フラッシュ（別売り）が周囲の明るさにかかわらず発光する。	カメラ メモリー
	入 👁	フラッシュ（別売り）が周囲の明るさにかかわらず発光し、発光時は撮影前に予備発光して目が赤く映ることを抑制する。	
	オート	フラッシュ（別売り）が自動的に発光する。	
	オート 👁	フラッシュ（別売り）が自動的に発光し、発光時は撮影前に予備発光して目が赤く映ることを抑制する。	
フラッシュレベル*1)	明るい	フラッシュ（別売り）の発光量を通常より多くする。	カメラ メモリー
	●ノーマル	通常の設定。	
	暗い	フラッシュ（別売り）の発光量を通常より少なくする。	
ホワイトバランス	—	ホワイトバランスを調整する（42ページ）。	カメラ メモリー
オートシャッター	●入	明るいとき、自動的に電子シャッターが働く。	カメラ
	切	明るいときでも、電子シャッターは働かない。	

*1) 別売りの外部フラッシュを取り付けたときのみ使えます。外部フラッシュが対応していない場合は、設定できません。
*2) 赤目軽減機能に対応していない外部フラッシュをお使いの場合、「入」、「オート」のみが設定できます。

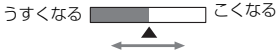
電子シャッターとは
電気的にシャッタースピードを調整する機能です。

（カメラ設定）

項目	設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
デジタルズーム	●切	デジタルズームが働かない。 10倍までのズームが働く。	カメラ
	20×	ズームが10倍を超えると20倍までデジタルズームが働く（27ページ）。	
	120×	ズームが10倍を超えると120倍までデジタルズームが働く。	
ワイドTV	●切	ワイドTVモードにしない。	カメラ
	入	ワイドTVモードにする（43ページ）。	
手ぶれ補正	●入	手ぶれ補正が働く。	カメラ
	切	手ぶれ補正が働かない。三脚を使用するときに自然な画像になる。	
エディットサーチ	●切	液晶画面に「⊂/－」/「＋」を表示しない。	カメラ
	入	液晶画面に「⊂/－」/「＋」を表示する（32ページ）。	
N.S.ライト	●入	NIGHTSHOTライトを使用する（30ページ）。	カメラ メモリー
	切	NIGHTSHOTライトを使用しない。	

手ぶれ補正は

- 手ぶれ補正が「入」になっていても、手ぶれが大きすぎると、補正しきれないことがあります。
- コンバージョンレンズ（別売り）を取り付けると、手ぶれ補正が効きにくくなります。

手ぶれ補正を解除すると

本機を左右に動かしたときにその動きを補正しようとするなど、不必要な補正を防ぎます。このとき画面に手ぶれ補正「切」表示“”が出ます。

設定を変える

メニューでお買い上げ時の設定を変える（つづき）

(ビデオ設定)

項目	設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
バイリンガル	●切	ステレオ音声または主＋副音声で再生する（148ページ）。	ビデオ
	メイン	左音声または主音声で再生する。	
	サブ	右音声または副音声で再生する。	
音声ミックス	—	音声モードST1↔ST2間のバランスを調整する（83ページ）。 ST1 ▲ ST2	ビデオ
A/V入力→DV出力	●切	本機を通してデジタルの画像音声をアナログ出力する。	ビデオ
	入	本機を通してアナログの画像音声をデジタル出力する（124ページ）。	

(パネル/VF設定)

項目	設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
パネルバックライト	●明るさノーマル	液晶画面のバックライトを標準の明るさにする。	ビデオ カメラ メモリー
	明るい	液晶画面のバックライトをより明るくする。	
パネル色のこさ	—	液晶画面の色のこさを「↓」/「↑」で調整する。 うすくなる こくなる	ビデオ カメラ メモリー
VFバックライト	●明るさノーマル	ファインダーのバックライトを標準の明るさにする。	ビデオ カメラ メモリー
	明るい	ファインダーのバックライトをより明るくする。	

「パネルバックライト」、「VFバックライト」は
- 「明るい」を選ぶと撮影時のバッテリー使用時間が約1割短くなります。
- バッテリー以外の電源で使うときは自動的に「明るい」になります。

「パネルバックライト」、「パネル色のこさ」、「VFバックライト」は

調整しても記録される画像に変化はありません。

(メモリー設定1)

項目	設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
静止画設定			
連写	●切	連写しない。	メモリー
	ノーマル	4枚または13枚までの画像を連写する（97ページ）。	
	ブラケット	露出を変えて3枚の画像を連写する。	
画質	●ファイン	高画質で静止画を記録する（93ページ）。	ビデオ
	スタンダード	標準の画質で静止画を記録する。	メモリー
画像サイズ	●1152×864	静止画を1152×864サイズで記録する（93ページ）。	メモリー
	640×480	静止画を640×480サイズで記録する。	
ムービー設定			
画像サイズ	●320×240	動画を320×240サイズで記録する（94ページ）。	ビデオ
	160×112	動画を160×112サイズで記録する。	メモリー
メモリー残量表示	●オート	以下の時にメモリー残量を表示する。 • “メモリースティック”が入った状態で、電源スイッチを「ビデオ」または「メモリー」にしてから5秒間。 • 電源スイッチを「ビデオ」または「メモリー」にして、“メモリースティック”を入れてから、5秒間。 • 電源スイッチを「メモリー」にして、メモリー残量が2分未満になったとき。 • 動画記録を開始してから5秒間。 • 動画記録が終了してから5秒間。	ビデオ メモリー
	入	メモリー残量を常に表示する。	
フォルダ作成	作成する	新しいフォルダを作成する（109ページ）。	メモリー
	●戻る	フォルダ作成を中止する。	
記録フォルダ選択	—	画像を記録するフォルダを選ぶ（109ページ）。	メモリー
ファイルナンバー	●連番	“メモリースティック”を取り換えてもファイル番号を連続して付ける。ただし、フォルダを新しく作成したとき、記録先フォルダを変更した場合は、リセットされる。	ビデオ メモリー
	リセット	“メモリースティック”ごとにファイル番号を0001から付ける。	

画質を選ぶと

画質に合った記録可能枚数が表示されます。

（メモリー設定2）

項目	設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
スライドショー	戻る	スライドショーをキャンセルする。	メモリー
	●全ファイル	“メモリースティック”に記録されているすべての画像のスライドショーを実行する。	
	フォルダ [□□□*]	選択している再生フォルダ内の画像のスライドショーを実行する。	
インターバル静止画記録	入	インターバル静止画記録機能が働く。	メモリー
	●切	インターバル静止画記録機能が働かない	
	設定	インターバル静止画記録機能の「ウェイトタイム」の設定をする。	
全消去	●戻る	全消去をキャンセルする。	メモリー
	全ファイル	“メモリースティック”に記録されているすべての画像を消去する。	
	フォルダ [□□□*]	選択している再生フォルダ内の画像をすべて消去する。	
フォーマット	●戻る	フォーマットを中止する。	メモリー
	フォーマット	本機に入れた“メモリースティック”をフォーマット（初期化）する。フォーマットすると“メモリースティック”の記録内容は消去されます。フォーマットする前に“メモリースティック”の内容を確認してください。 1「↓」/「↑」で「フォーマット」の項目を選び、「決定」を押す。 2「↓」/「↑」で「フォーマット」を選び、「決定」を押す。 3 画面に「フォーマットします」と表示されたら、「決定」を押す。「フォーマット中」の表示が点滅する。「完了」と表示されると終了。	

* □□□にはフォルダ名が表示されます。

フォーマットについて
- 「フォーマット中」と表示されている間に以下の操作をしないでください。
  －電源スイッチを切り換える
  －ボタン操作
  －“メモリースティック”を取り出す
- 付属または別売りの“メモリースティック”はお買い上げ時にフォーマット済みです。あらためてフォーマットする必要はありません。
- “メモリースティック”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっていると、フォーマットできません。
- 「メモリースティックフォーマットエラー」と表示された時は、フォーマットしてください。
- 付属の“メモリースティック”にあらかじめ記録してあるサンプル画像は消去されます。
- 画像にプロテクトをかけていても消去されます。
- 作成したフォルダも消去されます。

CM（カセットメモリー設定）

項目	設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
タイトル	—	タイトルを入れたり、オリジナルタイトルを作る（84、86ページ）。	ビデオ カメラ
タイトル消去	—	タイトルを消去する（85ページ）。	ビデオ カメラ
タイトル表示	●入	タイトルを入れてあるところでタイトルを表示する。	ビデオ
	切	タイトルを表示しない（85ページ）。	
Cメモリーサーチ	●入	サーチ時にカセットメモリーを使用する（64ページ）。	ビデオ
	切	サーチ時にカセットメモリーを使用しない（64ページ）。	
カセットラベル作成	—	カセットに名前を付ける（88ページ）。	ビデオ カメラ
全消去	●戻る	全消去を中止する。	ビデオ カメラ
	消去	カセットメモリーのデータをすべて消去する（89ページ）。	

（テープ設定）

項目	設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
録画モード	●SP	SP（標準）モードで録画する。	ビデオ カメラ
	LP	SPモードの1.5倍の録画時間で録画する。長時間録画できる。	
音声モード	●12BIT	12ビット（2つのステレオ音声）の記録ができる。	ビデオ カメラ
	16BIT	16ビット（高音質で1つのステレオ音声）の記録ができる。	
テープ残量表示	●オート	以下のときにテープ残量を表示する。 • テープが入った状態で電源スイッチを「ビデオ」または「カメラ」にしてから8秒間。 • 電源スイッチを「ビデオ」または「カメラ」にしてテープを入れたあと、テープ残量が確定してから8秒間。 • 画面表示/バッテリーインフォボタンを2回押してから8秒間。 • ►II（再生ボタン）を押してから8秒間。	ビデオ カメラ
	入	テープ残量を常に表示する。	
コマ撮り	●切	コマ撮り機能が働かない。	カメラ
	入	コマ撮り機能が働く（56ページ）。	
インターバル録画	入	インターバル録画機能が働く（54ページ）。	カメラ
	●切	インターバル録画機能が働かない。	
	設定	インターバル録画機能の「ウェイトタイム」と「録画タイム」を設定する。	

LPモードについて

- 本機のLPモードで記録したテープは本機で再生することをおすすめします。本機で記録したテープを他機で再生したり、他機で記録したテープを本機で再生すると、モザイク状のノイズが現れることがあります。
- LPモードで記録するときは、本機の性能を最大限に生かすためにソニー製のMaster（マスター）DVテープをおすすめします。
- アフレコしたいときはSPモードで録画してください。LPモードで録画したテープにはアフレコできません。
- テープの途中で、SP/LPモードを切り換えたり、LPつなぎ撮りをしたりすると、再生画像が乱れたり、タイムコードが正しくつながらないことがあります。

音声モードを「16BIT」にすると
アフレコできません。

音声モードが16ビットで記録されたテープでは
音声ミックスのバランス調整をすることができません。

（初期設定）

項目	設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
日時あわせ	—	日付・時刻を合わせる。（16ページ）	カメラ メモリー
USBストリーム	●切	USBストリーミング機能を使用しない。	ビデオ
	入	USBストリーミング機能を使用する。	カメラ
デモモード	●入	本機の機能を一覧できる。	カメラ
	切	デモンストレーションを表示しない。	

デモモードについて

- カセットまたは“メモリースティック”が入った状態では操作できません。
- NIGHTSHOTスイッチを「入」にしていると、“NIGHTSHOT”が表示され、デモンストレーションは始まりません。また、メニューでも「デモモード」が選べません。
- デモンストレーション中にタッチパネルを押すと、デモンストレーションが中断され、スタンバイ状態になります。10分後に再びデモンストレーションが始まります。
- お買い上げ時は「スタンバイ」という設定になっています。これは10分後にデモンストレーションが始まる設定です。
  カセットまたは“メモリースティック”を入れるか、電源スイッチを「カメラ」以外にするか、メニューで「切」にすれば解除されます。再び「スタンバイ」にするにはメニューで「入」にしたまま電源スイッチをいったん「切（充電）」にし、「カメラ」に戻します。

メニューでお買い上げ時の設定を変える（つづき）

ETC（その他）

項目	設定	設定の意味（参照ページ）	電源スイッチの位置
データコード（リモコン操作時）	●日付/カメラデータ	リモコンのデータコードボタンを押したとき、日付・時刻またはカメラデータを表示する（37ページ）。	ビデオ メモリー
	日付データ	リモコンのデータコードボタンを押したとき、日付・時刻を表示する。	
時差補正	—	時差の設定をする。「↓」/「↑」を押して時差を設定すると、時刻も時差に合わせて変わる。時差を0に設定すると、補正前の時間に戻る。	カメラ メモリー
おしらせブザー	●メロディー	撮影スタート/ストップ時や、誤った操作をしたときにメロディーが鳴る。	ビデオ カメラ メモリー
	ノーマル	メロディーのかわりにブザーが鳴る。	
	切	メロディー、ブザー、シャッター音が鳴らない。	
リモコン	●入	付属のワイヤレスリモコンが働く。	ビデオ カメラ メモリー
	切	リモコンが働かない。他機のリモコンによる誤動作を防ぐ。	
画面表示	●パネル	タイムコードなどの画面表示を液晶画面とファインダーに出す。	ビデオ カメラ メモリー
	ビデオ出力/パネル	テレビ画面にも画面表示を出す。	
録画ランプ	●入	本体前面の録画ランプが撮影中に点灯する。	カメラ メモリー
	切	本体前面の録画ランプが撮影中に点灯しなくなる。被写体に撮影していることを意識させずに撮影できる。	
プログラムエディット	●戻る	プログラムエディットを中止する。	ビデオ
	他機のテープへ	プログラムを作成し、他機のテープへダビングする（68ページ）。	
	メモリースティックへ	プログラムを作成し、“メモリースティック”へダビングする（107ページ）。	

ご注意

「画面表示」が「ビデオ出力/パネル」のとき画面表示/バッテリーインフォボタンを押すと、外部入力ができなくなります。

被写体に接近して撮るとき

「録画ランプ」が「入」になっていると録画ランプの赤色が被写体に反射して映ることがあります。その場合は、「録画ランプ」を「切」にすることをおすすめします。

電源をはずして5分以上たつと

「プログラムAE」、「フラッシュレベル」、「ホワイトバランス」、「バイリンガル」、「音声ミックス」、「リモコン」はお買い上げ時の設定に戻ります。
その他のメニュー項目は電源をはずしても設定を保持します。

故障かな？と思ったら

修理にお出しになる前に、もう一度点検してみましょう。それでも正常に動作しないときは、テクニカルインフォメーションセンター（裏表紙）にお問い合わせください。

液晶画面やファインダーに「C:□□:□□」のような表示が出たときは、自己診断表示機能が働いています。143ページをご覧ください。

撮影中

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
スタート/ストップボタンを押してもテープが走行しない。	• 電源スイッチが「カメラ」になっていない。	➔「カメラ」にする。	22
	• 撮影スタンバイ状態が5分以上続いたとき、バッテリーの消耗を防ぎ、テープを保護するために自動的に電源が切れます。	➔ 電源スイッチを「切（充電）」にしてから、もう一度「カメラ」にする。	—
	• テープが終わりになっている。	➔ 巻き戻すか、新しいカセットを入れる。	8、35
	• カセットが誤消去防止状態になっている。	➔ 誤消去防止ツマミを元に戻す。または新しいカセットを入れる。	148
	• テープがヘッドドラムに貼り付いている (結露)。	➔ カセットを取り出して、約1時間してからもう一度入れなおす。	153
電源が途中で切れる。	• 撮影スタンバイ状態が5分以上続いたとき、バッテリーの消耗を防ぎ、テープを保護するために自動的に電源が切れます。	➔ 電源スイッチを「切（充電）」にしてから、もう一度「カメラ」にする。	—
	• バッテリーが消耗している。	➔ 満充電されたバッテリーを取り付ける。	—
ファインダーの画像がはっきりしない。	• ファインダーを縮めたままにしている。	➔ ファインダーをのばす。	26
	• 視度調整が正しくない。	➔ 視度調整をする。	26
手ぶれ補正が働かない。	メニューの[C]で「手ぶれ補正」が「切」になっている。	➔「入」にする。	127
オートフォーカスが働かない。	• 手動ピント合わせになっている。	➔「フォーカス」で「オート」を選ぶ。	52
	• オートフォーカスが働きにくい状態で撮影している。	➔ 手動でピントを合わせて撮影する。	52

次のページへつづく

撮影中

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
ファインダーの画像が消えている。	液晶画面が開いている。	→ 液晶画面を使って撮影しないときは液晶画面を閉じる。	―
ろうそくの火やライトなどを暗い背景の中で撮ると、縦に帯状の線が出る。	背景とのコントラストが強い被写体の場合に出る現象で、故障ではありません。	―	―
明るい被写体を映すと、縦に尾を引いたような画像になる。	スミア現象といい、故障ではありません。	―	―
画面に白や赤、青、緑の点が出ることがある。	スローシャッターやSUPER NIGHTSHOT、COLOR SLOW SHUTTERのときに出る現象で、故障ではありません。	―	―
画面が明るくなったりする現象（フリッカー）が起こったり、色が変化する。	蛍光灯、ナトリウム灯、水銀灯など放電管による照明下で、ソフトポートレートやスポーツレッスンモードで撮影した。	→ プログラムAEを解除する。	49
液晶画面またはファインダーに見慣れぬ画面が現れる。	カセットまたは“メモリースティック”を入れずに電源スイッチを「カメラ」にして10分たつと、自動的にデモンストレーションが始まります。	→ カセットまたは“メモリースティック”を入れるか液晶画面のどこかを押すとデモンストレーションが中断される。デモンストレーションが出ないようにすることもできます。	133
画像の色が正しくない。	NIGHTSHOTが「入」になっている。	→ 「切」にする。	29
画面が白すぎて画像が見えない。	•明るいところでNIGHTSHOTを「入」にしている。 •逆光補正が働いている。	→ 「切」にする。 → 解除する。	29 28
シャッター音が出ない。	メニューのETCで「おしらせブザー」が「切」になっている。	→ 「おしらせブザー」を「メロディー」または「ノーマル」にする。	134
テレビやコンピューターの画面を撮影すると黒い帯が出る。	―	→ メニューのCで「手ぶれ補正」を「切」にする。	127
別売りのフラッシュが発光しない。	•電源が入っていない。または、取り付けられていない。 •別売りのフラッシュを2つ以上取り付けている。	→ 電源を入れる。または、取り付ける。 → 別売りのフラッシュは1つしか取り付けられません。	― ―

再生中

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
再生できない。	テープが終わりになっている。	➔ テープを巻き戻す。	35
画像に横線が入る。またはぼけたり映らなかったりする。	ビデオヘッドが汚れている。	➔ 別売りのクリーニングカセットできれいにする。	153
音声が小さい。または聞こえない。	• メニューので「バイリンガル」を「サブ」にしてステレオで記録されたテープを再生している。	➔ 「バイリンガル」を「切」にする。	128
	• 音量を最小にしている。	➔ 音量を大きくする。	34
	• メニューので「音声ミックス」が「ST2」側になっている。	➔ 「音声ミックス」を調整する。	128
音声が途切れる。	ビデオヘッドが汚れている。	➔ 別売りのクリーニングカセットできれいにする。	153
撮影日を画面に出して日付サーチできない。	• カセットメモリーの付いていないカセットを使っている。	➔ カセットメモリー付きカセットを使う。	64
	• メニューので「Cメモリーサーチ」が「切」になっている。	➔ 「入」にする。	131
	• テープの始めや途中に無記録部分がある。	ー	65
タイトルサーチできない。	• カセットメモリーの付いていないカセットを使っている。	➔ カセットメモリー付きカセットを使う。	63
	• メニューので「Cメモリーサーチ」が「切」になっている。	➔ 「入」にする。	131
	• タイトルが入っていない。	➔ タイトルを入れる。	84
	• テープの始めや途中に無記録部分がある。	ー	63
アフレコした音声が聞こえない。	メニューので「音声ミックス」が「ST1」側になっている。	➔ 「音声ミックス」を調整する。	128
タイトルが表示されない。	メニューので「タイトル表示」が「切」になっている。	➔ 「入」にする。	131
ノイズが現れ、画面に「PAL」と表示される。	テープに記録されているテレビカラーシステムが本機のカラーシステムと違う。	ー	ー

次のページへつづく

撮影中・再生中

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
電源スイッチを「ビデオ」、「カメラ」または「メモリー」にしても動作しない。	● バッテリーが消耗している、消耗が近い、または取り付けられていない。 ● ACアダプターのプラグがコンセントからはずれている。	→ 充電されたバッテリーを取り付ける。 → コンセントに差し込む。	12、13 13
エンドサーチが働かない。	● カセットメモリーの付いていないカセットで、撮影後にカセットを取り出した。 ● カセットを入れてからエンドサーチ操作をするまでに、一度も撮影していない。	— —	32 32
エンドサーチが誤動作する。	テープの始めや途中に無記録部分がある。	—	32
バッテリーの消耗が早い。	● 周囲の温度が極端に低い。 ● 充電が不充分。 ● バッテリーそのものの寿命。	— → 満充電する。 → 新しいバッテリーに交換する。	— 13 150
バッテリー残量が正しくない。	● 温度が極端に高いまたは低いところで長時間使用している。 ● バッテリーそのものの寿命。 ● バッテリーが消耗している。 ● 残量表示にズレが生じた。	— → 新しいバッテリーに交換する。 → 満充電されたバッテリーを取り付ける。 → 満充電すると残量が正しく表示される。	— 150 13、15 15
バッテリー残量が充分あるのに電源がすぐ切れる。	残量表示にズレが生じた。	→ 満充電すると残量が正しく表示される。	15
カセットが取り出せない。	● 電源（バッテリーやACアダプター）がはずれている。 ● バッテリーが消耗している。	→ 電源をきちんと接続する。 → 満充電されたバッテリーを取り付ける。	12、13 13、15
[結露マーク]や⏏が点滅し、カセット取出しつまみ以外働かない。	結露している。	→ カセットを取り出して、約1時間してからもう一度入れ直す。	153
カセットメモリー付きのカセットを使用しているのにカセットメモリー表示が出ない。	カセットの金メッキ端子が汚れている。または、ゴミが付着している。	→ 金メッキ端子をクリーニングする。	148
テープ残量表示が出ない。	メニューの[テープアイコン]で「テープ残量表示」が「オート」になっている。	→ 常にテープ残量を表示したいときは「テープ残量表示」を「入」にする。	132

“メモリースティック” 操作中

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
操作を受け付けない。	●電源スイッチが「メモリー」になっていない。 ● “メモリースティック”が入っていない。	➔「メモリー」にする。 ➔ “メモリースティック”を入れる。	11 10
撮影ができない。	● すでにメモリー容量いっぱいに撮影している。 ● フォーマット形式の異なる“メモリースティック”を入れた。 ● “メモリースティック”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。 ● 本機では「100MSDCF」フォルダに画像を記録できません。再生のみ可能です。	➔ 不要な画像を消去してから撮影する。 ➔ 本機でフォーマットするか、別の“メモリースティック”を入れる。 ➔「LOCK」を解除する。 —	118 91、130 90
画像を消去できない。	● プロテクトされている。 ● “メモリースティック”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。 ● 一度に100枚より多くの画像を消去しようとした。	➔ プロテクトを解除する。 ➔「LOCK」を解除する。 ➔ インデックス表示では消去したい画像を100枚まで選択することができます。	117 90 —
フォーマットが実行できない。	“メモリースティック”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	➔「LOCK」を解除する。	90
全消去が実行できない。	“メモリースティック”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	➔「LOCK」を解除する。	90
プロテクトが実行できない。	● “メモリースティック”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。 ● インデックス表示になっていない。	➔「LOCK」を解除する。 ➔インデックス表示にしてプロテクトを実行する。	90 117
プリントマークが実行できない。	● “メモリースティック”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。 ● インデックス表示になっていない。 ● 動画にプリントマークを付けようとしている。 ● 999個の画像にプリントマークが付いている。● 他機で撮影した画像は再生できない場合があります。	➔「LOCK」を解除する。 ➔ インデックス表示にしてプリントマークを付ける。 ➔ 動画にプリントマークを付けることはできません。 ➔ プリントマークは999個までしかつけられません。—	90 120 — ——

その他

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
正しい画像サイズで再生できない。	他機で撮影した画像を再生しようとすると画像サイズが正しく表示されないことがありますが、故障ではありません。	—	—
画像データが再生できない。	• パソコンでフォルダ、ファイルなどの名前を変更したり、画像を加工したものは、再生できない場合があります。 • 他機で撮影した画像は再生できない場合があります。	— —	— —
タイトルを入れられない。	• カセットメモリーの付いていないカセットを使っている。 • カセットのメモリー容量がいっぱいになっている。 • カセットが誤消去防止状態になっている。 • 無記録部分にタイトルを入れようとしている。	→ カセットメモリー付きカセットを使う。 → 不要なタイトルを消去する。 → 誤消去防止ツマミを元に戻す。 → 録画された部分にタイトルを入れる。	84 85 148 85
カセットにラベルを付けられない。	• カセットメモリーの付いていないカセットを使っている。 • カセットのメモリー容量がいっぱいになっている。 • カセットが誤消去防止状態になっている。	→ カセットメモリー付きカセットを使う。 → 不要なデータを消去する。 → 誤消去防止ツマミを元に戻す。	88 89 148
他機のテープへのデジタルプログラムエディットが働かない。	• 録画機側の入力切換ができていない。 • ソニー以外のDV機器とi.LINKケーブルを使用して接続している。 • 無記録部分にプログラム設定しようとしている。 • 本機と録画機のタイミングが合わない。 • リモコンコードが違う。	→ 接続を確認して録画機側の入力切換スイッチを設定し直す。 → 操作を「リモコン」にする。 → 録画された部分に設定し直す。 → タイミング補正をする。 → 正しいリモコンコードを設定する。	67 69 74 72 71
“メモリースティック”へのデジタルプログラムエディットが働かない。	無記録部分にプログラムを設定しようとしている。	→ 録画された部分に設定し直す。	74

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
付属のワイヤレスリモコンが働かない。	● メニューのETCの「リモコン」が「切」になっている。	➔「入」にする。	134
	● リモコンと本体のリモコン受光部の間に障害物がある。	➔ 障害物を取り除く。	—
	● レンズキャップがリモコン受光部をふさいでいる。	➔ ふさがない位置にずらす。	21
	● リモコンの乾電池の⊕極と⊖極が、正しく入っていない。	➔ ⊕極と⊖極を正しく入れる。	161
	● 乾電池そのものの寿命。	➔ 新しい乾電池に交換する。	161
外部入力しているのに液晶画面やファインダーに画像が映らない。	メニューのETCで「画面表示」が「ビデオ出力/パネル」になっている。	➔「パネル」にする。	134

その他

こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
おしらせブザーが5秒間鳴りつづける。	● 結露している。	➔ カセットを取り出して、約1時間してからもう一度入れ直す。	153
	● 本機に異常が発生している。	➔ カセットを入れなおし、再度操作し直す。	—
電源が入っているのに操作できない。	—	➔ バッテリーまたはACアダプターの電源コードを取りはずし、約1分後再びバッテリーまたはACアダプターの電源コードを取り付け、電源を入れる。それでも操作できないときは、RESET（リセット）ボタンを先の尖ったもので押す。（この操作をすると日時を含めすべての設定が解除されます。）	12、13、159
電源スイッチを「ビデオ」または「切（充電）」にして本機を動かすと、本体内部で「カタカタ」という音がする。	本機の機能の一部にリニア機構を採用しているためです。故障ではありません。	—	—
バッテリーを充電中、CHG（充電）ランプが点灯していない。	● 充電が完了している。	—	—
	●バッテリーが正しく取り付けられていない。	➔ 正しく取り付ける。	12

次のページへつづく

その他

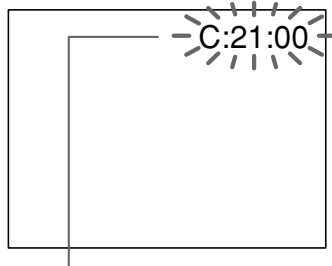
こんなときは	これが原因です	次のことを点検してください	参照ページ
バッテリーを充電できない。	本機の電源スイッチが「切(充電)」になっていない。	→ 「切(充電)」にする。	13
バッテリーを充電中にCHG(充電)ランプが点滅する。	• バッテリーが正しく取り付けられていない。 •バッテリーが故障している。	→ 正しく取り付ける。 → 症状が消えないときは、すぐにコンセントからプラグを抜き、テクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせください。	12 ー
タッチパネルのボタンが表示されない。	画面表示/バッテリーインフォボタンを押した。	→ 液晶画面を軽く押す。 → 本機の画面表示/バッテリーインフォボタンまたはリモコンの画面表示ボタンを押す。	ー 18
タッチパネルのボタンが働かない。	—	→ 画面を調整(キャリブレーション)する。	155
カセットぶたを開けてもテープが出てこない。	本機が結露しかけている。	ー	153
カセットが取り出せない。	—	→ バッテリーをはずして、もう一度取り付ける。	12

自己診断表示 – アルファベットで始まる表示が出たら

本機には自己診断機能がついています。

これは本機が正しく動作していないときに、液晶画面またはファインダーにアルファベットと数字の5桁の表示でお知らせする機能です。表示によって、本機の状態がわかるようになっています。

詳しくは以下の表をご覧になり、各表示に合った対応をしてください。表示の末尾2桁（□□）の数字は、本機の状態によって変わります。

液晶画面またはファインダー

自己診断表示

「C:□□:□□」：
お客様自身で正常に戻せる状態

「E:□□:□□」：
テクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせいただく状態

表示	原因	対応のしかた	参照ページ
C:04:□□	“インフォリチウム”以外のバッテリーを使用している。	→ “インフォリチウム”バッテリーをご使用ください。	13、149
C:21:□□	結露している。	→ カセットを取り出して、約1時間してからもう一度入れ直してください。	153
C:22:□□	ビデオヘッドが汚れている。	→ 別売りのクリーニングカセットできれいにしてください。	153
C:31:□□ C:32:□□	お客様自身で対応できる上記以外の状態になっている。	→ カセットを入れなおし、再度操作し直してください。（本機が結露気味のときは、この操作を行わないでください（153ページ）。） → 電源をいったん取りはずし、取りつけなおしてから再度操作し直してください。 → テープを交換してください。	— — — —
E:20:□□ E:61:□□ E:62:□□	お客様自身で対応できない状態になっている。	→ 修理が必要と思われます。テクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせください。その際は、表示の5桁すべてをお知らせください。 例：E:61:10	

お客様自身で対応できる場合でも、2、3度繰り返しても正常に戻らないときは、テクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせください。

警告表示

液晶画面またはファインダーには、次のような表示が出ます。

詳しい説明は、（　）内のページをご覧ください。

１０１－０００１ ファイル関連の警告

遅い点滅
- ファイルが壊れている
- 扱えないファイル
- 動画ファイルをメモリーミックスしようとした（100ページ）

Ｃ：２１：００ 自己診断表示（143ページ）

バッテリー残量に関する警告

遅い点滅
- バッテリー残量が少ない
  使用状況や環境、バッテリーパックによっては、バッテリー残量が約5分から10分でも警告表示が点滅することがあります。

結露の警告*

速い点滅
- テープが結露している
  カセットを取り出し、電源をはずしてカセット入れを開けたまま約1時間放置します（153ページ）。

“メモリースティック”関連の警告

遅い点滅
- “メモリースティック”が入っていない

“メモリースティック”フォーマット関連の警告*

速い点滅
- “メモリースティック”が壊れている（90ページ）
- “メモリースティック”が正しくフォーマットされていない（130ページ）

非対応“メモリースティック”関連の警告*

遅い点滅
- 非対応の“メモリースティック”を入れた

テープ関連の警告

遅い点滅
- テープ残量が5分を切った
- カセットが入っていない*
- カセットが誤消去防止状態になっている*（148ページ）

速い点滅
- テープが終わっている*

テープを取り出す必要がある警告*

遅い点滅
- カセットが誤消去防止状態になっている（148ページ）

速い点滅
- 結露している（153ページ）
- テープが終わっている
- 自己診断表示が出ている（143ページ）

画像プロテクトの警告*

遅い点滅
- 画像が消去できないようになっている（117ページ）

フラッシュ（別売り）関連の警告

遅い点滅
- 充電中*

速い点滅
- 別売りのフラッシュに異常がある

静止画記録関連の警告

遅い点滅
- “メモリースティック”に静止画を記録できない状態になっている

* 警告表示／お知らせメッセージが出るときに、「おしらせブザー」が鳴ります。

こんなメッセージが出たら

警告表示とともに、以下のお知らせメッセージが出ます。
メッセージにしたがって操作してください。

メッセージ	原因・対策	参照ページ
“インフォリチウム” バッテリーを つかってください	—	13、149
音声モードが　ちがいます 確認してください*	16ビットで記録されたテープにはアフレコできない。	132
カセットの　誤消去防止ツマミを 確認してください*	—	148
カセットメモリーが　いっぱいです*	不要なタイトルを消す。	85
カセットメモリー付き　カセットに 入れかえてください*	タイトル・カセットラベルは、カセットメモリー付きのカセットでないと入れられない。	84、88
カセットを　入れてください*	—	8
結露しています カセットを　取りだしてください* （テープが入っていないとき、メッセージは「結露しています」になります。）	—	8
このバッテリーは　古くなりました 取りかえてください	バッテリーが古くなったので、新しいものと交換する。	150
充電中です*	別売りのフラッシュを充電中は操作できない。	—
全消去中です*	全消去には多少時間がかかる。	—
ダビングプロテクト　されています 録画できません*	—	147
テープが　終わっています*	—	—
テープを　確認してください*	テープが誤消去防止になっているため、アフレコできない。	148
バッテリーを　取りかえてください	充電したものと交換します。	13
非対応の　メモリースティックです	本機では使えない“メモリースティック”が入っている。	—
ファイルが　ありません*	“メモリースティック”になにも記録されていない、または認識できる画像がない。	—
フォーマット中です*	—	130
ヘッドが汚れています/ クリーニングカセットを つかってください	—	153

* 警告表示／お知らせメッセージが出るときに、「おしらせブザー」が鳴ります。

こんなメッセージが出たら（つづき）

メッセージ	原因•対策	参照ページ
メニューで　日付　時刻を あわせてください	ー	16
メモリースティック　エラー*	ー	92
メモリースティック　音声エラー*	ー	106
メモリースティック　記録エラー*	電源を入れ直す。	ー
メモリースティック　再生エラー*	本機では再生できない形式で記録されている。“メモリースティック”を入れ直して再生する。	91
メモリースティックの　誤消去防止ツマミを 確認してください*	ー	108
メモリースティックの　フォルダが いっぱいです	作成できるフォルダ数が最大数に達した。	109
メモリースティックの　メモリーが いっぱいです*	ー	108
メモリースティック　フォーマットエラー*	フォーマットの形式が違うなど、本機で認識できない“メモリースティック”を使用している。	126
メモリースティックを　入れてください*	ー	108
メモリースティックを　確認してください*	アクセスランプ点滅中に“メモリースティック”を取り出した。	ー
読み出し専用の　メモリースティックです	ー	ー
録画モードが　ちがいます 確認してください*	• LPで記録されたテープにはアフレコできない。 • 本機と違うTVカラーシステムで記録されたテープにはアフレコできない。	ー
“i.LINK”　ケーブルを　ぬいてください*	i.LINKケーブルが接続されているとアフレコできない。	151
USB　ストリーミング中です	USBストリーミング中はメモリーミックス、“メモリースティック”への記録、メモリー再生はできない。	「パソコンに画像を取り込んで楽しもう!」4ページ

* 警告表示／お知らせメッセージが出るときに、「おしらせブザー」が鳴ります。

ビデオカセットについて

使えるビデオカセット

本機はDV方式のビデオカメラレコーダーです。本機には、ミニDVカセットのみ使えます。Mini DVマークのついたカセットをお使いください。*

8、Hi8方式や、VHS、VHSC、S-VHS、S-VHSC、β、ED Beta、DV、D8、MICROMV方式のビデオカセットは使えません。

* ミニDVカセットには、カセットメモリー付きのものと、カセットメモリーなしのものがあります。カセットメモリー付きカセットにはCM（Cassette Memory）マークが付いています。本機ではカセットメモリー付きのものを推奨しています。

  カセットメモリー付きのカセットは、カセット自体にICメモリーを内蔵しています。本機はこのICメモリーを利用して、画像情報（録画日時、タイトルなど）を書き込んだり、呼び出したりします。
  カセットメモリー機能は、テープ上に記録された信号を基準にして動作します。テープの始めや途中に一度無記録部分を作ると、信号が不連続になり、タイトルが間違って表示されたり、サーチが誤動作することがあります。無記録部分を作らないために、下記の操作を行ってください。

撮影の途中でテープを出し入れしたり、テープを再生したり、またはエディットサーチを使った場合には、次の撮影の前にエンドサーチボタンを押し、撮影終了位置に戻す。

無記録部分があったり、テープ上の信号が不連続なものは、左記の点に注意して新たにテープの最初から最後まで撮影すれば、カセットメモリー機能を正しくお使いいただけます。
カセットメモリー機能付きデジタルビデオカメラレコーダーで録画したテープの上に、機能なしカメラレコーダーで録画したときも同じ症状が出ることがあります。

著作権保護信号について

再生するとき

本機で再生されるカセットに著作権保護のための信号が記録されている場合には、他機をつないで本機の画像を記録するとき、記録が制限されることがあります。

記録するとき

著作権保護のための信号が記録されている映像音声は本機で記録することはできません。
このような映像音声を記録しようとすると液晶画面またはファインダーに「ダビングプロテクトされています 録画できません」の表示が現れます。

なお、ビデオカメラで撮影した画像には、著作権保護のための信号は記録されません。

カセットのCM 4Kマークについて
この表示は、このカセットで4キロビットまでメモリーができることを示します。なお、本機は16キロビットのカセット（CM 16Kマークが本体正面についています）まで対応しています。

これらは商標です。

ミニDVカセットのマークです。

カセットメモリーのマークです。

その他

ビデオカセットについて（つづき）

音声多重記録テープを再生するとき

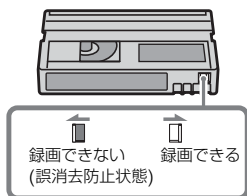
ステレオ音声で二重音声を記録したテープを再生するときは、下の表のように必要に応じてメニューの[V]で「バイリンガル」を設定してください（128ページ）。

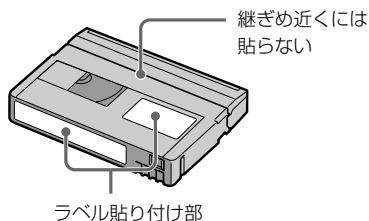
「バイリンガル」の設定	再生される音声	
	ステレオを記録したテープ	二重音声を記録したテープ
「切」にする	ステレオ音声	主音声＋副音声
「メイン」にする	左音声	主音声
「サブ」にする	右音声	副音声

本機では二重音声は記録できません。

カセットについてのご注意

間違って消さないために

カセットの背にある誤消去防止ツマミをスライドし、「SAVE」にします。

ラベルは指定の位置に

カセットにラベルを貼るときは、指定の位置に正しくお貼りください。指定外の位置に貼ると、故障の原因になります。

カセットの使用後は

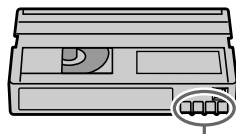
ご使用後は必ずテープを巻き戻してください。（画像や音声が乱れる原因となります。）巻き戻したテープはケースに入れ、立てて保管してください。

カセットメモリー機能が働かないときは

カセットを入れ直してください。金メッキ端子にゴミなどが付着して機能が働かないことがあります。

金メッキ端子のお手入れ

カセットの金メッキ端子が汚れたり、ゴミが付着したりすると、テープ残量表示などが正しく表示されなかったり、カセットメモリーを使う機能などが正しく働かないことがあります。

カセットの取り出し回数10回を目安にして、綿棒でカセットの金メッキ端子をクリーニングしてください。

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーについて

本機は“インフォリチウム”バッテリー（Mシリーズ）対応です。それ以外のバッテリーはお使いになれません。“インフォリチウム”バッテリーMシリーズには InfoLITHIUM M SERIES マークがついています。

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーとは？

“インフォリチウム”バッテリーは、本機や別売りのACアダプター/チャージャーとの間で、使用状況に関するデータを通信する機能を持っているリチウムイオンバッテリーです。

“インフォリチウム”バッテリーが、本機の使用状況に応じた消費電力を計算してバッテリー残量を分単位で表示します。別売りのACアダプター/チャージャーを使用すると、使用可能時間や充電終了時間も計算して表示します。

充電について

- 本機をご使用になる前には、必ずバッテリーを充電してください。
- 周囲の温度が10～30℃の範囲で、CHG（充電）ランプが消えるまで充電することをおすすめします。これ以外では効率のよい充電ができないことがあります。
- 充電終了後は、ACアダプターを本機のDC IN端子から抜くかバッテリーを取りはずしてください。

バッテリーの上手な使いかた

- 周囲の温度が10℃未満になるとバッテリーの性能が低下するため、使用できる時間が短くなります。安心してより長い時間ご使用いただくために、次のことをおすすめします。
  - バッテリーをポケットなどに入れてあたたかくしておき、撮影の直前、本機に取り付ける。
  - 高容量バッテリー「NP-FM50/FM70/QM70/QM71/QM71D/FM91/QM91/QM91D（別売り）」を使用する。
- 液晶画面の使用や再生/早送り/巻き戻しなどを頻繁にすると、バッテリーの消耗が早くなります。高容量バッテリー「NP-FM50/FM70/QM70/QM71/QM71D/FM91/QM91/QM91D（別売り）」のご使用をおすすめします。
- 本機で撮影または再生中は、こまめに電源スイッチを切るようにしましょう。撮影スタンバイ状態や再生一時停止中でもバッテリーは消耗しています。
- 撮影には予定撮影時間の2～3倍の予備バッテリーを準備して、事前に試し撮りをしましょう。
- バッテリーは防水構造ではありません。水などにぬらさないようにご注意ください。

次のページへつづく

バッテリーの残量表示について

- バッテリーの残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる場合は、再度満充電してください。残量が正しく表示されます。ただし長時間高温で使用したり、満充電で放置した場合や、使用回数が多いバッテリーは正しい表示に戻らない場合があります。撮影時間の目安としてお使いください。
- バッテリー残量時間が約5〜10分でも、ご使用状況や周囲の温度環境によってはバッテリー残量が残り少なくなったことを警告するマークが点滅することがあります。

バッテリーの保管方法について

- バッテリーを長期間使用しない場合でも、機能を維持するために1年に1回程度満充電にして本機で使い切ってください。本機からバッテリーを取りはずして、湿度の低い涼しい場所で保管してください。
- 本機でバッテリーを使い切るには、カセットを入れずに電源が切れるまで撮影スタンバイにしてください。

バッテリーの寿命について

- バッテリーには寿命があります。使用回数を重ねたり、時間が経過するにつれバッテリーの容量は少しずつ低下します。使用できる時間が大幅に短くなった場合は、寿命と思われますので新しいものをご購入ください。
- 寿命は、保管方法、使用状況や環境、バッテリーパックごとに異なります。

InfoLITHIUM（インフォリチウム）はソニー株式会社の商標です。

i.LINK（アイリンク）について

本機のDV端子はi.LINKに準拠したDV端子です。ここでは、i.LINKの規格や特長について説明します。

i.LINKとは？

i.LINKはi.LINK端子を持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などのデータを双方向でやりとりしたり、他機をコントロールしたりするためのデジタルシリアルインターフェースです。

i.LINK対応機器は、i.LINKケーブル1本で接続できます。多彩なデジタルAV機器を接続して、操作やデータのやりとりができることが考えられています。

複数のi.LINK対応機器を接続した場合、直接つないだ機器だけでなく、他の機器を介してつながれている機器に対しても、操作やデータのやりとりができます。

ただし、接続する機器の特性や仕様によっては、操作のしかたが異なったり、接続しても操作やデータのやりとりができない場合があります。

ご注意

i.LINKケーブルで本機と接続できる機器は通常1台だけです。複数接続できるDV対応機器と接続するときは、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

i.LINK（アイリンク）はIEEE1394の親しみやすい呼称としてソニーが提案し、国内外多数の企業からご賛同いただいている商標です。

IEEE1394は電子技術者協会によって標準化された国際標準規格です。

i.LINKの転送速度について

i.LINKの最大データ転送速度は機器によって違い、以下の3種類があります。

S100（最大転送速度　約100Mbps*）
S200（最大転送速度　約200Mbps）
S400（最大転送速度　約400Mbps）

転送速度は各機器の取扱説明書の「主な仕様」欄に記載され、また、機器によってはi.LINK端子周辺に表記されています。

本機のように特に転送速度の記載がされていない機器の最大転送速度は「S100」です。

最大データ転送速度が異なる機器と接続した場合、転送速度が表記と異なることがあります。

* Mbpsとは？
「Mega bits per second」の略で「メガビーピーエス」と読みます。1秒間に通信できるデータの容量を示しています。
100Mbpsならば
100メガビットのデータを送ることができます。

本機でのi.LINK操作は

他のDV端子付きビデオとつないでダビングする方法については66、77ページをご覧ください。

また、本機はビデオ機器以外のソニー製i.LINK（DV端子）対応機器（パーソナルコンピュータVAIOシリーズなど）とも接続してご使用になれます。

なお、デジタルテレビ、DVD、MICROMVなどの映像機器には、i.LINK端子を搭載しながらも、DV機器には対応していない仕様のものがあります。接続の際はあらかじめDV対応の有無をご確認ください。

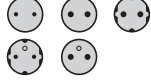
接続の際のご注意および、本機に対応したアプリケーションソフトの有無などについては、接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

必要なi.LINKケーブル

ソニーのi.LINKケーブルをお使いください。

4ピン←→4ピン（DVダビング時）

i.LINK、iは商標です。

海外で使う

本機は海外でもお使いになれます。

付属のACアダプターは、全世界の電源（AC100V～240V・50/60Hz）でお使いいただけます。

また、バッテリーも充電できます。ただし、電源コンセントの形状の異なる国または地域では、**電源コンセントにあった変換プラグアダプターをあらかじめ旅行代理店でおたずねの上、ご用意ください。**

電子式変圧器（トラベルコンバーター）はご使用にならないでください。故障の原因となることがあります。

海外のコンセントの種類

壁のコンセントの形状例	主に北米	主にヨーロッパなど
使用する変換プラグアダプター	不要です。ACアダプターのプラグを直接差し込みます。	

再生画像を見るには、日本と同じカラーテレビ方式（NTSC）で、映像/音声入力端子付きのテレビ（またはモニター）および接続ケーブルが必要です。

日本と同じカラーテレビ方式（NTSC）を採用している国または地域（五十音順）

- アメリカ合衆国
- エクアドル
- エルサルバドル
- ガイアナ
- カナダ
- キューバ
- グアテマラ
- グアム
- コスタリカ
- コロンビア
- スリナム
- セントルシア
- 大韓民国
- 台湾
- チリ
- ドミニカ
- トリニダードトバコ
- ニカラグア
- ハイチ
- パナマ
- バミューダ
- バルバドス
- フィリピン
- プエルトリコ
- ベネズエラ
- ペルー
- 米領サモア
- ボリビア
- ホンジュラス
- ミクロネシア
- ミャンマー
- メキシコ

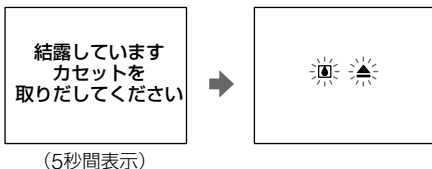
時差補正機能について

海外でお使いになるときはメニューのETCで「時差補正」を選ぶと、時差を設定するだけで時刻を現地時間に合わせることができます。詳しくは134ページをご覧ください。

お手入れ

結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の心臓部であるヘッドやテープ、レンズに水滴が付くことです。テープがヘッドに貼り付いて、ヘッドやテープを傷めたり、故障の原因になります。結露が起こると、下のように警告表示が出ます。ただし、レンズの結露では表示は出ません。

（5秒間表示）

結露が起きたときは

カセットは直ちに取り出してください。警告表示が出ている間は、開く/⏏カセット取出しつまみ以外は働きません。
電源を切ってカセットぶたを開けたまま、結露がなくなるまで（約1時間）放置してください。電源を入れてもお知らせメッセージが出ず、カセットを入れてビデオ操作ボタンを押しても結露表示または⏏が点滅しなければ使用できます。

結露気味のときは、本機が結露を検出できないことがあります。このようなときは、カセットぶたを開けてから約10秒間カセットが出てこないことがありますが、故障ではありません。カセットが出てくるまでカセットぶたを閉めないでください。

結露が起こりやすいのは

次のように、温度差のある場所へ移動したり、湿度の高い場所で使うときです。

- スキー場のゲレンデから暖房の効いた場所へ持ち込んだとき
- 冷房の効いた部屋や車内から暑い屋外へ持ち出したとき
- スコールや夏の夕立のあと
- 温泉など高温多湿の場所

結露を起こりにくくするために

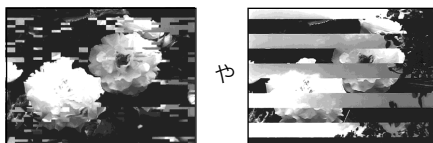
本機を温度差の激しい場所へ持ち込むときは、ビニール袋に空気が入らないように入れて密封します。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

ヘッドをきれいにする

ビデオヘッドが汚れると、正常に録画できなかったり、ノイズの多い再生画像になったり、音声が途切れたりします。
次のような症状になったときは、別売りの乾式クリーニングカセットDVM-12CLDを10秒間使ってヘッドをきれいにしておきましょう。

- 再生画面に四角いノイズが出る。
- 再生画面の一部が動かない。
- 再生画像が出ない。
- 再生画像の音が途切れる。
- 録画中に「⊗ヘッドが汚れています」と「クリーニングカセットをつかってください」の表示が交互に出る。

ビデオヘッドが汚れているときの画像

や

ビデオヘッドがさらに汚れると青一色の画面になります。このような画像になったら、クリーニングカセットをお使いください。

ビデオヘッドは

長時間使用すると摩耗します。クリーニングカセットを使っても鮮明な画像に戻らないときは、ヘッドの摩耗が考えられます。このときは、ヘッドの交換が必要です。テクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせください。

液晶画面をきれいにする

液晶画面に指紋やゴミがついて汚れたときは、付属のクリーニングクロスを使ってきれいにすることをおすすめします。

別売りの液晶クリーニングキットを使用するときは、クリーニングリキッドを直接液晶画面にかけず、必ずクリーニングペーパーに染み込ませてご使用ください。

レンズのお手入れおよび保管について

- レンズ面に指紋などがついたときや、高温多湿の場所や海岸など塩の影響を受ける環境で使用したときは、必ず柔らかい布などでレンズの表面をきれいに拭いてください。
- 風通しの良い、ゴミやほこりの少ない場所に保管してください。

カビの発生を防ぐために、上記のお手入れは定期的に行なってください。また本機を良好な状態で長期にわたってご使用いただくためにも、月に1回程度、本機の電源を入れて操作することをおすすめします。

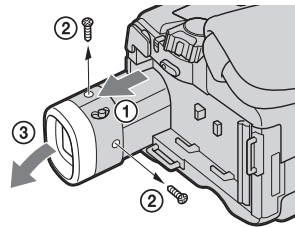
内蔵の充電式ボタン電池について

本機は日時や各種の設定を電源の入/切と関係なく保持するために充電式ボタン電池を内蔵しています。充電式ボタン電池は本機を使用している限り常に充電されていますが、使う時間が短いと徐々に放電し**4か月**近くまったく使わないと完全に放電してしまいます。充電してからご使用ください。
ただし、充電式ボタン電池が充電されていない場合でも、日時を記録しないのであれば本機を使うことはできます。

充電方法

本機を付属のACアダプターを使ってコンセントにつなぐか、充電されたバッテリーを取り付け、電源スイッチを「切（充電）」にして24時間以上放置する。

ファインダーをきれいにする

1 ① **ファインダーをのばす。**
② **下側と側面のねじをはずす。**
③ **アイカップをはずす。**

アイカップの軸を落としたり、曲げたり、ケガをしないようにご注意ください。

2 **アイカップの内側、ファインダー内部のゴミを、カメラ用のブロワーブラシなどで取り除く。**

3 **❶と逆の手順でアイカップを取り付ける。**

画面調整（キャリブレーション）について

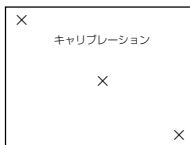
タッチパネルのボタンを押したとき、反応するボタンにずれが生じることがあります。このような症状になったときは、次の操作を行ってください。

❶ 電源スイッチを「切（充電）」にする。

❷ テープを取り出して、接続ケーブル類をはずす。

❸ 本体の画面表示/バッテリーインフォボタンを押しながら、電源スイッチを「ビデオ」にする。その後約5秒間画面表示/バッテリーインフォボタンを押し続ける。

❹ “メモリースティック”の角などを使って、画面に表示される×マークを押す。

×マークの位置は変わります。

正しい位置を押さなかった場合、やり直しになります。

ご注意

液晶画面を外側に向けたときは、キャリブレーションできません。

その他

保証書とアフターサービス

保証書

この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。所定事項の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保管してください。
このデジタルビデオカメラレコーダーは国内仕様です。外国で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

「故障かな？と思ったら」の項を参考にして故障かどうかお調べください。

それでも具合の悪いときは

テクニカルインフォメーションセンター（裏表紙）にお問い合わせください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社はデジタルビデオカメラレコーダーの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、テクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。
その際、交換した部品は回収させていただきます。

主な仕様

システム

録画方式	回転2ヘッドヘリカルスキャン
録音方式	回転2ヘッド 12ビット32kHz （ステレオ1、ステレオ2） 16ビット48kHz（ステレオ）
映像信号	NTSCカラー、EIA標準方式
使用可能カセット	Mini DVマークのついたミニDVカセット
テープ速度	SP：約18.81mm/秒 LP：約12.56mm/秒
録画/再生時間	SP：60分（DVM60使用時） LP：90分（DVM60使用時）
早送り、巻き戻し時間	約2分40秒（DVM60使用時）
ファインダー	電子ファインダー：カラー
撮像素子	3.8mm（1/4.7型）CCD固体撮像素子 総画素数：約107万画素 静止画時有効画素数：約100万画素 動画時有効画素数：約69万画素
ズームレンズ	カール ツァイス 10倍（光学）、120倍（デジタル） f=3.7〜37mm （35mmカメラ換算では 「カメラ」時：50〜500mm 「メモリー」時：42〜420mm） F1.8〜2.0 フィルター径30mm
色温度切り換え	オート、 ホールド、 オクナイ（3 200K）、 オクガイ（5 800K）
最低被写体照度	15 lx（ルクス）（F1.8） 0 lx（ルクス）（NIGHTSHOT時）

入・出力端子

S1映像端子	入力/出力自動切り換え Y出力　1Vp-p 75Ω不平衡 C出力　0.286Vp-p 75Ω不平衡
映像/音声端子	AVミニジャック 入力/出力自動切り換え 映像：1Vp-p、75Ω不平衡 音声：327mV（47kΩ負荷時）、 入力インピーダンス47kΩ以上 出力インピーダンス2.2kΩ以下
ヘッドホン端子	ステレオミニジャック（Ø3.5）
USB端子	mini-B
LANC端子	ステレオミニミニジャック（Ø2.5）
MIC（マイク）入力端子	ステレオミニジャック（Ø3.5）
DV端子	i.LINK（IEEE1394．4ピンコネクターS100）

液晶画面

画面サイズ	6.2cm（2.5型）
総ドット数	123 200ドット 横560×縦220

電源部、その他

電源電圧	バッテリー端子入力　7.2V DC端子入力　8.4V
消費電力（バッテリー使用時）	3.3W （ファインダー使用時、明るさ標準） 4.1W （液晶画面使用時、明るさ標準）
動作温度	0°C〜+40°C
保存温度	–20°C〜+60°C
外形寸法（最大突起部を除く）	71×90×112 （幅×高さ×奥行き）
本体質量	約540g（本体のみ）
撮影時総質量*	約630g * バッテリーNP-FM30、テープ（DVM60）、レンズキャップ含む。
付属品	レンズキャップ（1） シューカバー（1） ワイヤレスリモコン（1） 単3形乾電池（リモコン用）（2） AV接続ケーブル（1） クリーニングクロス（1） 取扱説明書（1） パソコンに画像を取り込んで楽しもう！（1） 安全のために（1） 保証書（1） “メモリースティック”（8MB）（1） ACアダプター（1） 電源コード（1） バッテリーパック NP-FM30（1） USBケーブル（1） CD-ROM（SPVD-010 USBドライバ）（1）

次のページへつづく

主な仕様（つづき）

ACアダプター　AC-L15A/L15B

電源	AC100～240V、50/60Hz
消費電力	18W
定格出力	DC8.4V、1.5A
動作温度	0℃～+40℃
保存温度	–20℃～+60℃
外形寸法（最大突起部をのぞく）	約56×31×100mm（幅×高さ×奥行き）
質量	約190g（本体のみ）

リチャージャブルバッテリーパック NP-FM30

最大電圧	DC8.4V
公称電圧	DC7.2V
容量	5.0wh（700mAh）
最大外形寸法	約38.2×20.5×55.6mm（幅×高さ×奥行き）
質量	約65g
使用温度	0℃～+40℃
使用電池	Li-ion

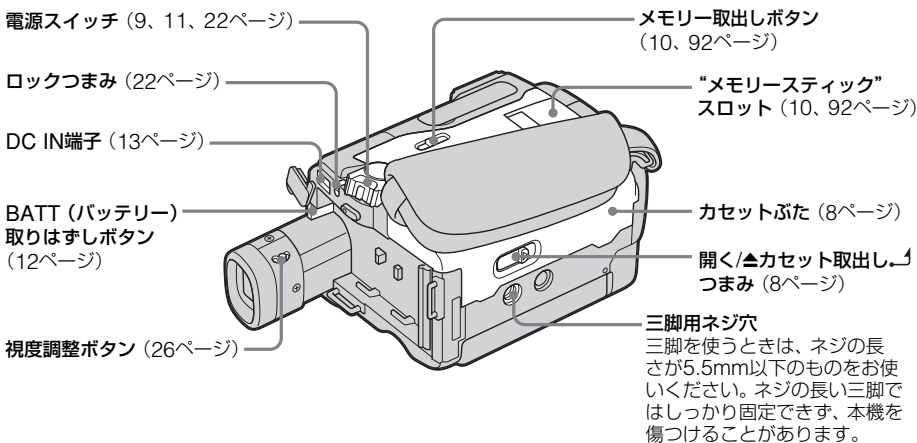
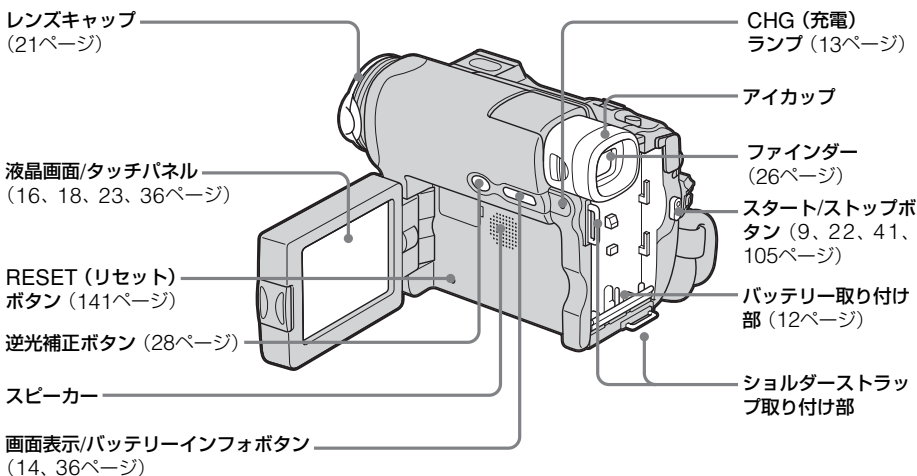
“メモリースティック”

メモリーの種類	フラッシュメモリー 8Mバイト　MSA-8A
動作電圧	2.7V～3.6V
消費電流	動作時平均：約45mA スタンバイ時：約130μA
外形寸法	約50×2.8×21.5mm（幅×高さ×奥行き）
本体質量	約4g

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

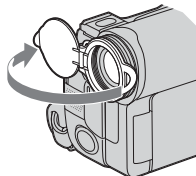
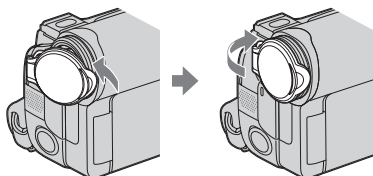
各部のなまえ

使いかたの説明は、（　）内のページにあります。

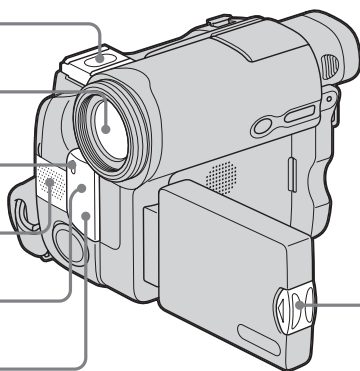
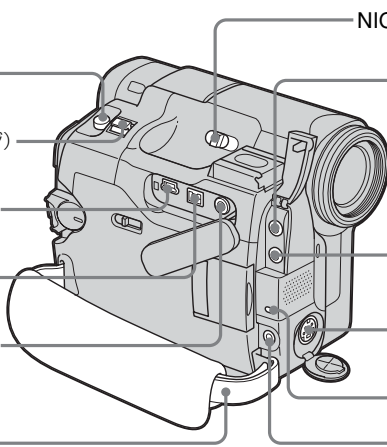
本体

レンズキャップ（付属）の取り付けかた

❶ 溝に合わせる。

❷ パチンと音がするまで押し込む。

撮影するときは、下の図のようにキャップを開きます。

ご注意

レンズキャップが、マイクや赤外線発光部にかからないようにご注意ください。

次のページへつづく

ヘッドホンを使うと
スピーカーから音は出ません。

Intelligent Accessory Shoe

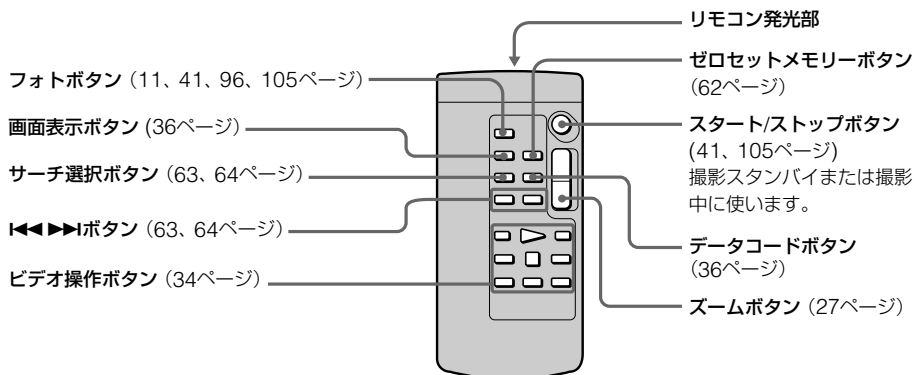
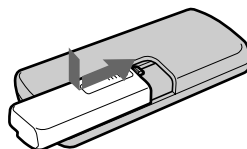
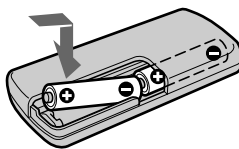
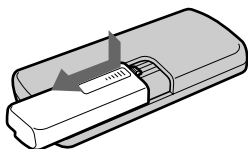
インテリジェントアクセサリーシューについて
- 別売りの専用マイクやビデオライトなどをお使いになると、本機から電源を供給できます。
- 本機の電源スイッチに連動して、アクセサリーの電源の入/切ができます。（お使いになるアクセサリーの取扱説明書もあわせてご覧ください。）
- 取り付けたアクセサリーがはずれて落ちたりしないように、はずれにくい構造になっています。アクセサリーを取り付けるときは、押しながら奥まで差し込み、取り付けネジを確実に締め付けてください。
- アクセサリーを取りはずすときは、取り付けネジをゆるめ、上から押しながらはずしてください。

LANCマークについて
は、LANC端子のマークです。LANC端子とは、ビデオ機器と周辺機器を接続し、テープ走行などをコントロールできるようにした端子です。

別売りの外部マイクを使う場合
MIC（PLUG IN POWER）端子はプラグインパワー方式の外部マイク用電源端子とマイク入力端子が兼用になった端子です。

ワイヤレスリモコン

電池の入れかた

❶ 押しながらずらす。 ❷ 入れる。

❸ 元に戻す。

リモコンについて

- 本体のリモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光があたらないようにご注意ください。リモコン操作ができないことがあります。
- 付属のリモコンで本機を操作しているときに、他のビデオデッキが誤動作することがあります。その場合、ビデオデッキのリモコンモードスイッチをVTR2以外のモードに切り換えるか、黒い紙でリモコン受光部をふさいでください。

各部のなまえ（つづき）

ファインダーと液晶画面の表示

索引

カスタマーご登録のご案内

ソニーではハンディカムをお買い上げの皆様へのサポートをより充実させていくため、お客様に「カスタマーご登録」をお勧めしています。詳しくは付属の「デジタルイメージング カスタマーご登録のお勧め」をご覧ください。

■カスタマーご登録およびご登録内容の変更はこちらのホームページから
http://www.sony.co.jp/di-regi/

■カスタマーご登録に関するお問い合わせは
ソニーマーケティング（株）カスタマー専用デスク
電話： 0466-38-1410
受付時間： **月～金曜日　午前10時～午後6時**
（ただし、年末、年始、祝日を除く）

電話のおかけ間違いにご注意ください。

お問い合わせ窓口のご案内

電話のおかけ間違いにご注意ください。

■ デジタルイメージングカスタマーサポート
デジタルハンディカムとパソコンの接続方法や、最新サポート情報をご案内するホームページです。
http://www.sony.co.jp/support-di/

■ テクニカルインフォメーションセンター
ご使用上での不明な点や技術的なご質問のご相談、および修理受付の窓口です。

製品の品質には万全を期しておりますが、万一不具合が生じた場合は、「テクニカルインフォメーションセンター」までご連絡ください。修理に関するご案内をさせていただきます。
また修理が必要な場合は、お客様のお宅まで指定宅配便にて集荷にうかがいますので、まずお電話ください。
電話： 0564-62-4979
受付時間： **月～金曜日　午前9時～午後5時**
（ただし、年末、年始、祝日を除く）
お電話される前にあらかじめ以下の内容をご用意いただきますとより迅速な対応が可能になります。
① お客様のID
（既にカスタマーご登録されたお客様にはIDが発行されています）
② 本機の型名（DCR-TRV33）および製造番号
（保証書などに記載されています）

■ ハンディカムスクエア
ハンディカムの活用法やアクセサリー情報、パソコンへの画像取りこみ方法を掲載しています。
http://www.sony.co.jp/cam/

ソニー株式会社　〒141-0001　東京都品川区北品川6-7-35
http://www.sony.co.jp/

この説明書は100%古紙再生紙とVOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキを使用しています。

Printed in Japan